五勺	方一寸六分深一寸二分六厘六	三千二百四十個餘同			
水量	寸	法	立方分	木厚	製作品
一升	方四寸九分深二寸七分		六萬四千八百二十七個	四分	木品槍
五合	方三寸九分五厘深二寸〇七厘七五		三萬二千四百十四個餘	四分	同
二合五勺	方三寸〇五厘深一寸七分四厘二		一萬六千二百〇四個餘	四分	同
一合	方二寸一分深一寸四分七厘		六千四百八十二個餘	四分	同
五勺	方一寸六分深一寸二分六厘六		三千二百四十個餘	二分	同
通計	舊器穀量七種水量四種新器穀量七種水量五種				
舊器斗概圖 舊器桿秤圖 新器桿秤圖	略之				

舊器桿秤量

千木秤量	盛出星點	量錘量	衡長	製作品
元上	十六貫卅二貫匁	十直ダメレ	貫匁點メ	二百百匁	二貫匁	六尺五寸	衡錘	衡帶銑 白純鐵 極銅
元上	十二貫廿六貫匁	五直	貫匁點	百二百匁	一貫五百匁	六尺	同
元上	八貫十六貫匁	五直	貫匁點	二百百匁	一貫匁	五尺五寸	同
元上	五貫十一貫匁	三直	貫匁點	五十百匁	七百匁	四尺	同
元上	三貫六貫匁	一直	貫匁點	二十百匁	五百匁	三尺	同
元上	一貫二百三貫五百匁	一直	貫匁點	十二匁	三百匁	二尺五寸	同
元上	一貫二百匁	五直	百匁點	十二匁	百五十匁	二尺	同
元上	二貫匁	二直	百匁點	十二匁	百五十匁	二尺	同

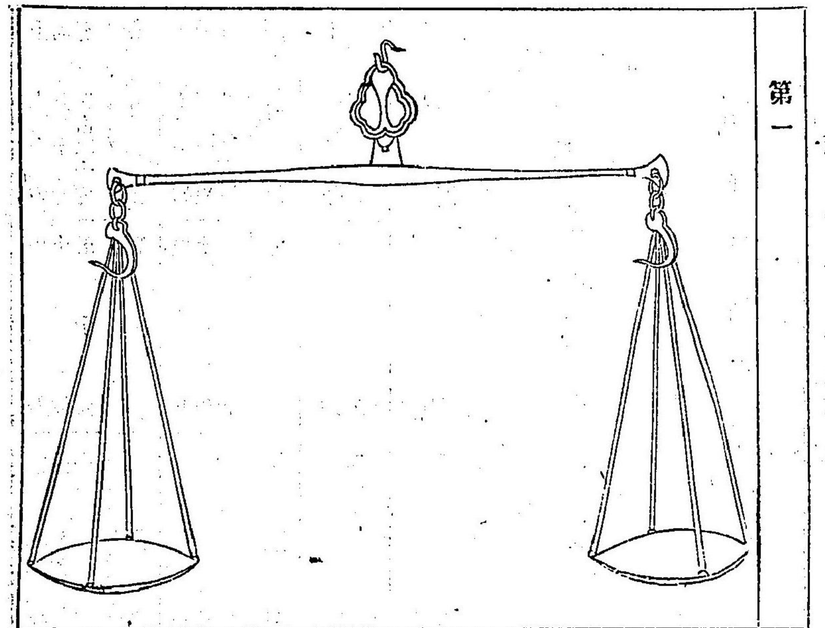
新器桿秤量								
匣秤量	盛出	星點量	錘量	衡長	製作品			
元上五一勿二分勿	一直勿點	二一匣匣	一勿四分	一尺五分	衡皿錘黃銅角			
元上三六勿分	五直分點	二一匣匣	一勿	六寸	同			
元上廿十六二貫勿	十直貫勿點	二百百勿勿	二貫勿	六尺五寸	衡錘帶白樫黃銅			
元上廿十六二貫勿	五直貫勿點	二百百勿勿	一貫五百勿	六尺	同			
元上十八六貫勿	五直貫勿點	二百百勿勿	一貫勿	五尺五寸	同			
元上十五一貫勿	三直貫勿點	百五十勿勿	七百勿	四尺	同			
元上六三貫勿	一直貫勿點	百二十勿勿	五百勿	三尺	同			

鉢皿秤量	盛出	星點量	錘量	衡長	製作品
元前上二五一貫百百勿勿	五百直百勿勿點	十二一勿勿	八十勿	一尺八寸	衡皿錘赤樫黃銅褐銅
元前上八二五百十百五十勿勿勿	百五直十勿勿點	十二一勿勿	六十勿	一尺六寸	同
元前上五百六三百五十十勿勿勿	百五直十勿勿點	十二一勿勿	三十勿	一尺二寸	同
元前上二五一貫百百二百勿勿勿	五百直百勿勿點	十五一勿勿	六十勿	一尺四寸	衡錘赤樫銅褐
元前上十五百五百六十十勿勿勿	五直十勿勿點	一二一分分勿	八勿五分	七寸五分	衡皿錘角銅黃
元前上十五百五百六十十勿勿勿	五十直十勿勿點	一二一分分勿	十一勿	一尺五分	衡皿錘黑柿黃銅

銀秤量	元前上一百五十兩二百五十匁	鍵秤量	元前上三百五十匁	元前上二百五十匁	元前上一百五十匁	鈔皿秤量	元上一百二匁	元上二百一匁	元上三百一匁二百五匁
盛出	五百直百匁點	盛出	百五直十匁點	百五直十匁點	五百直百匁點	盛出	二直百匁點	五直百匁點	一直匁點
星量	十五一匁	星量	十二一匁	十二一匁	十二一匁	星量	十二匁	二十匁	二十匁
錘量	六十匁	錘量	三十匁	六十匁	八十匁	錘量	百五十匁	百五十匁	三百匁
衡長	一尺四寸	衡長	一尺二寸	一尺六寸	一尺八寸	衡長	二尺	二尺	二尺五寸
製作品	錘衡黃赤銅樫	製作品	同	同	錘皿衡黃赤銅樫	製作品	同	同	同

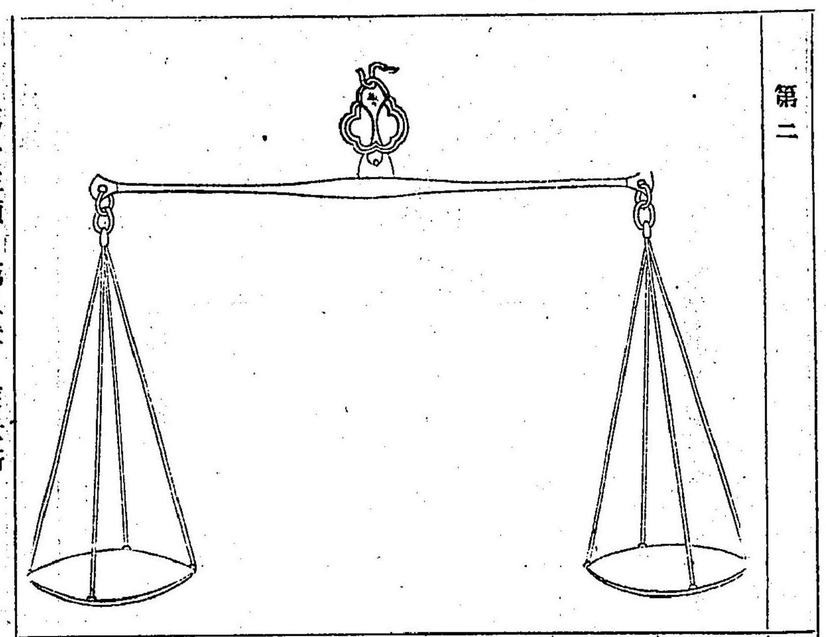
銀秤量	元前上五十兩二百五十匁	錘秤量	元前上七十五匁	元前上五十七匁	元前上一百五十匁	厘秤量	元上一匁二分	元上六匁三分	通計
盛出	五十直十匁點	盛出	五十直十匁點	五十直十匁點	一直匁點	盛出	一直匁點	五直匁點	舊新器共一十六種
星量	二一匁分	星量	二一匁分	一二一匁分	二一厘	星量	二一厘	一厘	
錘量	七十八匁（本錘七匁但元錘ヲ增ス八匁增）	錘量	一匁	十匁	一匁四分	錘量	一匁四分	一匁	
衡長	七寸五分	衡長	一尺五分	一尺五分	一尺五分	衡長	一尺五分	六寸	
製作品	錘皿衡黃銅角	製作品	錘皿衡黑柿黃銅	錘皿衡黃銅角	同	製作品	同	同	舊天秤圖并量 新

第一

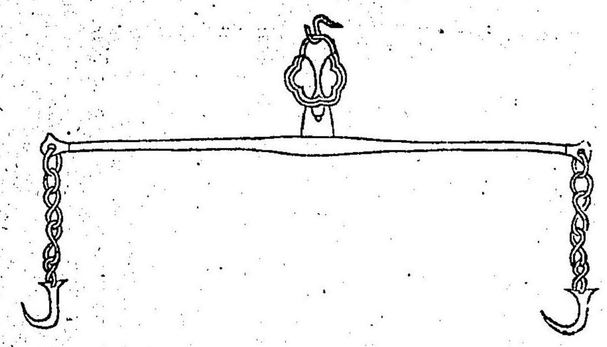


分銅量	衡長	製作品
一匁ヨリ十貫匁迄	四尺五寸	全部黃銅
一匁ヨリ五貫匁迄	三尺五寸	同
一匁ヨリ三貫匁迄	三尺	同
一匁ヨリ二貫五百匁迄	二尺五寸	同
一匁ヨリ二貫匁迄	二尺	同
一匁ヨリ一貫五百匁迄	一尺七寸	同
一匁ヨリ一貫匁迄	一尺六寸	同

第二



分銅量	衡長	製作品
一分ヨリ一貫匁迄	一尺六寸	全部黃銅
一分ヨリ五百匁迄	一尺三寸五分	同
一分ヨリ五百匁迄	一尺二寸	同
一分ヨリ五百匁迄	一尺五分	同
一分ヨリ百六十匁迄	一尺二寸	同
一分ヨリ二百匁迄	九寸	同
五匣ヨリ百二十匁迄	七寸	同

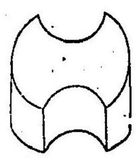
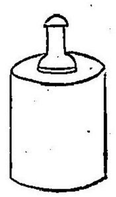


分銅量	衡長	製作品
一分ヨリ六十匁迄	一匁ヨリ五百匁迄	全部黃銅
一尺	一尺四寸	同

通計

舊新器共一十六種

舊新分銅圖

舊器	新器
	
褐銅製	黃銅製
種類若干	

○度量衡檢査規則 八年達第百三十五號

度量衡取締條例附屬

度量衡檢査規則

尺度檢査

尺度ノ檢査ハ舊器新器共渾發ヲ以テ之ヲ檢査スヘシ其法渾發ヲ以テ檢査スル所ノ尺度ヲ挾ミ其挾ム所ノ長サヲ檢査スル所ノ尺度ノ長サトシ之ヲ曲尺及鯨尺ノ原器ニ當テ、試驗スルニ其挾ム所ノ長サ曲尺ノ原器ニ適合スル者ハ檢査スル所ノ尺度之ヲ曲尺ト定メ其挾ム所ノ長サ鯨尺ノ原器ニ適合スル者ハ之ヲ鯨尺ト定メ乃チ其器ヲ正當トシ以テ各々檢印ヲ捺押シ且尺名印曲尺ハ曲字ノ印ヲ捺押スヘシ然ルニ若シ其挾ム所ノ長サ曲尺及鯨尺ノ原器ニ適合セス長短差等ヲ生スル者ハ鯨尺ハ鯨字ノ印ヲ捺押スヘシ然ルニ若シ其挾ム所ノ長サ曲尺及鯨尺ノ原器ニ適合セス長短差等ヲ生スル者ハ檢査スル所ノ尺度之ヲ不正トシ以テ捺印スヘカラス

舊器斗量檢査

舊器斗量ノ檢査ハ斗量ノ原器ト漏斗トヲ用ヒ舂キ精ケタル粟粒ヲ以テ之ヲ檢査スヘシ其法檢査スル所ノ器假名檢器一斗枡ナレハ左圖ノ如ク先ツ一斗枡ノ原器ヲ採リ漏斗ノ前位ニ於テ之ヲ盆上ニ据ヘ枡ノ中心ト漏斗口トヲシテ上下相向ハシメ受筴ヲ以テ枡ノ正上ニ据ヘ兼テ漏斗口ノ蓋ヲ鎖シ粟粒ヲ漏斗ニ入レ置クヘシ尤其量ハ本量ニ凡二割ヲ增シ凡一斗二升タル但五升ニハ六升一升ニハ一升二合如此シテ漏斗ノ蓋ヲ開キ受筴ヲ以テ其漏下スル所ノ粟粒ヲ受ケ且其受クル所ノ粟粒ヲ筴ノ底際ヨリヘシ枡ニ漏移スヘシ尤此際徐々ニ受筴ヲ轉廻シ粟粒ヲシテ枡ノ中央竝四隅ニ遍滿セシムルヲ要ス既ニ之ヲ漏移シ終レハ斗概ヲ以テ其溢粒ヲ搔キ去リ之ヲ原量ト定ムヘシ尤此際斗概ノ使用ニ於ケル其量面ヲシテ毫モ凸凹ナク斗邊ト相水平ナラシムルヲ要ス但盆上ニ散スル所ノ餘粒ハ枡ヲ撤シ次ニ檢器ノ容量ヲ求ムル亦原器ニ於テスル法ノ如クシテ檢器ノ容量ヲ得盆ヲ覆シテ以テ之ヲ他器ニ移スヘシ

之ヲ檢量ト定ムヘシ次ニ此原檢器其量ヲ互移換容センカ爲メ檢量ヲ他器ニ移シ置キ以テ原量ヲ檢器ニ移シ檢量ヲ原器ニ移スヘシ其法都テ前法ノ如ク漏斗及受筴ヲ用テ之ヲ各器ニ漏移シ既ニ之ヲ漏移シ終レハ原檢器共斗概ヲ以テ徐々ニ其量面ノ凸凹ヲ均平スヘシ此際斗概ノ使用ニ於ケル前後ノ手續キ輕重緩急極メテ不同ナキヲ要ス但斗概ヲ用フルノ後粟粒斗カニシテ溢粒盆ニ散スル者アレハ之ヲ內ニ充實シ量面斗邊ト相平拾收シテ原檢量試驗ノ參照ニ充ツヘシ既ニ之ヲ均平シ終リ乃チ原檢兩器相竝ヘテ之ヲ試驗スルニ其量各有餘不足ヲ生セサル者ハ檢査スル所ノ器之ヲ正當トシ以テ捺印ヲ捺押スヘシ然ルニ若シ其量各有餘不足ヲ生スル者ハ檢査スル所ノ器之ヲ不正トシ以テ捺印スヘカラス此餘各種ノ舊器斗量其檢査法皆之ニ準ズヘシ

但漏斗ノ製作左ノ圖面寸法ノ如クスレハ漏斗口ト一斗枡面トノ距離凡三寸許ナルヘシ故ニ餘種モ此距離ニ準セシメンカ爲メ五升枡ヨリ以下ハ其高サニ隨ヒ適宜ニ之カ畫ヲ設クヘシ

舊器斗量檢査器械竝檢査法之圖

（圖面ハ略之）

新器斗量檢査

新器斗量檢査ハ斗量尺度ヲ以テ之ヲ檢査スヘシ其法斗量尺度ヲ檢査スル所ノ斗量ノ方深及弦鐵ノ幅厚ニ當テ、精密ニ之ヲ檢査スルニ其方深及弦鐵ノ幅厚斗量尺度ニ適合スル者ハ之ヲ正當トシ以テ檢印ヲ捺押スヘシ然ルニ若シ其方深及弦鐵ノ幅厚斗量尺度ニ適合セス長短差等ヲ生スル者ハ之ヲ不正トシ以テ捺印スヘカラス

新器斗概檢査

新器斗概ノ檢査ハ斗概ノ原器ヲ以テ之ヲ檢査スヘシ其法斗概ノ原器ヲ以テ檢査スル所ノ斗概ノ圓徑及長サニ當テ、之ヲ試驗スルニ其寸法原器ニ適合スル者ハ之ヲ正當トシ以テ檢印ヲ捺押スヘシ然ルニ若シ其寸法原器ニ適合セス長短差等ヲ生スル者ハ之ヲ不正トシ以テ捺印スヘカラス

桿秤檢査

桿秤ノ檢査ハ舊器新器共先ツ其直點（タメシ）ノ正否ヲ檢査スヘシ其法錘緒ヲ以テ其直點ニ當テ、錘ヲ垂レ上緒ヲ執テ衡ヲ釣リ之ヲ試驗スルニ其衡水平ニシテ左右偏重ナキ者ハ其直點ヲ正當トスヘシ次ニ其大小諸量點ノ正否ヲ檢査スルニ各種ノ分銅自一匣至二匣ノ原器ヲ以テスヘシ其法檢査スル所ノ器五百匁掛鈔皿秤ナレハ先ツ其最小量一匁ノ分銅即原器ヲ以テ之ニ餘亦然ヲ以テ之ニ貫匁十七種掛ケ錘緒ヲ以テ其量點ニ當テ、錘ヲ垂レ上緒ヲ執テ衡ヲ釣リ之ヲ試驗スルニ其衡水平ニシテ左右偏重ナキ者ハ其量點ヲ正當トスヘシ次ニ二匁ノ分銅其次五匁ノ分銅其次十匁ノ分銅其次二十匁ノ分銅ト次ヲ逐テ各種ノ分銅ヲ掛ケ前法ノ如ク

シテ各之ヲ試驗スヘシ如此上緒ニテ衡ヲ釣リ既ニ各種ノ分銅ヲ掛ケ終レハ更ニ前緒竝元緒ニテ衡ヲ釣リ都テ上緒ニ於テスル法ノ如クシテ各種ノ分銅ヲ掛ケ之ヲ試驗スヘシ上緒前緒元緒共ニ之ヲ掛ケテ試驗スルニ直點及何レノ量點ニ於テモ其衡水平ニシテ左右偏重ナキ者ハ直點及各量點ヲ正當トシ乃チ其器ヲ正當トシ以テ檢印ヲ捺押スヘシ然ルニ若シ上緒前緒元緒ノ内其釣ル所ノ衡水平ナラス左右偏重ヲ生スル者アルトキハ其直點又ハ其量點ヲ不正トシ乃チ其器ヲ不正トシ以テ捺印スヘカラス此餘各種ノ桿秤其檢査法皆之ニ準スヘシ

但桿秤種類掛量二貫匁ニ過クル者ハ三十二貫匁掛二十六貫匁掛十六貫匁掛十一貫匁掛六貫匁掛三貫五百匁掛ノ六種ナリ然ルニ分銅ノ原器其量二貫匁ニ止マレハ大小ノ量點其半ハヲ試驗スルニ足ラス故ニ此六種ノ秤ニハ掛出ノ量點ヨリ二貫匁ノ量點迄試驗既ニ終レハ二貫匁ヨリ數十貫匁ニ至ル其間ノ量點ハ試驗之ヲ略スヘシト雖モ上緒幷元緒ノ極點上緒幷元緒最重ノ量點假令ハ三十二貫匁掛秤ハ上緒ヲ試驗スル爲メ分銅原器ニ準シテ兼テ四貫匁ノ分銅八個ヲ製シ之ヲ假原器十六貫匁ノ量點元緒三十二貫匁ノ量點ナリトシ然シテ或ハ原器種類ヲ相併セ或ハ假原器數個ヲ相併セ各秤ニ掛ケテ上緒竝元緒ノ極點ヲ試驗スルニ假令ハ三十二貫匁掛秤ニハ假原器四個相併セ掛ケテ上緒ノ極點ヲ試驗シ假原器八個相併セ掛ケテ元緒ノ極點ヲ試驗シ六貫匁掛秤ニハ二貫匁ノ原器一個一貫匁ノ原器一個相併セ掛ケテ上緒ノ極點ヲ試驗シ假原器一個二貫匁ノ原器一個相併セ掛ケテ元緒ノ極點ヲ試驗シ都テ其極點ノ量ノ如ク原器假原器ヲ合併交加シテ之ヲ掛ケ本文ニ示ス法ノ如クシテ之ヲ試驗シ以テ其器ノ正否ヲ判スヘシ

右四貫匁ノ分銅假原器ハ銅或ハ鉛ヲ以テ之ヲ製スヘシ然ノ其形狀ノ如キハ隨意タリト雖モ其量製作法ハ先ツ二貫匁ノ分銅原器二個相併セ合量四貫匁トシ銅或ハ鉛凡四貫匁量ノ者ヲ以テ之ニ對シ天秤ヲ以テ之ヲ量ル1其法次分銅檢査ノ條ニ說ク所ノ如クタルヘシ然ノ銅或ハ鉛其量輕重アル者ハ之ヲ增減シテ二貫匁ノ原器二個ト等量ナラシメ以テ之ヲ四貫匁ノ假原器ト定ムヘシ

但分銅ヲ掛クルニ緒紐ノ類ヲ以テ之ヲ掛ケンニハ其緒紐ノ類ハ所謂風袋ニテ全ク量外ナルカ故ニ別ニ之ヲ量テ量數ト分クヘシ

天秤檢査

天秤ノ檢査ハ舊器新器共分銅ノ原器ヲ以テ之ヲ檢査スヘシ其法板敷又ハ机等平坦ノ地位ヲ擇テ檢査スル所ノ天秤ヲ据ヘ象限儀ノ類ヲ以テ其天秤臺ニ當テ、之カ高低ヲ檢シ若シ高低アルトキハ片板ヲ假リ之ヲ矯メテ水平ナラシメ然ノ分銅ノ原器ヲ其左右ノ皿ニ掛クル1假令ハ左ニ百匁ノ分銅一個ヲ掛ケ右ニ五十匁ノ分銅一個二十匁ノ分銅二個十匁ノ分銅一個ヲ掛ケ左右等量ナラシメノ左右ノ皿ニ掛クル分銅ノ量ハ充分重量ヲ要ス然レトモ天秤ノ大小ト分銅種類組合ノ便宜トニ隨テ適宜ニ增減スヘシ然ノ其針口ノ感搖ヲ銳クセンカ爲メニ扣棒ヲ以テ微々ニ其鉤銅S箱ノ柱ニ掛ケテ天秤ヲ釣ル者ノ甲所ヲ連扣スヘシ連扣シ終リ眼ヲ注テ精密ニ之ヲ試驗スルニ其針口上下正直ニ相接シ其衡水平ニシテ左右偏重ナキ者ハ其器ヲ正當トシ以テ檢印ヲ捺押スヘシ然ルニ若シ其針口上下直接セス其衡水平ナラスシテ左右偏重ヲ生スル者ハ其器ヲ不正トシ以テ捺印スヘカラス

分銅檢査

分銅ノ檢査ハ舊器新器共分銅ノ原器ト天秤ノ原器トヲ以テ之ヲ檢査スヘシ其法板敷又ハ机等平坦ノ地位ヲ擇テ檢査スル所ノ天秤ヲ据ヘ象限儀ノ類ヲ以テ其天秤臺ニ當テ、之カ高低ヲ檢シ若シ高低アルトキハ片板ヲ假リ之ヲ矯メテ水平ナラシメ然ノ檢査スル所ノ分銅ヲ其左皿ニ掛ケ之ト同量ナル分銅ノ原器ヲ其右皿ニ掛ケ然ノ其針口ノ感搖ヲ銳クセンカ爲メニ扣棒ヲ以テ微々ニ其鉤銅S箱ノ柱ニ掛ケテノ甲所ヲ連扣スヘシ連扣シ終リ眼ヲ注テ精密ニ之ヲ檢査スルニ其針口上下正直ニ相接シ其衡水平ニシテ左右偏重ナキトキハ檢査スル所ノ分銅之ヲ正當トシ以テ檢印ヲ捺押スヘシ然ルニ若シ其針口上下直接セス其衡水平ナラスシテ左右偏重ヲ生スルトキハ檢査スル所ノ分銅之ヲ不正トシテ以テ捺印スヘカラス

明治八年　月

○西洋形權衡ニ極印無之分ニ用ヒタル者處分方

六年十月九日布告第三百三十八號

御國量目ヲ割直シ候西洋形權衡ニ大藏省ノ極印無之分相用候者有之ニ於テハ屹度咎メ可申付候條此旨布告候事

但螺旋機關等ニテ其概量ヲ知ルノミノ器具ハ此限ニアラサル事

○西洋形權衡製作檢査印章（十四年五月二十六日布告第三十二號）

西洋形權衡製作檢査印章左ノ通改定候條自今左ノ印章ヲ證トシ從前ノ權衡ト同樣相用フヘシ此旨布告候事

（印章ハ朱）

○桝底組製作及使用方（九年六月二十一日大藏省達乙第五十三號府縣）

新器水量枡組ノ儀度量衡種類表ニ掲載有之候圖面ノ通原器製作先般相渡候處其後右枡組ノ儀切組底ニテハ製作ノ工拙ト木材ノ良否ニ依リ底部膨脹相開候弊モ有之哉ニ相聞候條右底組ノ儀ハ打付底ニ製作イタシ候分共取交相用不苦候條此旨相達候事

○度量衡檢査員數計算表式（十四年九月二十六日農商務省達乙第九號府縣（沖繩縣ヲ除ク））

度量衡檢査員數計算表ノ儀十四年度以降別冊雛形ノ通相定候條毎半期分調製各翌月廿日限リ差立當省ヘ可差出候此旨相達候事

別冊雛形

表

用我美濃紙

裏

凡例

製作所ニケ所以上アル府縣ハ箇所限リ別廉ニ記シ

毎器小計製作所毎ノ計數ノ區ヲ設ケ末尾ニ合計ヲ寄スルノミ

紙

自明治何年何月
至同　年何月度量衡檢査員數計算表

何府縣

面

表中種類ノ區中ヘハ尺度ニテハ鐵黃銅竹木鯨骨馬骨製ノ類斗量ニテハ一斗量ヨリ五勺量ニ至ル斗概ハ大中小權衡ニテハ各其量目ヲ區別スヘシ

桿秤ノ區ヘハ千木鉞皿鏈銀厘秤ノ類分銅ノ區中ヘハ黃銅銑鐵製ノ類ヲ區別スヘシ

尺度製作所　何國何區何郡何町村

尺度種類	檢査濟員數	原價	通價
曲尺			
鯨尺			

概	斗量計

權衡製作所　何國何區何郡何町何村

桿秤種類	檢査濟員數	原價	通價

桿秤計	天秤種類	檢査濟員數	原價	通價

天秤計	分銅種類	檢査濟員數	原價	通價

尺度計	尺

斗量製作所　何國何區何郡何町何村

穀量	水量	斗量

種類	檢査濟員數	原價	通價

三器合計

	種類	檢査濟員數	原價	通價
分銅計				
尺度 曲尺				
尺度 鯨尺				
斗量 穀量				
斗量 水量				
斗量 斗概				
權衡 桿秤				
權衡 天秤				
權衡 分銅				
合計				

右ハ當府縣明治何年七月ヨリ十二月マテ一月ヨリ六月マテ度量衡檢査員數計算書面之通候也

年月日　　府縣知事令　印

農商務卿宛

○度量衡法

二十四年三月二十三日　法律第三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル度量衡法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

法律第三號

度量衡法

第一條　度量ハ尺、衡ハ貫ヲ以テ基本トス

第二條　度量衡ノ原器ハ白金「イリヂウム」合金製ノ棒及分銅トス其ノ棒ノ面ニ記シタル標線間ノ攝氏〇、一五度ニ於ケル長サ三十三分ノ十ヲ尺トシ分銅ノ質量四分ノ十五ヲ貫トス

第三條　度量衡ノ名稱命位ヲ定ムルコト左ノ如シ

度

毛尺ノ萬分ノ一

厘尺ノ千分ノ一

分尺ノ百分ノ一

寸尺ノ十分ノ一

尺

丈十尺

第十五類　第三章　度量衡

間六尺
町三百六十尺(六十間)
里一萬二千九百六十尺(三十六町)

地積

勺歩ノ百分ノ一
合歩ノ十分ノ一
歩或ハ坪六尺平方
畝三十歩
段三百歩
町三千歩

量

勺升ノ百分ノ一
合升ノ十分ノ一
升六萬四千八百二十七立方分
斗十升
石百升

衡

毛貫ノ百萬分ノ一
厘貫ノ十萬分ノ一
分貫ノ萬分ノ一
匁貫ノ千分ノ一

貫

斤百六十匁

第四條　從來慣用ノ鯨尺ハ布帛ヲ度ルトキニ限リ之ヲ用ヰルコトヲ得

鯨尺一尺ハ一尺二寸五分トシ其ノ十倍ヲ鯨尺一丈、十分ノ一ヲ鯨尺一寸、百分ノ一ヲ鯨尺一分トス

第五條　「メートル」法度量衡ハ左ニ掲クル比較ニ依リ之ヲ適法ノモノトシ本條以下ノ規定ヲ適用ス

度

毛	〇、〇〇〇〇三(「メートル」三萬三千分ノ一)	「ミリメートル」	〇、〇〇三三〇
厘	〇、〇〇〇三〇(三萬三千分ノ十)	「センチメートル」	〇、〇三三〇〇
分	〇、〇〇三〇三(三萬三千分ノ一百)	「デシメートル」	〇、三三〇〇〇

寸	〇、〇三〇三〇（三萬三千分ノ一千）	「メートル」
尺	〇、三〇三〇三（三萬三千分ノ一萬）	「デカメートル」
丈	三、〇三〇三〇（三萬三千分ノ十萬）	「ヘクトメートル」
間	一、八一八一八（十一分ノ二十）	「キロメートル」
町	一〇九〇九〇九一（十一分ノ一千二百）	
里	三九二七、二七二七三（十一分ノ四萬三千二百）	

地積

勺	〇、〇〇〇三三（三千〇二十五分ノ一）	「アール」
合	〇、〇〇三三一（三千〇二十五分ノ十）	
歩或ハ坪	〇、〇三三〇六（三千〇二十五分ノ一百）	
畝	〇、九九一七四（三千〇二十五分ノ三千）	
段	九、九一七三六（三千〇二十五分ノ三萬）	
町	九九、一七三五五（三千〇二十五分ノ三十萬）	

量

勺	〇、〇一八〇四（十三萬三千一百分ノ二千四百〇一）	「リットル」
合	〇、一八〇三九（十三萬三千一百分ノ二萬四千〇十）	「デシリットル」
		「センチリットル」

七百二十四

	三、三〇〇〇〇	
	三三、〇〇〇〇〇	
	三三〇、〇〇〇〇〇	
	三三〇〇、〇〇〇〇〇	
〇、三〇二五〇（歩）		
三〇、二五〇〇〇		
三〇二五、〇〇〇〇〇		

升	一、八〇三九一（十三萬三千一百分ノ二千四萬〇一百）	「リットル」
斗	一八、〇三九〇七（十三萬三千一百分ノ二百四十〇萬一千）	「デカリットル」
石	一八〇、三九〇六八（十三萬三千一百分ノ二千四百〇一萬）	「ヘクトリットル」

衡

毛	〇、〇〇三七五（グラム）	「ミリグラム」
厘	〇、〇三七五〇	「センチグラム」
分	〇、三七五〇〇	「デシグラム」
匁	三、七五〇〇〇	「グラム」
貫	三七五、〇〇〇〇〇	「デカグラム」
斤	六〇〇、〇〇〇〇〇	「ヘクトグラム」
		「キログラム」

第六條　度量衡ノ原器ハ農商務大臣之ヲ保管ス

農商務大臣ハ度量衡ノ原器ニ依リ副原器二組ヲ製作セシメ原器ノ代用ニ供ス

副原器ノ一組ハ農商務大臣之ヲ保管シ他ノ一組ハ文部大臣之ヲ保管ス

第七條　農商務大臣ハ副原器ニ依リ地方原器ヲ製作セシムヘシ

地方原器ハ地方長官之ヲ保管シ度量衡器檢定ノ標準ニ供スルモノトス

第八條　度量衡器ヲ製作シ修覆シ若ハ販賣セントスル者ハ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ニ願出免許ヲ受クヘシ

製作ノ免許ヲ得タル者ハ修覆及販賣ヲナスコトヲ得

免許ニ關スル年限、身元保證金其ノ他必要ナル制限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條　度量衡器ヲ製作シ修覆シ若ハ輸入シテ販賣シ又ハ營業ノ目的ニ使用スル者ハ豫メ其ノ檢定ヲ受クヘシ

營業ノ目的ニ使用スル度量衡器ハ前項檢定ノ外之ヲ修覆シタルトキ及定期間ニ於テ檢定ヲ受クヘシ

官廳、公署、官立、公立ノ諸建設場又ハ貸院、病院其ノ他之ニ類スル建設場ニ於テ賣買、授受及證明ノ爲ニ使用スル度量衡器ハ營業ノ目的ニ使用スルモノニ準ス

第十條　度量衡器ノ種類、形狀、物質、檢定ノ定期及公差、檢定スヘキ目盛及分銅ノ最小定限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條　度量衡器ノ檢定及取締ハ地方長官之ヲ管理ス

地方長官ハ市長、町村長ヲシテ其ノ市町村内ニ於ケル度量衡器ノ取締ヲ行ハシメ及其ノ檢定ニ關スル事務ヲ補助セシムルコトヲ得

第十二條　度量衡器ノ製作者、修覆者、販賣者及使用者ハ取締ノ爲ニ行フ當該吏員ノ臨檢ヲ拒ムコトヲ得ス但シ吏員ハ主任タルノ證票ヲ携帶シテ之ヲ示スヘシ

第十三條　度量衡器ノ製作、修覆及販賣ノ免許ヲ受クル者ハ免許料ヲ、檢定ヲ受クル者ハ檢定料ヲ納ムヘシ

免許料及檢定料ノ金額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條　度量衡器ノ製作者、修覆者若ハ販賣者ニシテ度量衡ニ關スル法律命令ニ違背シタルトキハ農商務大臣ハ其ノ營業免許ヲ取消スコトヲ得

第十五條　免許ヲ受ケスシテ度量衡器ヲ製作シ若ハ修覆シテ販賣シタル者ハ二十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

免許ヲ受ケスシテ度量衡器ヲ販賣シ又ハ檢定ヲ受ケサル度量衡器ヲ販賣シ若ハ之ヲ營業ノ目的ニ使用シ及吏員ノ臨檢ヲ拒ミタル者ハ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

差狂アル度量衡器ナルコトヲ知テ之ヲ販賣シ又ハ營業ノ目的ニ使用シタル者亦前項ニ同シ

第十六條　本法施行ノ細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

附則

第十七條　本法ハ明治二十六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十八條　度量衡器ノ製作ニ限リ本法施行前六箇月以内ニ之ヲ免許スルコトヲ得此ノ場合

ニ於テハ本法中製作ニ關スル條項ハ之ヲ適用ス

第十九條　從來度量衡製作及賣捌ノ免許ヲ受ケタル者ハ更ニ免許ヲ受クルコトヲ要セス本法ノ規定ニ從ヒ其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得

第二十條　從來ノ度量衡器ハ本法施行ノ日ヨリ七箇年以内ニ本法ノ規定ニ依リ其ノ檢定ヲ受クヘシ檢定ヲ經サルモノハ其ノ期限ヲ過クル後之ヲ販賣シ若ハ營業ノ目的ニ使用スルコトヲ得ス

第二十一條　從來ノ度量衡器ニシテ修覆シタルモノハ檢定ハ本法施行ノ日ヨリ七箇年ヲ限リ從來ノ檢査規則ニ依ル

第二十二條　明治八年太政官第百三十五號達度量衡取締條例並檢査規則同九年第十七號布告度量衡改定規則及西洋形權衡ニ係ル從來ノ法令ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス但シ度量衡取締條例附屬檢査規則ハ前條ノ場合ニ限リ明治三十二年十二月三十一日マテ其ノ効力ヲ有ス

●沿革要領

明治六年六月第二百廿六號布告ヲ以テ西洋形權衡檢査印章ヲ定ム○同年十月第三百三十八號布告ヲ以テ大藏省極印ナキ西洋形日本量目ノ權衡ヲ用ユルヲ禁ス○九年二月第十七號布告ヲ以テ度量衡改定規則ヲ定ム○十四年第三十二號布告ヲ以テ西洋形權衡製作檢査印章ヲ改定ス○二十四年三月法律第三號ヲ以テ度量衡法ヲ制定シ二十六年一月ヨリ施行ヲ命ス

第四章　礦業

○日本坑法（六年七月二十日布告第二百五十九號）

今般鑛山其他諸坑業ノ規則別冊ノ通改定候ニ付テハ凡坑物ニ關係ノ事件ハ工部省ニ於テ總管セシメ候條自今金屬其外諸坑物營業ノ儀都テ同省ヘ可申立候此旨布告候事

（別冊）

日本坑法

第一章　坑物

第一　正理ヲ以テ論スルトキハ凡無機物タル者ハ（生活ノ機ナキ諸物品）都テ坑業ノ部分ニ屬ス此無機物品質二類ニ分ル即第一類ハ有鑛質第二類ハ無鑛質タリ凡諸金屬ノ天然本質ヲ以テ出ル者或ハ他ノ物質ト合化シテ出ル者ハ右第一類ニ屬ス燃質物山鹽燐酸石炭美石及玉璞ノ類ハ右第二類ニ屬ス（本條擧ル所ノ有鑛質無鑛質トモ總テ是ヲ坑物ト稱ス坑山坑業坑區坑產等ミナ之ニ倣ヘ）

第二　前ニ揭記セシ物類凡日本國中ニ於テ發見スル者ハ都テ日本政府ノ所有ニシテ獨政府ノミコレヲ採用スル分義アリ

第三　築石土砂粘土其他建築耕作所用ノ諸物品ハ都テ地主タル者ノ所有トスヘシ

第四　日本ノ民籍タル者ニ非サレハ試掘ヲ作シ坑區ヲ借リ坑物ヲ採製スル事業ノ本主或ハ組合人ト成ルヿヲ得ス（坑產ノ割合及ヒ損益ニ關係スル所ノモノハ都テ組合トス）若シコレヲ犯ス者ハ其業ニ屬スル所有物ヲ官ニ沒入シテ其業ヲ禁止スヘシ

第二章　試掘

第五　試掘ノ許可ヲ得ント欲スル者ハ試掘願書ニ試掘地ノ圖面ヲ添ヘ農商務大臣ニ差出スヘシ（二十三年七月法律第五十五號ヲ以テ本項ヲ改正ス）

試掘ノ許可ハ出願日時ノ先後ニ依ル若シ試掘セント欲スル地ノ全部ヲ所有スル者ノ出願ト同地ニ係ル他人ノ出願ト同時ナルトキハ其土地所有者ニ許可スルモノトス（同上本項ヲ改正ス）

第六　試掘ニテ坑物發見スルトキハ直ニ見本ヲ添テ鑛山寮ニ屆出ツヘシ且試掘中ハ一月七月兩度毎ニ前六ケ月間ノ行業日數及工數並產鑛量ヲ開報スヘシ

凡產鑛ハ借區券ヲ（第十款ニ出ツ）得ル後ニ非サレハ恣ニ賣却スルヲ得ス若シ之ニ背カハ其全價ヲ沒收ス可シ

第七　試掘ハ都テ一年間ヲ以テ期限トス若延期ヲ願出ルニ實ニ未タ開坑ヲ決スルヿヲ得サル事理判然タラハ之ヲ許可スルヿ有ル可シ

第八　試掘人廢業スルトキハ第貳拾七款廢坑則ノ如クスヘシ

此時ニ產鑛ハ鑛山寮ノ許可ヲ得テ賣却シ第三拾壹款ノ坑物稅ヲ納ムヘシ試掘人損失ニ因テ廢業スル事實判然タルニ於テハ坑物稅ヲ免スルヿ有ルヘシ

第三章　借區開坑

第九　借區ノ許可ヲ得ント欲スル者ハ借區願書ニ坑區圖ヲ添ヘ農商務大臣ニ差出スヘシ（同上）

借區願書及坑區圖ヲ同時ニ差出シ難キトキハ願書ノミヲ差出シ置キ坑區圖ハ願書ノ日附ヨリ三十日以內ニ之ヲ差出スコトヲ得此期限內ニ差出サヽルトキハ其出願ヲ無效トス（同上）

借區ノ許可ハ出願日時ノ先後ニ依ル（同上）

出願ノ試掘地ト出願ノ坑區ト互ニ牴觸スルトキハ試掘出願ヲ無效トス（同上）

坑區ノ境界ハ直線ヲ以テ之ヲ定メ地表境界線ノ直下ヲ限リトス其一坑區ノ面積ハ石炭ハ壹萬坪以上其他ノ鑛物ハ三千坪以上トシ共ニ六拾萬坪ヲ超ユルコトヲ得ス（同上）

第十　借區出願人ハ其出願地ニ於テ採掘セントスル鑛物ノ存在スルコトヲ證明スヘシ其證明ヲナス能ハサルトキハ其出願ヲ無效トス（同上）

農商務大臣鑛物ノ存在ヲ認メス又ハ試掘若ハ採製ノ事業公益ヲ害スト認ムルトキハ其出願ヲ許可セス（同上ヲ以テ本項以下四項ヲ追加ス）

試掘若ハ採製ノ事業公益ニ害アルトキハ農商務大臣ハ既ニ與ヘタル許可ヲ取消スヿヲ得」

試掘人又ハ借區人前項ノ處分ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但損害ノ賠償ヲ要求スルコトヲ得ス

試掘人又ハ借區人ノ得タル試掘若ハ借區ノ許可詐僞又ハ錯誤ニ由リタルコトヲ發見シタルトキハ農商務大臣ハ其許可ヲ取消スヘシ若シ其許可ニ就キ利害ノ關係ヲ有スル者ニ於テ發見シタルトキハ之ヲ農商務大臣ニ申立テ其取消ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ農商務大臣ノ指令ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十一　凡借區ハ通常十五年間ヲ以テ定期トス之ヲ終ルニ至テ繼年期ハ新ニ願出スヘシ

第四章　通洞

第十二　通洞ハ（坑道ハ縱横ニ小坑ヲ穿ツヲ通常トス別ニ探鑛疏水運輸等ノ爲メ地底ヲ横截シ一道ノ大坑ヲ穿ツアリ之ヲ通洞ト云フ）我カ借區中ニ非スト雖ヒ之ヲ企ルヿヲ得ヘシ此時ハ願書ニ目論見明細圖ヲ添テ鑛山寮ヘ出スヘシ若シ其通洞他人ノ借區ニ亘渉スヘキハ豫メ其借區人ニモ報知ス可シ

通洞ハ高九尺幅六尺ヨリ減スヘカラス是ヨリ小ナルハ通洞トセス

第十三　願出ノ通洞ハ鑛山寮官員實地勘踏歸報ノ後許可スヘキハ工部全權ノ證印ヲ以テ免狀ヲ附與ス可シ免狀ヲ得ルノ後若シ目論見圖ニ違ヒ方向ヲ轉シ或ハ距離ヲ延縮セント欲セハ更ニ鑛山寮ヘ願出許可ヲ得テ之ヲ行フ可シ

第十四　借區人何レモ自ラ通洞ヲ開クヘキ資本有ニ非サレハ我區中タリト雖ヒ他人ノ擧ヲ拒ムヘカラス

通洞保全ノ爲メニ其周圍ノ土石ヲ外ヨリ厚サ一間半以内ニ堀入ルヘカラス然レヒ其跡ニ自己ノ入費ヲ以テ支柱ヲ構造シ崩潰ノ患無ラシムル者ハ此限ニ非ス（是ハ坑物ヲ得ンカ爲メニ一旦土石ヲ堀出ス時ノ如キ是ナリ）

第十五　通洞ニ因テ諸借區人便利ヲ得ルヿアラハ通洞發起人ニ其謝金ヲ出スヘシ若シ之ニ就テ對談穩當ナラスハ鑛山寮ヨリ處斷ス可シ

通洞ヲ開ク者ハ借區人未定之所ニ於テハ通洞ノ周圍内ヨリ出ルタケノ鑛石ヲ取ルヿヲ得ヘシ他人ノ借區中ニ於テハ此鑛石ノ一半ヲ借區人ニ歸スヘシ

第五章　坑業

第十六　都テ坑業ニ付テハ坑物ヲ坑中支柱ノ爲ニ存スヘキ所ノ外ハ成ル丈坑利ヲ遺スヿナク取出スヘシ此法ヲ犯シ其他都テ坑ノ利用ヲ害スルモノハ其輕重ニ隨テ罰金ヲ徵ス可シ

第十七　試掘開坑或ハ通洞等ヲ企ルニハ舍屋鐵道河流及ヒ道路ノ如キ其害ヲ受クヘキ場所ハ度ヲ計テ之ヲ避ケ殊ニ城堡ハ七十間以内ノ地ヲ避ク可シ

凡場所ノ主タル者應諾スルニ非スシテ此ヲ犯ス者有レハ城堡ハ其律ニ任シ餘ハ其損害ヲ償復スル一倍ノ費額ヲ取テ本費ハ其主ニ附與スヘシ

第十八　凡初發許可ヲ得シ坑物ノ外ニ別種ノ坑物ヲ見出ス者ハ速ニ鑛山寮ニ報知スヘシ之ヲ背ク者ハ其坑物又ハ代價ヲ取揚クヘシ

如此類ノ借區税ハ第三十一條ニ照準シ高價ナル方ノ例ヲ以テ納ムヘシ

第十九　開坑人ハ歳々一月七月兩度毎ニ前六ヶ月間ニ産出セシ坑物量其賣出高並代價及行業日數工數ヲ具記シテ鑛山寮ニ報知ス可シ

有鑛質ハ坑産量並製出量且製出セシ混淆物二種以上ノ金屬ヲ含有スルハ其試驗ノ割合ヲモ具記シテ賣出高以下都テ前ノ如クス可シ

右數量不正或ハ開報違期ノ罰ハ金五拾圓トス若シ賣出高並代價ヲ減書スル者ハ其減書セシ高ノ三倍ヲ徵收ス可シ

第二十　通例開坑又ハ廢礦ヲ採製スルニモ一年間ノ事業ハ地面五百坪ノ下ニ就テ壯健ナル

一夫三百日ヲ以テ成セル程ノ工數ヨリ減スヘカラス若シ之ニ背ク者實ニ百方免レ難ク妨碍判然タルニ有ラスンハ其業ヲ禁止スヘシ

第二十一　坑業人ハ互ニ隣坑ノ風通シヲ便利ニスヘシ且甲區ヨリ乙區ノ地中ニ水道ヲ通シ地上ニ要路ヲ通センコトヲ求ムルニ於テハ不當ノ償金ヲ貪ルヘカラス若相對ヲ以テ決セスンハ鑛山寮ヨリ處斷スヘシ

右堀通シニ付テ出ル鑛石ハ其所ノ借區人ニ屬スヘシ

第二十二　試掘又ハ借區ヲ出願スル爲他人ノ土地ヲ測量スルコトヲ必要トスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ此場合ニ於テハ其土地ノ所有者又ハ關係人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス若シ測量ノ爲損害ヲ生シタルトキハ之ヲ賠償スヘシ（同上ヲ以テ本項ヲ改正）

左ノ場合ニ於テ試掘人又ハ借區人坑業上他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ必要トスルトキハ其土地ノ所有者又ハ關係人ト協議シ其承諾ヲ受クヘシ若シ協議調ハサルトキハ農商務大臣ノ裁定ヲ請フヘシ（同上ヲ以テ本項以下八項ヲ追加ス）

一　坑口ヲ開穿スル爲

一　坑物及土石ノ堆積場ヲ設置スル爲

一　坑道、道路、鐵道馬車、鐵道、運河、溝渠及溜池ヲ開設スル爲

一　坑業上必要ノ製錬場及建物ヲ建設スル爲

前項ノ場合ニ於テハ農商務大臣ノ裁定ニ對シテハ其土地ノ所有者又ハ關係人ハ其貸渡ヲ拒ムコトヲ得ス

試掘人又ハ借區人ハ貸渡ヲ受クヘキ土地ニ對シ土地所有者及關係人ニ協議ヲ遂ケ相當ノ補償金ヲ支拂フヘシ

試掘人又ハ借區人三箇年以上土地ヲ使用スル目的アルカ又ハ使用ノ爲土地ノ形質ヲ變更スルカ又ハ建物アル土地ハ所有者ノ請求ニ依リ之ヲ收用スヘシ

此他土地ノ使用及收用ニ關シテハ土地收用法第十八條第十九條第二十條第二十一條第二十二條第二十三條第二十四條第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條第一項第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條ノ例ニ依ル

第二十三　總テ坑區ヨリ隣區ニ患害損傷ヲ被ラシムルトキハ之ヲ償フヘシ若シ償金決セスンハ鑛山寮ヨリ裁決スヘシ

第二十四　凡借區人其坑業ヲ年限中他人ニ讓渡ス如キハ前以テ雙方ヨリ鑛山寮ニ願出許可ヲ請フヘシ若シ之ニ背ク者ハ其業ヲ禁止スヘシ

第二十五　凡借區年限終リ又ハ法ニ背キテ其業ヲ禁止セラレ或ハ自ラ廢業スルニ至ル者アレハ都テ其借區ハ政府ニ還復シ其事業ニ就テ如何ナル負債アリト雖トモ總テ其坑山ニハ關係セサル者トス此時ニ當テ地中ノ結構ハ坑山ニ屬シテ政府ノ有タルヘシ

地上ノ營造ハ其主ノ取去ルニ任スト雖トモ其趾ノ地面ハ完全ニ修復ヲナスヘシ

第二十六　坑業人ハ其坑山地方ノ住民同樣トス因テ其地方官ノ諸法令ヲ遵守ス可シ

第六章　廢業

第二十七　坑業ヲ廢セント欲スル者ハ竪坑ノ口ヲ掩ヒ又柵圍ヒスヘシ鑛山寮ヨリ其竪坑ヲ當然ニ堅固ニセシヤ且坑内ノ營繕完全存在スルヤヲ檢査スヘシ若疎漏アラハ鑛山寮ニ於テ是ヲ繕治ス可キ費額ノ一倍ヲ徵收スヘシ

第二十八　鑛山寮ヨリ疏水ヲ命スルニ背キテ其事ヲ行ハス之カ爲ニ坑中廢沒スルニ至ル者ハ其業ヲ禁止ス

第七章　製鑛所建築

第二十九　凡開坑人坑山外ノ場所ニテ有鑛質物ヲ製出セン爲ニ建築スヘキモノアラハ先鑛山寮ニ許可ヲ請フヘシ

第三十　已ニ製煉セシ鑛物ヲ精製（荒銅ヲ丁銅棹銅ニ作リ山吹金ヲ純金ニ製スル類ヲ云）スル職業ノ者ハ起業ヲ鑛山寮ニ報知シ六ヶ月毎ニ元鑛量並製出品量等ヲ具記シ鑛山寮ニ開報スヘシ

第八章　稅納

第三十一　鐵ヲ除クノ外有鑛質物ヲ採取スル坑區ハ面積五百坪毎ニ一ヶ年金壹圓ツヽ借區稅トシテ毎年一月ニ其一ヶ年分ヲ前納スヘシ（借區稅ハ地租ニ關係セス）鐵及ヒ無鑛質ノ諸物品ヲ採取スル坑區ハ面五百坪ニ付前條ノ半高ヲ納ムヘシ即金五拾錢トス但怠納者ハ借區劵ヲ取揚ク（十四年第四拾九號布告ヲ以テ（前一ヶ年分ヲ）ノ下（鑛山寮ニ納ムヘシ）ヲ（前納スヘシ）ト改メ結尾ニ但書ヲ追加ス）廢鑛ヲ採取スル坑區ハ面千坪ニ付常例ノ稅額ヲ納ム可シ

開坑區面五百坪廢鑛區面千坪トニ足ラサルモノハ總テ右面積ノ比例ニ隨テ納ムヘシ

借區初年ノ區稅ハ月割ヲ以テ借區劵下付ノ節前納スヘシ（同上（月割）ノ下（ニテ納ム（シ））ヲ（ヲ以テ以下云々）云々ト改ム）

「前書借區稅ノ外ニ採製セシ金屬及諸坑物ニ就テ代價百分ノ三ヨリ百分ノ二十迄ヲ坑物稅トシテ毎歲一月七月兩度ニ鑛山寮ニ納ム可シ（八年第二號布告ヲ以テ坑物稅收納ヲ當分ノ内廢止ス）

但稅額ノ儀ハ其坑業ノ盛衰ニ隨ヒ鑛山寮ヨリ命スヘシ」

第三十二　試堀開坑或ハ通洞等ニ付テ前後諸條款ニ記セル稅或ハ罰金償金等ヲ納メサルトキ其業ニ屬スル所ノ運移スヘキモノ殘ラス鑛山寮ヨリ入札拂ニシテ代價ノ中ヨリ不納高ヲ引去リ其殘金ハ之ヲ本人ニ還付スヘシ

第三十三　凡坑法ノ意旨ニ戾ル過失有ル者ハ輕重ニ隨テ罰金ヲ命スヘシ若シ事業疎略ニシテ人命ヲ失ハヽ國律ヲ以テ論處ス可シ

右章款ニ記載セル方法ハ明治六年九月一日ヨリ施行スヘシ從前ノ法則及ヒ舊習等若シ此法ニ矛盾スル者ハ都テ廢停タル可シ

坑法附示

坑業及製鑛ノ業ヲ擧行スル者西洋ノ學術及工作ヲ用ヒンカ爲メ一定ノ給料ヲ以テ外國技術家ヲ雇入ルヽカ如キハ我坑產損益及ヒ所有物ニ關係スル事無キニ因テ坑法第四款ノ禁ニ觸レス然レ𪜈之ヲ雇入ルヽ以前其職業給料及年限ヲ分明ニ記載シ其案紙ヲ鑛山寮ニ送呈シテ結約ノ許可ヲ可請候事

○鑛業ニ關スル出願手續 二十三年七月三十一日 農商務省令第七號

今般法律第五十五號發布ニツキ鑛業ニ關スル出願手續等左ノ通相定ム

第一條　試堀若クハ借區ノ許可ヲ受ケント欲スル者ハ願書ニ勅令第百五十一號第一條ノ手數料ニ相當スル査記印紙ヲ貼用シ必要ノ圖面ヲ添ヘ書留郵便ヲ以テ直ニ農商務大臣ニ差出スヘシ

但シ試堀及借區願書ハ第一號及第二號書式ニ坑區圖ハ第一號雛形ニ依ルヘシ

第二條　坑法第九欵第二項ニ依リ願書ノミヲ差出ストキハ府縣國郡市町村大字小字及概略ノ坪數ヲ記シタル見取圖ヲ添フ可シ

第三條　鑛業ニ關スル願書及附屬圖ニハ地主隣借區人ノ連署及市町村長郡長及地方長官ノ奥書ヲ要セス

第四條　試堀借區通洞、借區外坑道及借區外製煉所建設等ニ係ル願書ヲ農商務大臣ニ差出シタルトキハ同時ニ其ノ願書及圖面ノ寫ヲ添ヘ試堀地又ハ借區地ノ市町村長ヲ經由シ地方長官ニ屆出ツヘシ

地方長官ニ於テ前項ノ屆書ヲ受理シタルトキハ圖面ノ正否公益上ノ利害竝ニ其ノ出願地ニ於テ他ニ鑛業ヲ營ム者ノ有無ヲ調査シ意見ヲ附シ農商務大臣ニ具申スヘシ其ノ御料地若クハ官有地ニ係ルモノハ地方長官主管ノ官廳ニ協議ヲ遂クヘシ

第五條　新ニ發見シタル鑛物ニ就テ借區ヲ出願スル者ハ其ノ鑛物ノ標品ヲ農商務省鑛山局長宛ニテ差出スヘシ

舊坑ニ就テ借區ヲ出願スル者其ノ舊坑ヨリ出願鑛物ヲ採製シタルノ事蹟ヲ證明シ得ルトキニ限リ標品ヲ要セス

前項ノ標品及證明書ハ借區願書ト同時ニ差出スヘシ

但シ標品ヲ借區願書ト同時ニ差出スコトヲ得サルトキハ日限ヲ定メ借區願書ヲ差出ストキ其ノ旨ヲ屆出ヘシ

第六條　試堀又ハ借區出願ノ爲メ必要ナル土地ノ測量ニ就キ地方長官ハ其ノ認可ヲ出願シタル場合ニ於テハ地方長官ハ五日以内ニ認可狀ヲ下付スヘシ若シ認可狀ヲ下付スヘカラサルモノト認メタルトキハ出願ノ日ヨリ十日以内ニ其ノ理由ヲ具シ農商務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ

（第一號書式）（用紙美濃紙二ツ折正副二通）

此處ニ査記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

試堀願

名稱　何（地名）試堀地

何府縣何國何郡何市何町何村大字何

小字　何全地

但　官地　何々
　　民地　何々

小字　何ノ内

但　官地　何々
　　民地　何々

右之箇所ニ於テ何鑛含有致シ候見込ニ付試堀許可相成度此段相願候也

年　月　日

何府縣何國何郡何市何町何村何番地
華士族平民
何　某　印
但シ組合人アラハ連名連印スヘシ

農商務大臣（爵）（姓名）殿

（第二號書式）（用紙美濃紙二ツ折正副二通）

第十五類　第四章　礦業

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

借區願

名稱　何（地名）鑛山

何府縣何國何郡何市何町何村大字何

小字　何全地

但　官地　何々
　　民地　何々

小字　何ノ内

但　官地　何々
　　民地　何々

右之箇所ニ於テ何鑛存在致シ候ニ付借區許可相成度此段相願候也

年　月　日

何府縣何國何郡何市何町何村何番地
華士族平民
何　某
但シ組合人アラハ外何名

願人　何　某　印
但シ組合人アラハ連名連印スヘシ

農商務大臣（爵）（姓名）殿

（第二條ノ場合ニ於テハ左ノ但書ヲ加フヘシ）

但シ坑區圖ハ何年何月何日迄ニ差出シ可申候間見取圖添附仕候也

（備考）

（第二條ニ依リ別ニ圖面ヲ差出ストキハ圖面ノ右側ニ左ノ通リ認メ置ク可シ）

（何）年（何）月（何）日發送仕置候借區出願ニ對スル借區圖差出シ申候也

年　月　日

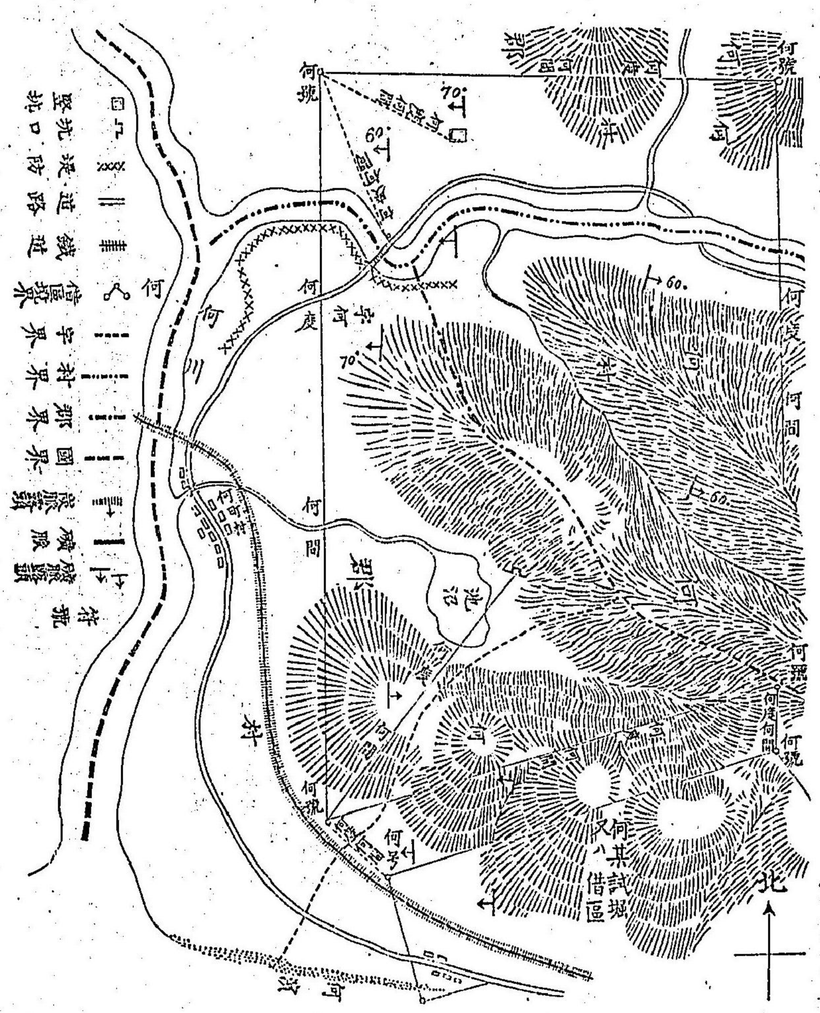
何府縣何國何郡何市何町何村何番地
華士族平民
何　某
但シ組合人アラハ連名連印スヘシ

第一號雛形（二十三年十月農商務省令第十四號ヲ以テ雛形中削除）

何府縣何國何郡何市何町何村大字何　小字何全地官地民地（地種地目）何坪
小字何ノ内官地民地（地種地目）何坪

合計何坪

測量者
何　某　印


何號
何度
何間
何某試掘ハ借區
北
何號
何度何間
何號
何度
何間
何號
何度
何間
何號
何度

朕坑業ニ關スル手數料徵收ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

勅令第百五十一號

第一條　坑業ニ關シ次ニ掲ケタル出願ヲ爲ス者ハ左ノ手數料ヲ納ムヘシ

一　試掘ヲ出願スルトキ　一願書毎ニ金三圓

一　借區ヲ出願スルトキ　一願書毎ニ金拾五圓

一　試掘ノ讓與、延期、加除名ヲ出願スルトキ　一願書毎ニ金壹圓

一　借區ノ繼年期、讓與、加除名、訂正、合併若ハ分割ヲ出願スルトキ　一願書毎ニ金五圓

一　借區外製煉所建設又ハ借區外ノ坑道、通洞ヲ出願スルトキ　一願書毎ニ金貳圓

第二條　手數料ハ登記印紙ヲ以テ納ムヘシ

第三條　本令ハ明治二十三年八月一日ヨリ施行ス

○借區坑業明細表確定ニ付府縣ヲシテ飜刻ノ上相當代價ヲ以テ拂下ケシム　六年十二月二十四日工部省達第十七號

今般借區坑業明細表確定ニ付別紙雛形書式之通坑業人ヨリ工程取調差出サセ可申候就テハ右表式共鑛山寮及同寮各出張所陸中國鹿角郡小阪、羽後國秋田郡大葛、佐渡國雜太郡相川、但馬國朝生郡生野、出雲國意宇郡出雲鄉村、筑後國三池郡三池ニ相備置候間最寄稼人共願出候ハヽ相當ノ代價ヲ以拂下可申候尤各府縣廳ニ於テ便宜ニヨリ飜刻之上管下稼人ヘ相當之代價ヲ以拂下候儀可爲勝手此旨相達候事

（別紙）

借區坑業明細表書式凡例

借區人借區年限中ハ毎年一月ト七月ノ兩度ニ前六ケ月間ノ坑業ヲ借區坑業明細表ニ詳記シテ鑛山寮ニ開報スヘシ因テ借區人ノタメニ其書式凡例ヲ左ニ掲示ス

借區　トハ坑物ヲ掘出スヘキ場區ヲ政府ヨリ借受クルコトヲ云フ此場區ヲ坑區ト云フ

坑業　トハ坑物ヲ採製スルタメニ行フトコロノ事業ヲ云フ

開業　トハ坑物ヲ掘採ル事業ヲ始ムルコトヲ云フ

明細表ヲ二樣ニ別ツ第一號ハ製煉ノ業ヲ兼子タルモノヽ表トシ第二號ハ製煉ヲ兼子サルモノヽ表トス

但凡ソ製煉ヲナスヘキモノハ有鑛質物トス然レトモ無鑛質物ト雖トモ石油山鹽ノ類ノ如キ製煉ノ業ヲ兼子ル者ハ皆第一號ノ表ヲ用ユヘシ

府縣	何府又ハ何縣	郡	國	何郡	國	何郡	村	何村	字	何字	々

但字二ケ所以上ハ何ケ所ニテモ割書ニ記スヘシ

坑名	何坑

金坑銀坑又ハ石炭坑ノ類

借區坪數	何千何百坪	開業	明治何年何月	何年	借區人	何府縣何職	管下國郡村苗字名	又ハ何府縣士族苗字名

年號	明治何年	月數	一月ヨリ三ケ月分精算	月數	三月迄三ケ月分精算	月數	四月ヨリ六月迄三ケ月分精算	月數	六月迄

但シ一月ヨリ六月迄ノ表ニハ月數上段ヲ一月ヨリ三月迄ノ分トシ月數下段ヲ四月ヨリ六月迄ノ分トス〇七月ヨリ十二月迄ノ表ニハ上段ヲ七月ヨリ九月迄ノ分下段ヲ十月ヨリ十二月迄ノ分トス尤借區ノ初年末年ノ如キ行業三ケ月ニ滿タ

サルモノハ其月數タケヲ記載スヘシ○且ツ此横線罫圍ニハ表面越高一堀出高其外各種ノ勘定高ヲ右三ケ月ツヽニ精算シテ記載スヘシ

合計 此横線罫圍ニハ表面堀出高其外各種ノ罫内ニ記セシ月數上段下段ノ勘定高ヲ三ケ月ツヽニ合算シテ記載スヘシ

但シ越高殘高ハ合計ニ及ハス

坑品 トハ有鑛質物無鑛質物ヲ論セス總テ坑中ヨリ堀出ス所ノ物品ヲ云フ

製品 トハ坑中ヨリ堀出シタル物品ヲ製煉シテ金銀其他ノ金屬又ハ製成ノ石油山鹽等トナリタルモノヲ云フ

越高 トハ前月殘高ノ本月ニ越シ來ルモノヲ云フ

堀出高 トハ借區面坪内ヨリ堀出シタル三ケ月間ノ坑品高ヲ云フ

坑製煉高 トハ前月ヨリノ越高ト三ケ月間ノ堀出高ノ内ヨリ諸金屬又ハ石油山鹽等ヲ製出センカタメ製煉ニ向ケタル坑品高ヲ云フ

坑殘高 トハ越高ト堀出高トノ内ヨリ未タ製煉セスシテ殘リタル坑品高ヲ云フ

製出來高 トハ坑品ノ既ニ製煉ヲ經テ製成シタル三ケ月間ノ出來高ヲ云フ

品譯 金何貫何百目 銀何貫何百目 銅何貫何百目 製品ノ内二種以上ノ金屬アリテタトヘハ金銀銅ナレハ其品種量目ヲ一種ツヽ上ノ圖例ノ如ク記載スヘシ若混淆物ナレハ其高ヲ記シ含有物ノ見込ヲ試驗ノ量ニ隨ヒテ朱書スヘシ

賣高 **製殘高** 品譯ノ書式之ニ同シ

代價 トハ製品越高ト出來高ノ内ヲ賣販シタル總代價ヲ云フ

但シ賣販スル所ノ製品二種以上ナレハ其品種代價ヲ一種ツヽ内譯ニ記載スヘシ

製殘高 トハ製品越高ト出來高トノ内ヨリ未タ賣販スル能ハスシテ殘リタル高ヲ云フ

行業日數 トハ坑品堀出ト製煉トノ事業ヲ行ヒタル總日數ヲ云フ

但シ行業ノ休日ハ算入セサルヘシ

内譯 堀出行業日數 トハ堀出ノミノ事業ヲ行ヒタル日數ヲ云フ 製煉行業日數 幷ニ工數入費ノ内譯之ニ準ス

工數 トハ坑品堀出ト製煉トノ爲メニ使用シタル人夫ノ總工數ヲ云フ

入費 トハ坑品堀出ト製煉トノ爲メニ消費ノ總金高ヲ云フ

但シ第二號表面製煉ヲ兼子サル坑物ノ賣高代價以下宜シク上ノ例ニ準シテ知ルヘシ

坑區稅 トハ坑區面積ノ坪數廣狹ニ隨ヒテ納ムル稅金ヲ云フ

坑物稅 トハ製出シタル坑品又ハ製煉ニ及ハサル坑物ノ販賣代價多寡ニ隨ヒテ納ムル稅金ヲ云フ

第一號

府縣	國郡	村	字	坑名	借區坪數	開業年月	借區人	年號	月數	月數	合計	坑品越高	坑品堀出高	坑品製煉高	坑品殘高	製品越高	品譯	借

區坑業明細表

製品出來高	譯品	賣高	譯品	代價	內譯	製品殘高	譯品	行業日數

借區坑業明

第二號

府縣	國郡	村	字

內訳	堀出行業日數	內訳	製煉行業日數	內訳	堀出工數	工數	內訳	堀出入費	入費	內訳	製煉工數	內訳	製煉入費	坑區稅	坑物稅

坑名	借區坪數	開業年月	借區人

年號	月數	月數	合計	越高	堀出高	賣高	代價	殘高

細表

行業日數	工數	入費	坑區稅	坑物稅

○將來發堀ノ坑物ヲ引當トシテ外國人ヨリ金子借受又ハ先賣ノ約定等ヲ禁ス 七年十一月十日 布告第百貳拾四號

坑物ノ儀ハ明治六年第貳百五拾九號布告日本坑法ニ揭載ノ通政府ノ所有物タルハ勿論ニ付縱令開坑ノ許可ヲ受候共其坑中將來開發ノ品ヲ引當ニ致シ外國人ヨリ金子借入又ハ先キ賣約定等ノ儀ハ不相成候條此旨布告候事

○試堀鑛場ヨリ坑物發見スルトキ見本差出方 七年十二月五日 工部省布達第三拾號

試堀鑛場ヨリ坑物發見スル時ハ坑法第二章第六欵ニ照準直ニ見本可差出筈ノ處未タ不差出者モ有之不都合ニ付左之條目ニ照準シ早々爲差出猶試堀ヲ不經シテ借區開坑候者モ同樣爲差出候樣可致此旨布達候事

但以來モ本文同樣可相心得候事

一有鑛質無鑛質ニ不係鑛石類ハ方三寸ヨリ大ナラサルモノ三礫砂金ハ成丈大粒ヲ撰ミ目方一匁ヨリ三匁迄砂鐵ノ類ハ字毎ニ目方十匁石油山鹽等ハ字一箇所ニ付二合ヲ限毎種上中下三品差出ス可シ結晶物ハ大小ニ不關産出ノマヽ差出ス可キ事

但結晶物ノ價格アルモノ並ニ砂金ハ相當ノ代價下渡候事

一鑛物類ハ毎種必産出ノ地名並堀採人ノ名前書ヲ添ユヘシ

○借區開坑許可ノ鑛場讓渡ノモノ證券下渡方 七年三月二十九日 工部省布達第八號

借區開坑許可之鑛場甲ヨリ乙ヘ讓渡之儀坑法第貳拾四條之通甲乙雙方ヨリ願書差出當省ニ於テ調査不都合無之聞屆候分ハ更ニ證券可下渡候條讓渡人所持之證券ハ願書一同可差出此旨布達候事

但讓受之年限ハ最初借區差許候年ヨリ殘年數ト相心得可申候事

○試堀並借區開坑等證券一枚ヲ以テ數ヶ所許可ノ內借區開坑或ハ讓渡廢業分區等出願ノ節證券願書等差出方 七年十二月七日 工部省布達第三拾壹號

諸鑛山試堀並ニ借區開坑等證券一枚ヲ以數箇所致許可候鑛場ノ內借區開坑或ハ讓渡廢業分區等出願ノ節ハ本年當省第八號布達之通願人所持ノ證券願書一同可差出此旨布達候事

但試堀鑛場字一箇所ノ內幾坪借區開坑讓渡廢業等願出殘幾部分猶引繼キ致試堀候分ハ其譯詳細ニ書加ヘ可願出其分ニ限リ證券差出ニ不及候事

○日本坑法第八章中坑物稅當分廢止 八年一月十三日 布告第貳號

明治六年七月第二百五十九號布告日本坑法第八章中ニ揭載有之候坑物稅收納ノ儀本年一月ヨリ當分ノ內相廢候條此旨布告候事

○坑業日數工數出鑛量等屆出方及借區或ハ廢業延期出願方 八年二月十日 工部省布達第二號

諸坑山試堀中ハ坑業日數工數並出鑛量等坑法第六章ニ照準可屆出且試堀滿期ニ至リ候者ハ借區或ハ廢業延期等可願出之處間ニハ遲延ノ向有之不都合候條各地方官ニ於テ篤ト調査ヲ遂都テ坑法ニ違背無之候樣注意可致此旨布達候事

但本文借區或ハ廢業延期等出願ノ節ハ證券相添可差出候事

○一鑛山ヲ數人各自ニ分區營業ノ者雙方坑區ノ距離ヲ立テ出願方 八年十月二十八日 工部省布達第貳拾六號

諸坑業人一鑛山ヲ數人各自ニ分區營業候者雙方坑區ノ中間ニ相當ノ距離無之候テハ不都合ニ付自今試堀並借區開坑共雙方坑區ノ中間ニ拾間以上ノ距離相立可願出且現今彼此接續ノ坑區ハ更ニ右ノ距離取調圖面相添雙方ヨリ減區可願出此旨布達候事

但右間地ニ於テ採鑛セサルヲ得サル節ハ雙方借區人示談ノ上連名ヲ以テ增借區開坑可願出事

○鑛山試堀並借區開坑等廢業願聞屆方 九年十月十七日 工部省布達第四號

諸鑛山試堀並借區開坑等廢業願ノ儀是迄當省ヘ差出ノ上許可致來候處自今縣官ニ於テ日本坑法第六章第廿七款ノ通廢坑跡危害無之候樣手當方行屆候見込ノ分ハ直ニ聞屆其段證券相添可屆出此旨相達候事

○鑛山借區明細表坑區稅及試堀行業日數等ノ開報方 九年十月四日 工部省達第三號府縣

諸鑛山借區明細表並坑區稅及試堀行業日數等之開報是迄鑛山寮ヘ差出來候處自今總テ本省ヘ差出可申此段相達候事

○諸坑業稼ノ者身代限處分濟迄稼業ヲ禁ス 九年四月十五日 布告第四十九號

諸坑業稼ノ者身代限リ處分ヲ受ケ候節ハ右處分相濟候迄稼業不相成候條此旨布告候事

○身代限處分ヲ受ケタル者試堀借區假證券返納セシム 九年四月二十日 工部省布達第八號

太政官第四十九號身代限處分ヲ受候者處分中坑業稼方不相成旨御布告ニ付右處分ヲ受候者ハ當省ヨリ下渡置候試堀借區假證券返納可致此旨布達候事

但身代限リ處分濟ノ上猶再稼致度者ハ坑法ニ照準更ニ可願出候事

○諸鑛業廢業屆書ヘ月日ヲ詳記セシム 九年十二月二十日 工部省達第五號

本年第四號ヲ以テ相達置候諸鑛山試堀並借區開坑廢業等屆方ノ儀人民出願ノ月日記載不致向間々有之不都合ニ付以來右月日記載可屆出此旨相達候事

○北海道鑛山借區稅徵收方 十一年二月五日 布告第三號

開拓使管內鑛山借區稅ノ儀詮議ノ次第有之當分其營業月數ニ應シ月割ヲ以テ徵收候條此旨布告候事

○諸鑛山借區稅上納方改正 十一年十一月六日 工部省達無號

諸鑛山借區稅之儀從前坑業明細表ニ據リ一ケ年分ヲ四割ニ計算シ收納致來候處今後ハ更ニ坑法ニ照準可致尤明細表ヘハ一ケ年之金高ヲ右合計之野內ヘ記入可差出此段相達候事（十四年九月四十九號布告及同年十月工部省達第一號ニ依リ本項中削除）

但從前ノ振合ヲ以テ既ニ上納致置候分ハ本年限其儘上納不苦候事

○砂鐵砂金稼行ノ者試堀借區開坑ノ名稱ヲ廢シ採取出願方等ヲ定ム 十二年十月二十八日 工部省布達第拾四號

砂鐵幷砂金稼行之者ハ日本坑法ニ基キ試堀借區開坑ヲ許可シ來候處自今都テ試堀借區開坑之名稱相廢候條該地所之名字等詳細之繪圖面相添採取之儀出願スヘシ且從來既ニ試堀借區開坑之許可ヲ受居候者ハ採取ニ願替假坑區券ハ返納スヘキ儀ト可心得此旨布達候事

○砂金砂鐵採取行業明細表雛形 十三年三月二十九日 工部省布達第六號

昨十二年第十四號ヲ以砂金砂鐵試堀借區開坑之名稱相廢候ニ付テハ該稼業者ヨリ從前差出來候行業明細表之儀左ノ雛形ニ照準取調可差出此旨布達候事

砂金鐵採取行業明細表

府縣	國郡	官民地別	字	開業年月	稼人名	年號	月數	月數	合計

採取高	製煉高	出來高	品譯	代價	内譯	行業日數	内譯 採取行業日數	製煉行業日數	工數	内譯 採取工數	製煉工數	入費	内譯 採取入費	製煉入費

○坑業明細表差出ノ節證券又ハ願書ノ番號記入 十六年十一月六日 工部省達第三號

坑業明細表差出候節自今試掘借區ハ證券ノ番號又採取爐稼ハ許可ノ節願書ヘ記載ノ番號ヲ記入致シ差出候樣可取計此旨相達候事

但試掘延期譲渡廢業其他鑛業人ニ關係ノ書類差出候節モ總テ本文同樣可相心得候事

○稅金怠納者證券取揚營業禁止方 十六年十一月十三日 工部省達第六號府縣

日本坑法第八章第三十一欵改正增補之儀十四年九月第四拾九號公布相成候處處分方遷延ノ向モ有之不都合候條以來怠納者ハ二月一日ヲ以テ斷然證券取揚營業禁止候儀ト可相心得此旨相達候事

但本文ノ場合ニ於テハ同法第三十二欵ニ照シ稅金徵收ニ不及候事

○諸坑場稼人廢業屆差出方 十七年三月一日 工部省達第一號

諸坑場稼人廢業屆ノ儀ハ開屆ノ日ヨリ十五日以内ニ取調當省ヘ可屆出且此分ニ限リ坑業明細表同時ニ可差出候儀ト可相心得此旨相達候事

但證券引上坑業禁止ノ者モ本文同樣可相心得

○諸坑場稼人廢業願出又ハ證券引上坑業禁止者明細表差出方 十七年三月一日 工部省告示第五號

諸坑場稼人廢業願出又ハ證券引上坑業禁止ノ者假令休業タリ𪜈六年當省第十七號及ヒ十三年第六號達書式ニ據リ其月迄ノ明細表調製其際可差出此旨告示候事

但分區廢業ハ此限ニアラス

○鑛山試掘竝借區證券紛失ノ分所在發見ノ節證券還付方 十八年二月三日 工部省達第壹號府縣

諸鑛山試掘借區證券紛失ノ分ハ其都度當省ヨリ告示可致ニ付所在發見屆出候者有之節ハ證券ニ理由書相添直ニ當省ヘ還納可致此旨相達候事

○鑛山試掘借區人相續又ハ讓渡讓受ノ節券面訂正下渡方 十八年十二月三日 工部省告示第三拾八號

從來鑛山試掘借區人相續又ハ譲渡譲受出願之節更ニ證券下渡候處自今券面訂正裏書下渡スヘシ

右告示候事

第十五類　第四章　礦業

○鑛場增借區出願方及證券下附方 十八年五月十五日工部省告示第拾八號

從前鑛場ノ增借區ヲ許可スルトキハ新ニ證券ヲ下付シ來リ候處自今原證券ニ其坪數ヲ加書シ下付スヘク候條增借區ヲ願出ル者ハ願書ニ原證券幷ニ原借區增借區ヲ區別シタル一紙ノ測量圖ヲ添ヘ差出スヘシ從前增借區ノ許可ヲ得タル者ハ此際更ニ右手續ヲ爲スヘシ

但增借區稅初年ハ證券裏書ノ月ヨリ起算上納スヘシ又增借區ハ原借區ノ期限ニ終ルモノト心得ヘシ

右告示候事

○鑛山借區稅怠納者證券引上方 十九年二月二十四日農商務省達第三號府縣

鑛山借區稅怠納者及滿一箇年以上無故休業ノ者坑業禁止ノ儀並ニ試掘期限經過ノモノ證券引揚ノ儀ハ已來伺出ニ不及其廳限リ處分シ證券引揚ケ返納ノ節其事由具申スヘシ

○鑛山借區稅怠納又ハ休業及ヒ試掘經過シ證券引揚ケノ者 十九年三月三十一日農商務省令第四號

鑛山借區稅怠納又ハ一箇年以上休業及ヒ試掘期限經過ノタメ證券引揚處分ヲ受ケタルモノニハ同一村內ニ於テ滿三年間新ニ試掘又ハ借區ヲ許可セス（二十二年九月農商務省令第八號ヲ以テ本條中ヲ追加ス）

○鑛山借區稅徵收後廢坑又ハ減坪ニ屬スル既納稅 十九年四月七日農商務省令第五號

鑛山借區稅徵收後廢坑又ハ減坪ニ屬スル既納稅金ハ下戾サヽルモノトス

○鑛山借區圖面調製坪數更正ノ爲メ稅金ニ增減ヲ生シタル片徵收並改正方 十九年四月八日農商務省令第六號北海道廳府縣

明治十七年四月工部省第三號達ニ據リ鑛山借區圖面調製坪數更正ノ爲メ其稅金ニ增減ヲ生シタルトキ納期以前更正濟ノ分ハ更正坪數ニ據テ徵收シ其已後ニ係ル分ハ翌年納稅ノ節ヨリ改正スルモノトス

○農商務省所管免許料手數料鑛山借區稅徵收及納付方 十九年十月五日農商務省訓令第十六號北海道廳府縣

第二部歲入ノ內當省所管免許料手數料鑛山借區稅徵收方ハ歲入取扱順序第十六條以下ニ準擬シ其廳ヨリ納額告知書ヲ發シ納人ヲシテ直ニ現金ヲ金庫ニ納付セシムヘシ

○免許料手數料鑛山借區稅取扱順序ヲ定ム 十九年五月二十日農商務省訓令第五號北海道廳府縣

當省所管免許料手數料鑛山借區稅取扱順序左ノ通相定メ明治十九年度ヨリ施行ス

但從前諸達ノ內此順序ニ抵觸スルモノハ廢止ス

免許料手數料鑛山借區稅取扱順序

第一條　免許料手數料鑛山借區稅ハ北海道廳府縣廳ニ於テ之ヲ徵收スルモノトス但取扱順序ハ明治十九年三月大藏省令第四號歲入取扱順序ニ據ル

第二條　各年度ノ豫算ハ左ノ書式ニ據リ明細書ヲ調製シ前年度五月五日迄ニ其地ヲ發シ當省ヘ差出スヘシ

第三條　前條豫算ノ認可ヲ得タルトキハ歲入取扱順序第十七號乙書式ニ據リ月額豫算表ヲ調製シ七日以內ニ之ヲ當省ヘ差出スヘシ

第四條　收入金年度編入方ハ明治十七年十二月大藏省第九十號達ニ據ル

第五條　報告書ハ左ノ期日迄ニ其地ヲ發シ當省ヘ差出スヘシ

歲入報告書　翌月五日

會計年度內徵收未濟報告書　翌年度四月五日

出納閉鎖前不納報告書　翌年度十二月十日

（書式略ス）

○寒水石等ノ坑物日本坑法第二款所屬トシテ取扱ニ付從前許可ヲ得タル試掘借區券ヲ返納セシム 二十一年九月七日農商務省訓令北海道廳府縣

自今左記ノ鑛物日本坑法第三款所屬トシテ取扱候條從前許可ヲ得タル試掘借區券此際返納セシムヘシ

寒水石（大理石）　斑石（溫石）　燧石　硝子石　蠟石

○日本坑法第三款所屬試掘借區券返納方　二十二年一月二十四日農商務省訓令第四號北海道廳府縣

自今左記ノ鑛物日本坑法第三款所屬トシテ取扱候條從前下付シタル試掘借區券此際返納セシムヘシ

陶土　耐火粘土　石版石　瑪瑙　石綿　金剛砂　雲母　石膏　鹹泉

○鑛山試掘借區通洞及採取ニ關スル諸願書差出方　二十二年二月二十三日農商務省訓令第十號府縣

鑛山試掘借區通洞及採取ニ關スル諸願書自今副本差出スニ及ハス

○鑛山試掘證券下渡ヲ止ム　二十二年一月九日農商務省告示第二號

鑛山試掘許可ノ際證券下渡シ來リ候處自今之ヲ下付セス

○農商務省主管鑛山借區稅免許料手數料歲入概算書差出方　二十二年三月二十九日農商務省訓令第十七號北海道廳府縣

當省主管鑛山借區稅免許料手數料歲入概算書ハ本年三月閣令第十二號歲入歲出豫算概定順序ニ據リ前々年度三月十日迄ニ當省ヘ差出スヘシ

但二十三年度ニ限リ前年度四月十五日迄ニ送付スヘシ

○明治二十二年度以降鑛山借區稅徵收及整理方　二十二年四月十三日農商務省訓令第二十三號

二十二年度以降鑛山借區稅徵收方ハ徵稅令書ヲ以テシ其他ハ總テ從前ノ第二部歲入取扱順序ニ據リ整理スヘシ

○鑛山借區坪數ニ增減ヲ生シタルトキ徵稅方　二十二年十二月二十六日農商務省令第十二號

鑛山借區更正ノ爲メ坪數ニ增減ヲ生シタルトキハ自今更正許可ノ月ヨリ其坪數ニ據テ稅金ヲ徵收ス

但減坪ニ屬スル既納稅金ハ明治十九年當省令第五號ニ據ル

○試掘人其許可ヲ得タル試掘權ヲ喪失ノ節取扱方　二十三年六月九日農商務省訓令第三十號府縣

試掘人其許可ヲ得タル試掘權ヲ喪失(廢業譲受渡期限經過借區願換等)シタルトキハ爰ニ下附シタル指令書ヲ返納セシムヘシ

○坑法改正實施前ニ授受シタル鑛業ニ關スル諸願書取扱方　二十三年七月三十一日農商務省訓令第四十號府縣

地方廳郡役所村長役場(若クハ戶長役場)ニ於テ法律第五十五號實施前ニ施行シタル鑛業ニ關スル諸願書ハ從前ノ手續ニ依リ當省ヘ進達スヘシ

○試掘願書ニ添付スル圖面記載方　二十三年八月四日農商務省告示第六號

試掘願書ニ添付スル圖面ニハ試掘地ノ府縣國郡市町村大字小字及境界坪數等ヲ明記スルモノトス

○試掘地ノ坪數制限　二十三年十月十一日農商務省令第十三號

試掘地ノ坪數ハ日本坑法第九款第五項ノ制限ニ據ルヘシ

○日本坑法ニ依リ試掘借區ノ取消及土地使用上ニ關スル裁定ヲ請求スル者出願手續　二十三年十一月十五日農商務省令第十九號

日本坑法第十款第五項ニヨリ試掘若ハ借區ノ取消ヲ請求スル者及第二十二款第二項ニ依リ土地使用上ニ關スル裁定ヲ請求スル者出願手續左ノ通相定ム

第一條　日本坑法第十款第五項ニヨリ試掘人又ハ借區人ノ得タル試掘若ハ借區許可ノ取消ヲ請求セント欲スル者ハ詳ニ其ノ理由ヲ記載シタル請求書ニ關係書類ヲ添ヘ各正副二通ヲ農商務大臣宛ニテ地方長官ニ差出スヘシ

第二條　第二十二款第二項ニヨリ試掘人又ハ借區人坑業上他人ノ土地ヲ使用セントスルトキ其ノ所有者又ハ關係人ト協議調ハサル場合ニ於テハ裁定請求書ニ其ノ土地ヲ必要トスル理由書建設スヘキ工事ノ設計書詳細ノ實測圖面其ノ他關係書類ヲ添ヘ各正副二通ヲ農商務大臣宛ニテ地方長官ニ差出スヘシ

第三條　地方長官ニ於テ第一條又ハ第二條ノ請求書ヲ受理シタルトキハ五日以內ニ副書ヲ對手人ニ送附スヘシ

第四條　坑業人土地所有者又ハ關係人第三條ニ依リ請求書ヲ受取リタルトキハ其到達ノ日ヨリ十五日以內ニ農商務大臣宛ニテ辯明書若クハ理由書ヲ作リ其請求書ト共ニ地方長官ニ差出スヘシ若シ此期限ヲ過クルトキハ意見ヲ申立ルコトヘシ

ヲ得ス

第五條　地方長官ニ於テ第四條ノ辯明書若クハ理由書ヲ受理シタルトキハ十五日以内ニ雙方申立ノ事實圖面等ヲ調査シ書類ヲ添ヘ意見ヲ附シ農商務大臣ニ具申スヘシ

○鑛山試掘借區願書ニ圖面添付ノ件（二十四年三月二十七日農商務省令第四號）

明治二十四年五月一日以後鑛山試掘若クハ借區ノ願書ニハ圖面三葉ヲ添フヘシ

○山林原野及鑛山稟請ヲ要セス處分後報告スヘキ件（第三類第一章ニ載ス）

○鑛業條例（二十三年九月二十五日法律第八十七號）

朕鑛業條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

法律第八十七號

鑛業條例

第一章　總則

第一條　鑛業トハ鑛物ノ試掘採掘及之ニ附屬スル事業ヲ謂フ

第二條　鑛物ノ未タ採掘セサルモノハ國ノ所有トス

此ノ條例ニ於テ鑛物トハ金鑛（砂金ヲ除ク）銀鑛、銅鑛、鉛鑛、錫鑛（砂錫ヲ除ク）安質母尼鑛、水銀鑛、亞鉛鑛、鐵鑛（砂鐵ヲ除ク）硫化鐵鑛、滿奄鑛、砒鑛、黑鉛、石炭、石油及硫黄ヲ謂フ

第三條　帝國臣民ニ非サレハ鑛業人トナリ又ハ鑛業ニ關スル組合員又ハ會社ノ株主トナルコトヲ得ス

鑛業人未成年瘋癲白痴又ハ瘖瘂ナルトキハ後見人ヲ立ツヘシ

第四條　農商務省鑛山局及鑛山監督署ノ官吏ハ在職中鑛業人トナリ又ハ鑛業ニ關スル組合員又ハ會社ノ株主若ハ役員トナルコトヲ得ス

第五條　此ノ條例ニ依リ鑛業特許取消ノ處分ヲ受ケタル鑛業人ハ同鑛區ニ付一箇年間採掘ノ出願ヲ爲スコトヲ得ス

第六條　二人以上共同シテ鑛業ヲ爲ストキハ總代一名ヲ選定シ豫メ所轄鑛山監督署ニ屆出ツヘシ

總代ハ鑛業上ニ關シ政府ニ對シテ共同鑛業人ヲ代表スルモノトス

第七條　共同鑛業人ノ變更、採掘權ノ賣買、讓與、書入及廢業屆等ニハ總代ノ外少クモ共同鑛業人過半數ノ連署ヲ要ス

第二章　試掘及採掘

第八條　試掘ヲ爲サントスル者ハ其ノ願書ニ試掘地ノ圖面ヲ添ヘ所轄鑛山監督署長ニ差出シ其ノ認可ヲ受クヘシ

第九條　試掘ハ認可ノ日ヨリ一箇年ヲ限トス

試掘人前項ノ期限内ニ於テ其ノ事業ヲ竣ヘ難キ事實アルトキハ所轄鑛山監督署長ニ延期ヲ出願スルコトヲ得

所轄鑛山監督署長ハ其ノ事實ヲ調査シ已ムヲ得サルモノト認ムルトキハ一箇年以内ノ延期ヲ認可スルコトヲ得

第十條　試掘ニ依リ採取シタル鑛物ハ所轄鑛山監督署長ノ認可ヲ得テ之ヲ販賣スルコトヲ得

第十一條　前條ニ依リ鑛物ヲ販賣シタルトキハ三十日以内ニ其ノ販賣代價百分ノ一ヲ所轄鑛山監督署ニ納ムヘシ

前項ノ金額ヲ其ノ期限内ニ納メサル者ハ國税滞納處分法ニ依リ處分ス

第十二條　採掘ノ特許ヲ得ント欲スル者ハ採掘願書ニ鑛區圖ヲ添ヘ農商務大臣宛ニテ所轄鑛山監督署ニ差出スヘシ

採掘願書及鑛區圖ヲ同時ニ差出シ難キトキハ願書ノミヲ差出シ置キ鑛區圖ハ願書ノ日附ヨリ五十日以内ニ之ヲ差出スコトヲ得此ノ期限内ニ差出サヽルトキハ其ノ出願ヲ無効トス

第十三條　採掘ヲ出願スル者ハ出願地ニ其ノ採掘セントスル鑛物ノ存在スルコトヲ證明スヘシ

第十四條　鑛山監督署長ハ鑛物ノ存在ヲ認定スル爲ニ吏員ノ實地臨檢ヲ必要ト認ムルトキハ採掘出願人ヲシテ出張吏員ノ爲ニ制規ノ旅費日當ヲ前納セシムヘシ

採掘出願人前項旅費日當納付ノ通知ヲ受ケ通知書到達ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ納メサルトキハ其ノ出願ヲ無効トス

第十五條　鑛山監督署ニ於テハ試掘及採掘出願登録簿ヲ備ヘ置キ出願日時ノ先後ニ依リ之ヲ登録ス

第十六條　試掘又ハ採掘ノ出願同一ノ地ニ付二人以上アルトキハ出願日時ノ先後ニ依リ其ノ許否ヲ定ム

出願ノ日時同一ナルトキハ鑛山監督署長ハ其ノ旨ヲ各出願人ニ通知スヘシ各出願人ハ通知書ノ日附ヨリ六十日以内ニ協議ヲ遂ケ出願人ヲ定ムヘシ若シ協議調ハサルトキハ其ノ出願ヲ無効トス

出願ノ日時同一ニシテ試掘ト採掘トニ係ルトキハ先ツ採掘ノ出願ニ付其許否ヲ定ム

第十七條　農商務大臣採掘ノ特許ヲ與フヘキモノト認メタルトキハ鑛業特許證ヲ下付スヘシ

第十八條　試掘若ハ採掘ノ事業公益ヲ害スト認ムルトキハ試掘ニ就テハ所轄鑛山監督署長、採掘ニ就テハ農商務大臣其ノ出願ヲ許可セス

第十九條　試掘若ハ採掘ノ事業公益ニ害アルトキハ試掘ニ就テハ所轄鑛山監督署長採掘ニ就テハ農商務大臣既ニ與ヘタル認可若ハ特許ヲ取消スコトヲ得

鑛業人前項取消ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但損害ノ賠償ヲ要求スルコトヲ得ス

第二十條　特許ヲ得タル鑛物ノ採掘權ハ賣買、讓與又ハ書入ヲ爲スコトヲ得

採掘權ヲ賣買、讓與スルトキハ雙方連署シ所轄鑛山監督署ヲ經農商務大臣ニ出願シ鑛業特許證ノ書換ヲ受クヘシ此ノ手續ニ依ラサル賣買、讓與ハ法律上其ノ効ナキモノトス

採掘權ノ書入ハ雙方連署シ所轄鑛山監督署ノ登錄ヲ受クヘシ其ノ登錄ヲ受ケサルモノハ法律上其ノ効ナキモノトス

第二十一條　他人試掘ノ年限中ハ其ノ試掘地內ニ於テ同一ノ鑛物ニ付採掘ノ出願ヲ爲スコトヲ得ス

第二十二條　他人ノ認可ヲ得タル試掘地內ニ於テ其ノ試掘人ノ未タ認可ヲ得サル鑛物ノ試掘又ハ採掘ヲ出願セント欲スル者ハ試掘人ノ承諾ヲ經ヘシ

試掘人自ラ試掘又ハ採掘ヲ出願セント欲スルカ若ハ其ノ認可ヲ得タル鑛物ノ試掘ニ妨害アルトキノ外ハ試掘人ハ前項ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十三條　他人所屬ノ鑛區內ニ於テ其ノ鑛業人ノ未タ試掘ノ認可又ハ採掘ノ特許ヲ得サル鑛物ニ付試掘若ハ採掘ヲ出願セント欲スル者ハ鑛業人ノ承諾ヲ經ヘシ

鑛業人自ラ試掘又ハ採掘ヲ出願セント欲スルカ若ハ其ノ試掘又ハ採掘ノ爲ニ鑛業ニ妨害アルトキノ外ハ鑛業人ハ前項ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十四條　宮城、離宮、神宮、皇陵、陸海軍所轄城堡、軍港、要港、火藥製造所、火藥庫及彈藥庫ノ周圍三百間以內ノ場所ハ試掘又ハ採掘若ハ鑛業上使用スルコトヲ得ス但軍港、要港ハ其ノ鎭守府司令長官ノ許可ヲ得タル場合ニ於テハ此ノ限ニアラス

第二十五條　鐵道、馬車鐵道、公道、河湖、堤防、沼池、社寺、墓地、公園地及建物ヨリ地表地下トモ其周圍三十間以內ノ場所ニ於テハ所轄官廳若ハ所有者ノ承諾ヲ經ルニアラサレハ試掘又ハ採掘ヲ爲スコトヲ得ス但危險ノ虞ナキモノハ其ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十六條　鑛業人ハ毎年ノ鑛業施業案ヲ調製シ其ノ前年十月三十日限其ノ初年ニ係ルモノハ採掘特許ノ日ヨリ三箇月以內ニ所轄鑛山監督署長ニ差出シ認可ヲ受クヘシ

前項ノ施業案ニシテ坑內ノ保安ニ害アリ又ハ其ノ鑛區ニ相當スル鑛業ヲ爲サヽルモノト認メタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ其ノ理由ヲ鑛業人ニ示シ期限ヲ定メ之ヲ改正セシムヘシ

第二十七條　鑛業人ハ所轄鑛山監督署長ノ認可ヲ受ケタル鑛業施業案ニ依ルニアラサレハ採掘ヲ爲スコトヲ得ス

第二十八條　鑛業人鑛業施業案又ハ其ノ改正案ヲ期限內ニ差出サヽルトキハ農商務大臣ハ其ノ採掘ノ特許ヲ取消スコトヲ得

第二十九條　鑛業人一箇年以上休業シ又ハ採掘ノ特許ヲ得タル日ヨリ一箇年以內ニ鑛業ニ著手セサルトキハ農商務大臣ハ其ノ特許ヲ取消スコトヲ得

第三十條　前二條ノ場合ニシテ其ノ自己ノ過失ニ由ラサルモノハ特許取消ノ達ヲ受ケタル日ヨリ十四日以內ニ其ノ理由ヲ農商務大臣ニ申立テ再願ヲ爲スコトヲ得若シ農商務大臣ニ於テ之ヲ拒ムトキハ其ノ達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以內ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十一條　鑛業人ハ坑內實測圖二葉ヲ調製シ一葉ハ所轄鑛山監督署ニ差出シ一葉ハ鑛業

事務所ニ備ヘ置クヘシ

前項坑內實測圖ハ事業ノ進歩ニ從ヒ六箇月毎ニ追補スヘシ

鑛業人若シ他人ノ所屬ニ係ル隣接鑛區ノ坑內實測圖ニ付證明ヲ必要ト認ムルトキハ之ヲ所轄鑛山監督署長ニ請求スルコトヲ得

所轄鑛山監督署長ニ於テ右證明ノ爲ニ吏員ノ實地臨檢ヲ必要ト認ムルトキハ鑛業人ヲシテ出張吏員ノ爲ニ制規ノ旅費日當ヲ前納セシムヘシ

第三十二條　鑛業人鑛業特許證ヲ毀損若ハ亡失シタルトキハ事由ヲ具シ所轄鑛山監督署ヲ經其ノ再下付ヲ農商務大臣ニ出願スヘシ

第三十三條　詐僞又ハ錯誤ニ由リ試掘ノ認可ヲ得タルコトヲ發見シタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ其ノ認可ヲ取消スヘシ若シ其ノ認可ニ付利害ノ關係ヲ有スル者ニ於テ之ヲ發見シタルトキハ其ノ關係ヲ有スル者ハ認可ノ日ヨリ三箇月以內ニ試掘認可ノ取消ヲ所轄鑛山監督署長ニ訴願スルコトヲ得

前項所轄鑛山監督署長ノ判定ニ不服アル者ハ其ノ判定ノ日ヨリ三十日以內ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十四條　詐僞又ハ錯誤ニ由リ採掘ノ特許ヲ得タルコトヲ發見シタルトキハ農商務大臣ハ其ノ特許ヲ取消スヘシ若シ其ノ特許ニ付利害ノ關係ヲ有スル者ニ於テ之ヲ發見シタルトキハ其ノ關係ヲ有スル者ハ特許ノ日ヨリ三十日以內ニ採掘特許ノ取消ヲ農商務大臣ニ訴願スルコトヲ得

前項農商務大臣ノ裁定ニ不服アルモノハ其ノ裁定ヲ受ケタル日ヨリ三十日以內ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十五條　第二十二條第二項及第二十三條第二項ノ場合ニ於テ理由ナクシテ承諾ヲ拒ミタルトキハ關係人又第二十五條但書ノ場合ニ於テ危險ノ虞ナクシテ承諾ヲ拒ミタルトキハ鑛業人ハ所轄鑛山監督署長ノ判定ヲ請求スルコトヲ得

第三十六條　前條ノ判定ニ不服アル者ハ其ノ判定ヲ受ケタル日ヨリ三十日以內ニ農商務大臣ノ裁定ヲ請求スルコトヲ得

第三十七條　鑛業人廢業シタルトキハ其ノ旨ヲ所轄鑛山監督署ニ屆出テ鑛業特許證ヲ返納スヘシ

第三十八條　第十九條第二十八條第二十九條第三十四條第四十三條及第七十六條ニ依リ農商務大臣ニ於テ採掘ノ特許ヲ取消シ又ハ第三十七條ニ依リ廢業ノ屆出ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ特許ヲ得タル鑛物ノ採掘權ニ對シ抵當權ヲ有スル債主ハ其ノ抵當權ヲ失フモノトス但第十九條及第三十四條ノ場合ヲ除クノ外債主ニ於テ六十日以內ニ其ノ鑛區ノ採掘ヲ願出ルトキハ出願ノ先後ニ拘ハラス特許ヲ與フヘシ

第三十九條　鑛業人ハ毎年一月前年ニ採取シタル鑛物ノ量數、製產物、其ノ販賣高、販賣代價、行業日數及工數ヲ所轄鑛山監督署ニ屆出ツヘシ

第四十條　鑛業人ハ農商務大臣定ムル所ノ書式ニ依リ帳簿ヲ調製シ製產物ノ量數及販賣代價等ヲ記載スヘシ

第三章　鑛區

第四十一條　鑛區トハ鑛物ノ採掘ヲ爲ス土地ノ區域ヲ謂フ

鑛區ノ境界ハ直線ヲ以テ之ヲ定メ地表境界線ノ直下ヲ限トス其ノ一鑛區ノ面積ハ石炭ハ一萬坪以上其ノ他ノ鑛物ハ三千坪以上トシ共ニ六十萬坪ヲ超ユルコトヲ得ス

第四十二條　出願ニ係ル鑛區ノ位置形狀、鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損スヘキモノト認メタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ之ヲ出願人ニ通知シ訂正セシムヘシ

出願人前項ノ通知ヲ受ケ其ノ通知書到達ノ日ヨリ三十日以內ニ訂正シテ差出サヽルトキハ其ノ出願ヲ無効トス

第四十三條　特許ヲ得タル鑛區ノ位置形狀、鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損スヘキモノト認メタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ農商務大臣ノ認可ヲ經六十日以內ノ期限ヲ定メ訂正セシムヘシ若シ訂正セサルトキハ農商務大臣ハ既ニ與ヘタル特許ヲ取消スコトヲ得

鑛業人ハ前項特許取消ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以內ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第四十四條　鑛業人鑛床ノ形狀ニ由リ鑛區ノ境界若ハ位置ノ訂正ヲ要スルトキハ其ノ願書ニ理由書、訂正鑛區圖及鑛業特許證ヲ添ヘ農商務大臣宛ニテ所轄鑛山監督署ニ差出スヘシ」

農商務大臣ニ於テ訂正ヲ必要ト認メタルトキハ更ニ鑛業特許證ヲ下付スヘシ

第四十五條　鑛業人鑛區ノ訂正ヲ出願シタル場合ニ於テ所轄鑛山監督署長吏員ノ實地臨檢ヲ必要ト認ムルトキハ鑛業人ヲシテ出張吏員ノ爲ニ制規ノ旅費日當ヲ前納セシムヘシ

鑛業人前項旅費日當納付ノ通知ヲ受ケ其ノ通知書到達ノ日ヨリ十四日以內ニ之ヲ納メサルトキハ其ノ出願ヲ無効トス

第四十六條　鑛區ヲ合併シ又ハ分割セント欲スル者ハ合併又ハ分割鑛區圖及鑛業特許證ヲ添ヘ所轄鑛山監督署ヲ經テ農商務大臣ニ出願スヘシ其ノ採掘權ヲ抵當ニ取リタル債主アルトキハ其ノ承諾書ヲ添フヘシ

鑛區ノ分割ハ第四十一條ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス

第四章　土地使用

第四十七條　試掘又ハ採掘ヲ出願スル爲他人ノ土地ヲ測量スルコトヲ必要トスルトキハ所轄鑛山監督署ノ認可ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ土地ノ所有者又ハ關係人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス若シ測量ノ爲ニ損害ヲ生シタルトキハ其ノ測量ヲ請求シタル者ニ於テ之ヲ賠償スヘシ

測量請求者他人ノ所有地ニ入ルトキハ豫メ其ノ土地所有者ニ通知シ且測量認可證ヲ携帶スヘシ

第四十八條　左ノ場合ニ於テ鑛業上他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ必要トシ鑛業人其ノ貸渡

ヲ請求シタルトキハ其ノ土地ノ所有者又ハ關係人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

一　坑口ヲ開穿スル爲

一　鑛物及土石ノ堆積場ヲ設置スル爲

一　坑道、道路、鐵道、馬車鐵道、運河、溝渠及溜池ヲ開設スル爲

一　鑛業上必要ノ製錬場及建物ヲ建設スル爲

第四十九條　左ノ場合ニ於テハ土地所有者又ハ關係人ハ土地貸渡ノ請求ヲ拒ムコトヲ得

一　貸渡請求ノ土地第二十五條ニ記載シタル場所ニ係ルトキ

一　土地借受人ニ於テ第五十條ノ保證金ヲ差出サヽルトキ

第五十條　土地借受人ハ貸渡ヲ受ケタル土地ニ對シ其ノ土地貸渡人ニ相當ノ借地料ヲ仕拂フヘシ

土地貸渡人ハ借地料ノ保證金トシテ土地借受人ニ豫メ土地臺帳ニ記載シタル地價以內ノ金額ヲ差出サシムルコトヲ得

其ノ質入トナリタル土地ニ對スル借地料及保證金ハ質取主ニ於テ之ヲ受領スルモノトス」

土地使用ニ依リ所有者又ハ關係人ニ損害ヲ與フルトキハ鑛業人ハ之ニ對シ相當ノ賠償ヲ爲スヘシ

土地借受人土地ノ使用ヲ終リ其ノ使用中ノ借地料ヲ完納シタルトキハ土地貸渡人又ハ質取主ハ土地ト引換ニ保證金ヲ返還スヘシ

第五十一條　土地借受人貸渡ヲ受ケタル土地ノ使用ヲ終リタルトキハ土地貸渡人ノ要求ニ應シ其ノ土地ヲ原形ニ復シ返還スヘシ若シ原形ニ復シ難キトキハ土地借受人ニ於テ其ノ損害ヲ賠償スヘシ

第五十二條　土地借受人借地料ノ仕拂ヲ延滯シタルトキハ土地貸渡人ハ其ノ延滯借地料ニ相當スル金額ヲ保證金中ヨリ差引キ土地ヲ取戻スコトヲ得

前項土地ヲ取戻スニ當リ地上ニ建物等アルトキハ六十日以上ノ期限ヲ定メテ土地借受人ニ其ノ取除ヲ請求スヘシ若シ土地借受人ノ所在不分明ナルトキハ其ノ地方ノ新聞紙ヲ以テ其ノ旨ヲ公告スヘシ

土地借受人右期限內ニ取除ヲナサヽルトキハ其ノ建物等ハ土地貸渡人ノ所有ニ歸スヘシ

第五十三條　鑛業人ノ請求ニ依リ土地ヲ分割シテ賣渡シ又ハ貸渡シタルカ爲殘地ノ利用ヲ害スルトキハ鑛業人ニ對シ其ノ土地全部ノ買取若ハ借受ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ鑛業人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十四條　鑛業人ニ於テ貸渡ヲ受ケタル土地ヲ三箇年以上使用スル目的アルカ又ハ三箇年以上之ヲ使用スルトキハ土地貸渡人ハ鑛業人ニ其ノ土地ノ買取ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ鑛業人ハ其ノ買取ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十五條　土地ノ所有者及關係人ト測量請求人又ハ鑛業人トノ間ニ於テ土地貸渡、借地料、保證金、損害賠償金又ハ土地賣買代價ニ付協議調ハサルトキハ所轄鑛山監督署長ニ其

ノ判定ヲ請求スルコトヲ得

所轄鑛山監督署長ノ判定ニ不服アルトキハ其ノ判定ノ達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ土地貸渡ニ就テハ農商務大臣ニ其ノ裁定ヲ請求シ借地料、保證金、損害賠償金若ハ土地賣買代金ニ就テハ裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項農商務大臣ノ裁定ニ對シテハ他ニ出訴スルコトヲ得ス

第五十六條　所轄鑛山監督署長ノ判定又ハ農商務大臣ノ裁定請求ノ爲ニ要スル費用ハ民事訴訟入費ノ例ニ依リ負擔スヘキモノトス

第五十七條　鑛業人ハ土地所有者又ハ關係人ニ於テ所轄鑛山監督署長ノ判定シタル借地料、保證金、損害賠償金又ハ賣買代金ニ不服アルモ其ノ金額ヲ土地所有者又ハ關係人ニ渡シ若シ之ヲ受ケサルトキハ其ノ金額ヲ供託所ニ預ケ置キ土地ヲ使用スルコトヲ得

第五章　鑛業警察

第五十八條　鑛業ニ關スル警察事務ニシテ左ニ掲クルモノハ農商務大臣之ヲ監督シ鑛山監督署長之ヲ行フ

一　坑内及鑛業ニ關スル建築物ノ保安

一　鑛夫ノ生命及衛生上ノ保護

一　地表ノ安全及公益ノ保護

第五十九條　鑛業上ニ危險ノ虞アリ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ所轄鑛山監督署長ハ鑛業人ニ其ノ豫防ヲ命シ又ハ鑛業ヲ停止スヘシ

所轄鑛山監督署長ニ於テ鑛業ヲ停止セントスルトキハ其ノ猶豫シ難キ場合ヲ除クノ外ハ農商務大臣ノ認可ヲ經ヘシ

第六十條　前條第一項ノ場合ニ於テ鑛業人直ニ其ノ豫防ニ著手セサルトキハ所轄鑛山監督署長ハ鑛業人ノ使用スル役員及鑛夫ヲ指揮シ其ノ豫防ヲ執行スヘシ

此ノ場合ニ於テ鑛業人ハ其ノ使用スル役員及鑛夫ヲ豫防ノ用ニ供シ且一切ノ費用ヲ負擔スルノ義務アルモノトス

第六十一條　第五十九條ニ依リ鑛業ヲ停止シタル後其ノ事故止ミタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ直ニ鑛業ノ停止ヲ解キ其ノ旨ヲ農商務大臣ニ具申スヘシ

第六十二條　農商務大臣ニ於テ此ノ條例ニ依リ採掘ノ特許ヲ取消シタルトキ又ハ鑛業人廢業シタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ六十日以上ノ期限ヲ定メ鑛業ノ爲建設シタル家屋及其ノ他ノ建物等ヲ除去セシムヘシ若シ右期限内ニ除去セサルトキハ其ノ建物等ハ土地所有者ノ所有ニ歸ス但所轄鑛山監督署長ニ於テ坑内保安ノ爲ニ必要ト認ムル坑内及坑口ノ構造物ハ之ヲ除去スルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ鑛業人ノ所在不分明ナルトキハ第五十二條第二項ノ手續ニ依ルヘシ

第六十三條　農商務大臣ハ此ノ條例ノ範圍内ニ於テ省令ヲ以テ鑛業警察規則ヲ定ムルコトヲ得

第六章　鑛夫

第六十四條　鑛夫トハ鑛物ノ採掘及之ニ附屬スル業務ニ從事スル男女ノ職工ヲ謂フ

鑛業人ハ其ノ使役スル鑛夫ノ使役規則ヲ定メ所轄鑛山監督署ノ認可ヲ受クヘシ

第六十五條　鑛業人ト鑛夫トノ間ニ特別ノ約定ナキ場合ニ於テ雙方トモ十四日以前ニ通知スルトキハ雇役ノ解約ヲナスコトヲ得

第六十六條　左ノ場合ニ於テハ鑛業人ハ何時タリトモ鑛夫ヲ解雇スルコトヲ得

一　輕罪以上ノ刑ニ處セラレタルカ又ハ不行狀ノ所爲アルカ若ハ命令ヲ遵守セサルトキ

一　鑛業人又ハ其ノ使用スル役員ニ對シ粗暴ノ所爲アリタルトキ

一　身體虛弱ニシテ業務ニ堪ヘサルトキ

一　鑛業ヲ禁止セラレ又ハ廢業シタルトキ

第六十七條　左ノ場合ニ於テハ鑛夫ハ何時タリトモ其ノ雇役ヲ罷ムルコトヲ得

一　身體虛弱ニシテ業務ニ堪ヘサルトキ

一　鑛業人又ハ其ノ使用スル役員ニ於テ虐待シタルトキ

一　約定ノ賃錢又ハ報酬ヲ給與セサルトキ

第六十八條　鑛業人又ハ其ノ代理人ハ解雇スル鑛夫ノ請求ニ依リ從來ノ業務年限、本人ノ技能、賃錢及解雇ノ事由ヲ記載シタル證明書ヲ與フヘシ

鑛業人證明書ヲ與フルコトヲ拒ムカ又ハ鑛夫ニ於テ證明書中不當ト認ムル事項アルトキハ所轄鑛山監督署員若ハ警察官ニ申告スルコトヲ得

第六十九條　鑛業人ハ鑛夫ノ賃錢ヲ通貨ニテ仕拂フヘシ鑛夫ノ請求アルニアラサレハ物品ヲ以テ仕拂ヲ爲スコトヲ得ス

第七十條　鑛業人ハ鑛夫名簿ヲ備ヘ置キ氏名、年齡、本籍、職業、雇入及解雇ノ年月日ヲ記入スヘシ

第七十一條　農商務大臣ハ左ニ記載スル制限內ニ於テ省令ヲ以テ鑛夫工役規則ヲ定ムルコトヲ得

一　一日十二時間以上ノ就業時間ヲ制限スルコト

一　女工ノ工役ノ種類ヲ制限スルコト

一　十四年以下ノ男女職工ノ就業時間及工役ノ種類ヲ制限スルコト

第七十二條　鑛業人ハ左ノ場合ニ於テ其ノ雇入鑛夫ヲ救恤スヘシ其ノ救恤規則ハ所轄鑛山監督署ノ認可ヲ受クヘシ

一　鑛夫自己ノ過失ニ非スシテ就業中負傷シタル場合ニ於テ診察費及療養費ヲ補給スルコト

一　前項ノ場合ニ於テ鑛夫ニ療養休業中相當ノ日當ヲ支給スルコト

一　前項ノ負傷ニ由リ鑛夫ノ死亡シタルトキ埋葬料ヲ補給シ及遺族ニ手當ヲ支給スルコト

一　前項ノ負傷ニ由リ癈疾トナリタル鑛夫ニ期限ヲ定メ補助金ヲ支給スルコト

第七章　鑛業稅及鑛區稅

第七十三條　鑛業人ハ鑛業稅トシテ鑛業製產物ノ價格百分ノ一鑛區稅トシテ鑛區一千坪每ニ一箇年金三十錢ヲ納ムヘシ但一千坪未滿ノ端數ニ對スル鑛區稅ハ之ヲ免除ス

鐵鑛ヲ採掘スル者ニハ鑛業稅ヲ課セス

第七十四條　前條鑛業製產物ノ價格ハ主要ナル市場ノ平均相場ヲ標準トシ農商務大臣ノ告示スル所ニ依ル但市場ノ相場ナキモノハ其ノ販賣代價ニ依ル

第七十五條　鑛業稅ハ前年分ヲ每年三十一日限ニ又廢業ノ年ニ係ルモノハ廢業ノ日ヨリ六十日以內ニ之ヲ納ムヘシ

鑛區稅ハ一箇年分ヲ其ノ前年十二月十五日限ニ又初年ニ係ルモノハ月割ヲ以テ採掘出願特許ノ日ヨリ六十日以內ニ之ヲ納ムヘシ其ノ廢業ノ年ニ係ルモノハ之ヲ返付セス

第七十六條　鑛業人納稅期限內ニ鑛業稅及鑛區稅ヲ納メサルトキハ農商務大臣ハ採掘ノ特許ヲ取消スコトヲ得其ノ取消ニ不服アルトキハ其ノ達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以內ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第八章　罰則

第七十七條　第二十四條第二十五條ヲ犯シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十八條　特許ヲ得スシテ採掘ヲ爲シタル者又ハ詐僞ニ由リテ特許ヲ得タル者ハ十五圓以上百五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十九條　認可ヲ得スシテ試掘ヲ爲シタル者又ハ詐僞ニ由リテ認可ヲ得タル者又ハ認可ノ期限ヲ過キ尙ホ試掘ヲ爲シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十條　第二十七條ヲ犯シタル者及第五十九條ノ豫防ニ著手セサル者又ハ第六十二條但書ノ規定ヲ犯シタル者ハ十五圓以上百五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條第一項及第二項ヲ犯シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十一條　第十條ヲ犯シタル者ハ其ノ賣得金ノ半額ニ相當スル罰金ニ處ス

第八十二條　第十一條ノ販賣代價ヲ隱匿シタル者ハ其ノ隱匿シタル金額ノ半額ニ相當スル罰金ニ處ス

第八十三條　第三十九條ニ依リ屆出ツヘキ事項ヲ詐テ逋稅シタル者ハ其ノ逋稅金額ノ三倍ニ相當スル罰金ニ處シ其ノ逋稅ニ關セサル事項ニ係ルモノハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十四條　第四十條ノ帳簿ヲ調製セス若ハ記載ヲ怠リ若ハ詐テ記載シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十五條　第六十四條第二項第六十九條及第七十二條ヲ犯シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十六條　第六條第三十七條第六十八條及第七十條ニ違背シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第八十七條　第八十一條第八十二條及第八十三條ノ場合ニ於テ自首シタル者ハ其ノ納付ス

ヘキ金額ヲ追徵シ其ノ罪ヲ問ハス

第八十八條　此ノ條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重及數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

鑛業人未成年瘋癲白痴又ハ瘖啞ニシテ此ノ罰則ヲ犯シタルトキハ其ノ後見人ヲ處罰ス

第九章　附則

第八十九條　此ノ條例實施以前ニ許可ヲ得タル試掘人又ハ借區人ハ其ノ許可ヲ得タル年限中試掘又ハ鑛業ヲ爲スコトヲ得

第九十條　此ノ條例實施以前ニ借區人ノ許可ヲ得借區年限滿期後尙ホ引續キ鑛業ヲ爲サントスル者ハ借區滿期以前ニ此ノ條例ニ依リ出願スヘシ

第九十一條　此ノ條例ノ施行ニ關スル細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第九十二條　此ノ條例ハ明治二十五年六月一日ヨリ施行ス明治六年太政官第二百五十九號布告日本坑法ハ同日限之ヲ廢止ス

●沿革要領

明治二年二月布告ヲ以テ鑛山開採出願ヲ許ス○四年七月布告ヲ以テ年分諸鑛物堀出高ヲ屆出シム○五年三月第百號布告ヲ以テ鑛山心得書ヲ頒布ス○六年七月第二百五十九號布告ヲ以テ日本坑法ヲ定ム○七年十一月第百二十四號布告ヲ以テ將來開發ノ坑物ヲ引當トシテ外國人ヨリ金錢ヲ借受ケ又ハ外國人ニ賣渡スヲ禁ス○八年一月第二號布告ヲ以テ日本坑法第八章ニ揭ル坑物稅當分ノ內廢止ス○九年二月內務省甲第二號布達ヲ以テ官有地土石堀取規則ヲ定ム○同年四月第四十九號布告ヲ以テ身代限處分ヲ受クル者處分濟マテ坑業ヲ禁ス○十一年二月第三號布告ヲ以テ北海道鑛山稅ハ月割ヲ以テ納メシム○二十一年十一月內務省令第九號ヲ以テ前令ヲ廢ス○二十三年九月法律第八十七號ヲ以テ鑛業條例ヲ制定シ二十五年六月ヨリ施行ス

第十六類

第一章　商業會議所　特許　意匠　商標

○商業會議所條例（二十三年九月十一日法律第八十一號）

朕商業會議所條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名　御璽

法律第八十一號

商業會議所條例

第一條　此條例ニ商業者ト稱スルハ商法第四條ニ揭ケタル商取引ノ各部類ニ屬スル商人及作業人ヲ謂フ

第二條　商業會議所ヲ設立セントスルトキハ其地ノ商業者中此條例ニ依リ會員タルヲ得ヘキ者發起人ト爲リ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ノ認可ヲ請フヘシ但發起人ノ數ハ定款ヲ以テ定ムヘキ會員ノ半數以上ナルコトヲ要ス

地方長官ハ前項ノ申請ヲ受ケタルトキハ郡若クハ市參事會ニ諮問シ其意見ヲ徵シ尙ホ自己ノ意見ヲ添ヘ農商務大臣ニ進達スヘシ

第三條　會議所設立地ノ境界ハ市町村ノ區域ニ依ルヘシ但土地商業ノ情況ニ由リ數市町村ノ區域ヲ互ニ聯合シテ其地ニ一會議所ヲ設立スルコトヲ得

第四條　會議所ノ事務權限左ノ如シ

一　商業ノ發達ヲ圖リ若クハ其衰退ヲ防クニ必要ノ方案ヲ議定スルコト

二　商業ニ關スル法律規則ノ制定改正廢止及施行方法其他商業上ノ利害ニ關スル意見ヲ官廳ニ開申スルコト

三　商業ノ實況及其統計ヲ官廳ニ報告スルコト

四　商業ニ關スル事項ニ付官廳ノ諮問ニ應答スルコト

五　法律命令若クハ官ノ委任ニ依リ其地ノ公設營業所仲立人組合及商業ニ關スル諸營造物ヲ管理スルコト

六　仲立人ノ資格員數及手數料ヲ審査スルコト

七　關係人ノ請求ニ依リ其地ノ商業ニ關スル紛議ヲ仲裁スルコト

第五條　會議所設立地ノ商業者ニシテ所得稅ヲ納ムル者ハ會員ノ選擧權ヲ有ス

第六條　會議所設立地ニ於テ所得稅ヲ納ムル商業者ニシテ年齡三十歲以上ノ男子及商事會社ハ會員ノ被選擧權ヲ有ス

商事會社ヲ代表スヘキ者ハ法律上其會社ノ代理權ヲ有スル者一員ニ限ル

第七條　第五條及第六條ノ規定中會員ノ選擧權及被選擧權ニ關スル財產上ノ資格ニ付テハ農商務大臣ハ地方ノ情況ニ依リ省令ヲ以テ特ニ其所得稅ノ等級ヲ定メ又ハ他ノ國稅ヲ加フルコトヲ得

第八條　左ニ揭クル者ハ會員ノ選擧權及被選擧權ヲ有セス

一　瘋癲白癡ノ者

二　重禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレ又ハ商業及農工ノ業ヲ防害スル罪、財產ニ對スル罪、風俗ヲ害スル罪及信用ヲ害スル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレ滿期後又ハ赦免後三箇年ヲ經サル者

三　公權剝奪若クハ停止中ノ者

第九條　會員ノ數ハ十五名以上五十名以下各會議所ノ定款ヲ以テ定ムヘシ

第十條　會員ハ無給トス其任期ハ四箇年トシ毎二年其半數ヲ改選ス初回ノ解任者ハ抽籤ヲ以テ定ムヘシ

第十一條　會員當選者ハ左ニ揭クル者ヲ除クノ外會議所ノ議決ヲ經スシテ其就職ヲ辭シ又ハ任期中辭職スルコトヲ得ス

一　疾病若クハ老衰ニ依リ職務ニ堪ヘサルコトヲ證明スル者

二　營業ノ爲メ常ニ會議所設立地ニ住居スル能ハサルコトヲ證明スル者

第十二條　前條ノ規定ニ依ルニ非スシテ會員ノ職ヲ辭スル者ハ會議所ノ議決ヲ以テ二百圓以下ノ過怠金ヲ課スルコトヲ得

第十三條　會員ノ選擧ハ郡長若クハ市長委員ヲ命シ日時及場所ヲ定メテ施行セシムヘシ其費用ハ會議所ノ負擔トス

第十四條　會議所ノ會議ハ第四條第二項第四項及第七項ノ事件ニ係ル會議ハ公開スルコトヲ得ス

前項ノ外農商務大臣ノ命令又ハ會議所ノ議決ヲ以テ公開ヲ禁スルコトヲ得

第十五條　會議所ハ第四條第七項ノ場合ニ於テ其關係人ヨリ相當ノ手數料ヲ徵收スルコトヲ得

第十六條　會議所ハ法人トシテ財產ヲ所有スルモノトス

第十七條　會議所ハ其議決ニ依リ會員定數ノ五分一ヨリ多カラサル特別會員ヲ置キ會議ニ參列セシムルコトヲ得但特別會員ハ其議決ニ加フルコトヲ得ス

特別會員ノ資格ハ學術技藝若クハ商業上ノ經驗アル者タルヘシ

第十八條　會議所經費ノ豫算ハ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

豫算ノ決算ハ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ニ報告スヘシ

第十九條　會議所ノ經費ハ會員ノ選擧權ヲ有スル者ヨリ徵收ス其徵收方法ハ會議所ノ議決ヲ以テ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

經費ヲ納期ニ納メサル者アルトキハ其地ノ地方稅收入役ニ囑託シテ之ヲ徵收スルコトヲ得

收入役ノ督促ヲ受クルモ經費ヲ納メサル者ハ會員ノ選擧權及被選擧權ヲ四箇年以上八箇年以下停止シ尙ホ二百圓以下ノ過料ニ處ス

第二十條　會議所ノ定款ハ會議所ノ議決ヲ以テ左ノ事項ヲ規定シ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

一　會員選擧規則
二　議事規則
三　庶務規程
四　役員職務權限
五　仲裁規則
六　會計規則
七　公設ノ營造物若クハ其營業所ノ管理規則

第二十一條　農商務大臣ハ會議所其權限ヲ犯シ又ハ商業上有害ノ行爲アリト認メタルトキハ會議ヲ停止シ尙ホ其情況ニ依リ役員若クハ會員ノ幾部又ハ全部ノ改選ヲ命スルコトアルヘシ

第二十二條　農商務大臣ハ此條例施行ノ責ニ任シ之カ爲メ必要ナル命令ヲ發スヘシ

○商業會議所條例施行規則

二十三年九月十八日農商務省令第十二號

商業會議所條例施行規則左ノ通相定ム

商業會議所條例施行規則

第一條　商業會議所設立ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ會員選擧規則及ヒ設立費用ノ豫算ヲ添ヘ認可ヲ請クヘシ

一　會議所ノ名稱
二　設立地ノ區域

三　設立地ノ商業者中會員ノ選擧權ヲ有スル者及被選擧權ヲ有スル者ノ概數
四　會員ノ定數

第二條　設立認可ヲ得タルトキハ發起人ニ於テ其旨公告シ商業會議所條例第五條及ビ第六條ニ依リ會員選擧人及被選擧人ノ名簿ヲ六十日以內ニ調製シ認可ニ係ル書類ヲ添ヘ其地ノ郡長若クハ市長ニ會員選擧ノ施行ヲ求ムヘシ

但設立地ノ區域數市町村ニ亘ルトキハ會議所ヲ建設スヘキ地ノ郡長若クハ市長ニ請求スヘシ

第三條　會議所設立發起人又ハ會議所ヨリ會員選擧施行ノ請求ヲナシタルトキハ郡長若クハ市長ハ十五日以內ニ選擧委員五名ヲ命シ少クトモ十五日以上ノ豫告ヲナシ其選擧ヲ施行セシムヘシ

第四條　第一條ノ申請書ニ依リ認可ヲ得タル會員ノ定數會員選擧規則及第二條ニ依リ調製シタル會員選擧人及被選擧人名簿ハ會議所定款認可ノ日マテ効力ヲ有スルモノトス

第五條　會議所又ハ其ノ設立發起人ニ於テ會員選擧人及被選擧人名簿ヲ調製スルトキ其ノ納稅額竝年齡ノ調査ニ付テハ地方長官ノ證明ヲ受クヘシ

第六條　會議所ノ定款ハ會員選擧ノ後六十日以內ニ議定シテ認可ヲ請クヘシ

第七條　第二條及第六條規定ノ期限內ニ其手續ヲ爲シ能ハサルトキハ事由ヲ詳記シ其期限內ニ延期ヲ請フコトヲ得（二十四年三月十一日農商務省令第三號ヲ以テ追加ス）

○商業會議所條例中所得稅等級（二十三年十月三十一日農商務省令第十七號）

東京市ニ於テハ商業會議所條例第五條及第六條中所得稅ノ等級ヲ明治二十年三月勅令第五號所得稅法第四條ノ第四等以上トス

○商業會議所會員ノ選擧ヲ終リタルトキ郡長市長執行手續（二十三年十二月二十二日農商務省訓令第六十八號府縣（沖繩縣ヲ除ク））

明治二十三年九月農商務省令第十二號商業會議所條例施行規則第三條ニ依リ會員ノ選擧ヲ終リタルトキハ選擧ヲ施行シタル郡長若クハ市長ヲシテ左ノ手續ヲ執行セシムヘシ

一會員常選者ニ當選ノ通知書ヲ交付スヘシ但商事會社ニハ通知書ヲ交付スルト同時ニ其代表人ノ氏名ノ屆出ヲ命スヘシ

二選擧ニ關スル書類物件ハ會議所ニ引繼クヘシ

三最初ノ選擧ヲ施行シタルトキハ其選擧ヲ終リタル日ヨリ十五日以內ニ時日場所ヲ指定シ會員當選者ヲ召集シ初回ノ會議ヲ開カシムヘシ

○特許條例（二十一年十二月十八日勅令第八十四號）

朕特許條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

勅令第八十四號

特許條例

第一條　新規有益ナル工術、機械、製造品及合成物ヲ發明シ又ハ工術、機械、製造品及合成物ノ新規有益ナル改良ヲ發明シタル者ハ此條例ニ依リ特許ヲ受クルコトヲ得

特許トハ發明者ニ他人ヲシテ其承諾ヲ經スシテ前項ノ發明ヲ製作、使用又ハ販賣セシメサル特權ヲ許スコトヲ謂フ

第二條　左ニ揭クル發明ハ特許ヲ受クルコトヲ得サルモノトス

一飲食物嗜好物

二醫藥並其調合法

三特許出願以前公ニ用ヒラレタルモノ但試驗ノ爲メ公ニ知ラレタルコト二年以内ノモノハ此限ニ在ラス

第三條　特許ヲ受ケント欲スル者ハ一發明毎ニ發明ノ明細書及必要ノ圖面ヲ添ヘ農商務大臣ニ出願スヘシ但其願書明細書及圖面ハ特許局ニ差出スヘシ

第四條　特許ヲ出願スル者アルトキハ特許局長ハ特許局審査官ヲシテ其發明ヲ審査セシメ特許ヲ與フヘシト査定シタルモノハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ特許原簿ニ登錄シ特許證下付ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條　特許證ハ農商務大臣之ニ署名シ特許局長之ニ副署シ明細書及必要ノ圖面ヲ添ヘ之ヲ下付スルモノトス

第六條　特許ノ年限ハ五年十年及十五年ノ三種ト爲シ原簿登錄ノ日ヨリ起算ス

第七條　公益ノ爲メ普及ヲ要スルモノ又ハ軍事上必要ナルモノ若クハ秘密ヲ要スルモノト認メタル發明ニハ農商務大臣ハ特許ニ制限ヲ附シ若クハ特許ヲ與ヘス又ハ既ニ與ヘタル特許ヲ制限シ若クハ之ヲ取消スコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テ農商務大臣ハ相當ト認ムル報酬ヲ發明者又ハ特許證主ニ與フルモノトス

第八條　他人ノ特許發明ヲ改良シ其改良發明ノ特許ヲ受ケント欲スル者ハ其特許證主ニ協議シ原發明ニ改良發明ヲ合セテ使用スルノ承諾ヲ經第三條ニ依リ出願スヘシ

特許證主其承諾ヲ拒ミタルトキハ其旨ヲ願書ニ記載シテ出願スルコトヲ得此場合ニ於テハ農商務大臣ハ原發明ヲ改良發明ニ合セテ使用スルノ特許ヲ改良發明者ニ與フルコトヲ得

改良發明者前項ノ特許ヲ受ケタルトキハ原特許證主ニ農商務大臣ノ相當ト認ムル報酬ヲ與フル義務アルモノトス

第九條　特許ヲ受ケタル者又ハ之ヲ受ケントスル者死亡シタルトキハ其權利ハ相續者ニ屬スルモノトス

第十條　特許ヲ受ケタル發明ト雖トモ左ニ揭クルモノハ其特許ヲ無効トス

一　新規又ハ有益ナラサリシコトヲ發見セラレタルモノ

二　第二條ニ該ルコトヲ發見セラレタルモノ

三　發明ヲ實施スルニ必要ナル事實ヲ故意ニ明細書ニ記載セサリシコトヲ發見セラレタルモノ

四　發明ヲ實施スルニ必要ナラサル事實ヲ故意ニ明細書ニ記載セシコトヲ發見セラレタルモノ

第十一條　特許局審査官特許出願ノ發明ヲ審査シ特許ヲ與フヘカラスト査定シタルトキハ特許局長ハ其査定書ヲ出願人ニ送付スヘシ

第十二條　前條ノ査定ニ服セサル者ハ特許局ニ不服理由書ヲ差出シ再審査ヲ請求スルコト

ヲ得

再審査ヲ請求スル者アルトキハ特許局長ハ特許局審査官ヲシテ更ニ之ヲ審査セシムヘシ

審査官其不服理由ヲ不當ト査定シタルトキハ其査定書ヲ不服者ニ送付スヘシ

第十三條　特許局審査官特許出願ノ發明他人ノ特許出願中ノ發明ト抵觸シ又ハ他人ノ特許發明ト抵觸スト査定シタルトキハ特許局長ハ其抵觸ノ箇所ヲ關係人ニ告知シ其發明ニ關スル始末書ヲ差出サシムヘシ

關係人始末書ヲ差出シタルトキハ特許局長ハ之ヲ特許局審査官ニ付シテ發明ノ先後ヲ審査セシ其審定書ヲ關係人ニ送付スヘシ

第十四條　前條ノ場合ニ於テ既ニ與ヘタル特許證ヲ取消シ出願ノ發明ニ特許ヲ與フルトキハ其特許年限ハ前特許證登錄ノ日ヨリ起算シ其年限ニ超ルコトヲ得ス

第十五條　第十二條ノ再査定及第十三條ノ査定ニ服セサル者ハ特許局ニ審判ヲ請求スルコトヲ得

第十六條　特許證主其權利ノ他特許證主ノ權利ト撞著スルコトヲ發見シタルトキハ其權利ヲ確定スル爲メ特許局ニ審判ヲ請求スルコトヲ得

第十七條　特許ヲ受ケタル發明第十條ニ該ルコトヲ發見シタル者ハ其特許ヲ無効トスル爲メ特許局ニ審判ヲ請求スルコトヲ得

第十八條　審判ヲ請求スル者アルトキハ特許局ニ於テ局長ハ審判長トナリ二人以上ノ審判官ト共ニ之ヲ審判スヘシ

第十九條　特許局ノ審判ニ對シテハ不服ヲ申立又ハ裁判所ニ訴フルコトヲ得ス

第二十條　第十三條ノ審査及特許局ノ審判ニ關シ關係人ニ於テ證據ヲ要スルトキハ其請求ニ依リ特許局長ハ其集取ヲ治安裁判所ニ囑託スルコトヲ得

第二十一條　第十六條第十七條ニ係ル費用ハ民事訴訟入費ノ例ニ依リ負擔スヘキモノトス

第二十二條　特許ハ制限ヲ附シ若クハ附セスシテ賣與讓與シ若クハ共有トナシ又ハ書入トナスコトヲ得此場合ニ於テハ特許局ニ請求シ契約ノ登錄ヲ受クヘシ登錄ヲ受ケサル契約ハ第三者ニ對シ法律上其効ナキモノトス

第二十三條　特許局ノ官吏ハ在職中特許ヲ出願シ又ハ特許ヲ新ニ有スルコトヲ得ス但相續ニ由リ特許ヲ新ニ有スルハ此限ニ在ラス

第二十四條　特許ハ左ノ場合ニ於テ其効ヲ失フモノトス

一　特許證主相當ノ事故ナクシテ特許證ノ日附ヨリ三年ヲ經テ其發明ヲ實施公行セサルトキ

二　特許證主相當ノ事故ナクシテ其發明ノ實施公行ヲ三年間中止シタルトキ

三　特許證主其特許品ヲ外國ヨリ輸入シテ之ヲ販賣シ又ハ自己ノ權利ヲ侵スヘキ物品ヲ外國ヨリ輸入シテ販賣スル者アルコトヲ知リテ之ヲ默許シタルトキ

第二十五條　特許證主特許證ヲ毀損若クハ亡失シタルトキハ事由ヲ具シ再下付ヲ出願スル

コトヲ得

第二十六條　特許證主其明細書若クハ圖面ノ不完全ナルコトヲ發見シタルトキハ特許ノ効力ヲ全クスル爲メ改訂明細書若クハ圖面ヲ添ヘ特許證ノ改訂ヲ出願スルコトヲ得但其發明ノ要部ニ變更ヲ生スルモノハ此限ニ在ラス

第二十七條　特許證主其明細書中ニ自己ノ發明ニアラサル事項ヲ誤テ自己ノ發明トシテ記載セシコトヲ發見シタルトキハ其削除ヲ出願スルコトヲ得

第二十八條　第二十六條第二十七條ニ依リ出願スルモノアルトキハ特許局長ハ其願書ヲ特許局審査官ニ付シテ審査セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ特許局審査官ノ査定ニ服セサル者ハ第十二條ニ依リ再審査ヲ請求スルコトヲ得

第二十九條　特許證主ハ其物品ニ農商務大臣ノ定メタル特許標記ヲ爲スヘシ

第三十條　特許ニ關シ出願又ハ請求スル者ハ左ノ手數料ヲ納ムヘシ

一　特許ヲ出願スルトキ　一發明毎ニ金五圓

二　特許ノ賣與讓與共有又ハ書入契約ノ登錄ヲ請求スルトキ　一發明毎ニ金三圓

三　特許證ノ再下付ヲ出願スルトキ　證書一枚毎ニ金壹圓

四　特許證ノ改訂又ハ明細書中ノ削除ヲ出願スルトキ　一發明毎ニ金五圓

五　審判ヲ請求スルトキ　一事件毎ニ金七圓

第三十一條　特許證又ハ改訂特許證ヲ受クル者ハ一證書毎ニ左ノ區別ニ從ヒ特許料ヲ納ムヘシ

一　五年ノ特許　金拾圓

二　十年ノ特許　金拾五圓

三　十五年ノ特許　金貳拾圓

第三十二條　特許局ハ時々特許發明ノ明細書及特許公報ヲ印刷シ衆庶ノ縱覽ニ供スヘシ其請求者アルトキハ相當代價ヲ以テ之ヲ拂下クルコトヲ得

第三十三條　特許ニ關スル書類ノ謄本又ハ圖面ノ謄製ヲ要スル者ハ特許局ニ之ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ相當ノ手數料ヲ納ムヘシ

第三十四條　特許ヲ侵シタル者ハ其特許證主ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ

第三十五條　前條損害賠償ノ責ハ三年ヲ以テ期滿免除ノ期トス

第三十六條　他人ノ特許品ヲ僞造シテ使用若クハ受託販賣シタル者又ハ他人ノ特許工術ヲ竊用シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

特許證主ノ權利ヲ侵スヘキ物品ナルコトヲ知リ之ヲ外國ヨリ輸入シテ使用若クハ販賣シタル者又ハ情ヲ知リ其輸入シタル物品ヲ使用若クハ受託販賣シタル者ハ罰前項ニ同シ

第三十七條　前條ノ場合ニ於テハ其犯罪ノ物件ヲ沒收シテ特許證主ニ給付シ其既ニ賣捌キ

タルモノハ代價ヲ追徵シテ之ヲ給付ス

第三十八條　詐欺ノ所爲ヲ以テ特許證ヲ受ケタル者又ハ特許ヲ受ケサル物品ニ特許標記若クハ之ニ類似シタル標記ヲ爲シテ販賣シタル者又ハ情ヲ知リテ其物品ヲ受託販賣シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條　第三十六條ノ犯罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

前項ノ場合ニ於テ告訴人ノ請求ニ依リ裁判官ハ假ニ其告訴ニ係ル物品ノ使用若クハ販賣ヲ差止ムルコトヲ得

第四十條　特許證主其特許品ニ第二十九條ノ特許標記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキハ告訴又ハ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス

第四十一條　被告人特許ノ無効タルコトヲ以テ答辯セント欲スルトキハ其旨ヲ裁判所ニ申告シ其日ヨリ三十日以内ニ特許局ニ第十七條ノ審判ヲ請求スヘシ此場合ニ於テ裁判所ハ特許局ノ審判終結マテ其裁判ヲ中止スヘシ

第四十二條　此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第四十三條　此條例施行ノ細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第四十四條　此條例ハ明治二十二年二月一日ヨリ施行ス

第四十五條　明治十八年四月第七號布告專賣特許條例ハ此條例施行ノ日ヨリ廢止ス但專賣特許條例ニ依テ受ケタル專賣特許ハ此條例ニ依テ受ケタル特許ト同一ノ効アルモノトス

專賣特許出願ノ此條例施行ノ日ニ於テ處分ヲ終ラサルモノハ此條例ニ依リ處分ス

○特許條例意匠條例商標條例ノ特許料登錄料手數料ハ登記印紙ヲ以テ納メシム　二十一年十二月二十五日閣令第二十三號

特許條例意匠條例商標條例ノ特許料登錄料及特許條例第三十條意匠條例第十八條商標條例第十七條ノ手數料ハ登記印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

○特許條例施行細則　二十二年一月四日農商務省令第一號

特許條例施行細則ヲ定ムルコト別冊ノ如シ

（別冊）

特許條例施行細則

第一條　特許條例ニ依リ差出ス願書ハ第一號ヨリ第八號ニ至ル書式ニ從ヒ之ヲ認メ同條例第三十條ノ手數料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用スヘシ

第二條　明細書ニハ明細書交例ニ準シ左ノ諸件ヲ記載スヘシ

一　發明ノ名稱

二　發明ノ目的及性質ノ要領

三　圖面アルトキハ其略解

四　發明ノ詳細說明

五　改良發明ニ係ルトキハ其原發明トノ區別

六　特許請求ノ區域

第三條　圖面ニハ製圖例ニ準シ特許請求ノ區域ヲ明了ナラシムルニ必要ナル發明ノ部分ヲ示シ改良發明ニ係ルトキハ更ニ原發明ノ改良發明ト結合スヘキ部分ヲ示スヘシ

第四條　特許願書及明細書圖面ヲ同時ニ差出シ難キトキハ願書ノミヲ差出シ置キ明細書圖面ハ願書ノ日附ヨリ三十日以内ニ之ヲ差出スコトヲ得此期限内ニ差出サヽルトキハ出願ヲ無効トス

前項期限内ニ明細書圖面ヲ差出ストキハ何年何月何日附何發明ノ願書ニ添フヘキモノナルコトヲ記シタル書面ヲ添フヘシ

第五條　特許條例第八條ニ依リ改良發明ノ特許ヲ願出ルトキハ願書ニ特許證主ノ承諾書若シ承諾ヲ經ル能ハサルトキハ其事由書ヲ添ヘテ差出スヘシ

第六條　特許條例第二十六條ニ依リ特許證ノ改訂ヲ願出ルトキハ其事由ヲ記載シタル願書ニ改訂明細書若クハ圖面ヲ添ヘ現特許證並ニ附屬ノ明細書圖面ト共ニ差出スヘシ

前項ノ出願ヲ許可スルトキハ特許局長ハ此細則第三十八條及第三十九條ノ手續ニ依リ改訂特許證ヲ送付スヘシ

第七條　特許條例第二十七條ニ依リ明細書ノ削除ヲ願出ルトキハ其願書ニ明細書ノ請求區域中削除スヘキ部分ヲ記載シテ差出スヘシ

前項ノ出願ヲ許可スルトキハ特許局長ハ其證明書ヲ出願人ニ送付スヘシ

第八條　願書ニ不完全ノ廉アリト認メタルトキハ特許局長ハ其訂正ヲ出願人ニ通知シ通知書ノ日附ヨリ三十日以内ニ之ヲ訂正セシムヘシ此期限内ニ訂正ヲ爲サヽルトキハ出願ヲ無効トス

第九條　特許願書及明細書圖面ノ完備シタルトキハ特許局長ハ其願書ニ順號ヲ附シ之ヲ出願人ニ通知スヘシ

出願人前項ノ通知ヲ受ケタル後其出願ニ關シ書面ヲ差出ストキハ之ニ願書ノ順號ヲ記入スヘシ

第十條　特許願書ニ順號ヲ附シタルトキハ特許局長ハ之ヲ主務審査官ニ配付スヘシ（二十三年八月農商務省令第十號ヲ以テ本條中改正）

審査官ハ發明ノ種類ニ從ヒ各審査官ノ擔當ヲ定メ置キ願書ノ順號ニ從ヒ之ニ着手スヘキモノトス（同上）

第十一條　左ノ願書ハ他ノ特許願書ニ先チ處分ニ着手スヘキモノトス

一　特許條例第十二條ノ再審査請求ニ係ル特許願書

二　同條例第二十六條ノ改訂願書及第二十七條ノ削除願書

三　此細則第十二條ノ通知ニ依リ明細書圖面ノ訂正ヲ終ヘタル特許願書

第十二條　審査官ニ於テ明細書圖面等ニ關シ訂正又ハ照會ヲ要スルトキハ特許局長ハ其旨ヲ出願人ニ通知シ通知書ノ日附ヨリ六十日以内ニ訂正書訂正圖面又ハ回答書ヲ差出サシムヘシ此期限内ニ差出サヽルトキハ出願ヲ無効トス（二十八月農商務省令第十號ヲ以テ本條ヲ改正ス）（二十三年）

第十三條　審査官ニ於テ發明ノ雛形若クハ見本ヲ必要ト認メタルトキハ特許局長ハ其旨ヲ出願人ニ通知シ通知書ノ日附ヨリ九十日以内ニ適當ノ雛形又ハ見本ヲ差出サシムヘシ此期限内ニ差出サヽルトキハ出願ヲ無効トス

第十四條　出願人其出願中ニ係ル願書明細書圖面又ハ雛形見本等ニ過誤アルコトヲ發見シタルトキハ發明ノ要部ニ變更ヲ生セサルモノニ限リ其改訂又ハ改造ヲ請求スルコトヲ得但査定書若クハ特許通知書ヲ發シタル後及審判中ニ係ルモノヽ訂正又ハ改造ハ特許局長ニ於テ必要ト認メタルモノヽ外之ヲ許サス

第十五條　特許條例第十三條ノ抵觸ハ左ノ場合ニ於テ特許請求區域ノ全部若クハ一部撞着スルトキニ限リ生スルモノトス

一　二箇以上ノ特許出願ノ發明互ニ抵觸スルトキ

二　特許出願ノ發明及特許發明又ハ改訂出願ニ係ル發明互ニ抵觸スルトキ

三　二箇以上ノ改訂出願ニ係ル發明互ニ抵觸スルトキ

四　改訂出願ニ係ル發明及特許發明互ニ抵觸スルトキ

第十六條　抵觸ノ處分ハ審査官ニ於テ其抵觸ニ係ル發明ヲ特許スヘキモノト査定シタル後之ニ着手スヘシ

第十七條　特許條例第十三條ノ始末書ニハ發明ヲ考案及完成シタル年月日並ニ發明ヲ圖面雛形又ハ見本等ニ作リタル年月日ヲ記載シテ其證明ヲ附シ必要ノ證據ヲ添フヘキモノトス

第十八條　前條ノ始末書ヲ差出サシムルトキハ特許局長ハ相當ノ期限ヲ定メ之ヲ關係人ニ通知スヘシ

關係人前項ノ期限内ニ始末書ヲ差出サヽルトキハ其發明ヲ特許願書ノ日附ヨリ以前ニ完成シタル旨ヲ以テ發明ノ先後ヲ爭フコトヲ得ス

第十九條　關係人始末書ヲ差出シタルトキハ特許局長ハ之ヲ對手人ニ送付シ相當ノ期限ヲ定メ答辯書ニ其事實ヲ證明スルニ必要ノ證據ヲ添ヘテ差出サシムヘシ

對手人答辯書ヲ差出シタル後審査官ニ於テ對手人ノ一方又ハ雙方ヲシテ尚ホ答辯ヲ爲サシムルコトヲ必要ト認メタルトキハ特許局長ハ亦前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十條　關係人始末書又ハ答辯書ニ過誤アルコトヲ發見シタルトキハ訂正書ヲ添ヘ其訂正ヲ請求スルコトヲ得但對手人答辯書ヲ差出シタル後ハ特許局長ニ於テ必要ト認メタルモノヽ外其請求ヲ許サス

第二十一條　審査官ニ於テ始末書又ハ答辯書ニ不明瞭ノ廉アリト認メタルトキハ特許局長ハ其旨ヲ差出人ニ通知シ相當ノ期限ヲ定メ訂正書ヲ差出サシムヘシ

第二十二條　前二條ニ依リ始末書又ハ答辯書ニ訂正ヲ加ヘタルトキハ特許局長ハ其訂正書ヲ對手人ニ送付スヘシ

第二十三條　發明ノ抵觸ヲ解除セントスル者ハ査定前ニ其特許願書又ハ特許證若クハ改訂願書ノ取消又ハ其發明ノ抵觸部分ノ削除ヲ請求スヘシ

前項ノ請求ヲ爲ス者アルトキハ特許局長ハ其抵觸ヲ解除シ之ヲ關係人ニ通知スヘシ

第二十四條　發明抵觸ノ審査ヲ受ケタル者ハ其審査ヲ受ケタル發明ト同一ノ發明ニ就キ先ニ抵觸シタル特許願書又ハ特許證若クハ改訂願書ニ對シテ再ヒ抵觸ノ審査ヲ受クルコトヲ得ス

第二十五條　審判ハ書類及口頭ノ二種トシ特許條例第十八條ニ依リ審判長及二人以上ノ審判官合議ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

口頭審判ハ關係人雙方ニ於テ請求シ若クハ審判長ニ於テ必要ト認メタルトキ公開シテ之ヲ爲スヘシ（同上本項中削除）

第二十六條　審判ヲ請求スル者ハ其請求ノ要點理由及證明方法ヲ記載シタル請求書ヲ認メ特許條例第三十條ノ手數料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シテ差出スヘシ

第二十七條　審判請求書ヲ差出シタル者アルトキハ審判長ハ其請求書ヲ對手人ニ送付シ相當ノ期限ヲ定メ答辯書ヲ差出サシムヘシ（同上）

對手人答辯書ヲ差出シタル後尚ホ對手人ノ一方又ハ雙方ヲシテ答辯ヲ爲サシムルコトヲ必要ト認メタルトキハ審判長ハ亦前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十八條　審判請求書又ハ答辯書ヲ差出ストキハ其記載ノ事實ヲ證明スルニ必要ノ證據ヲ添フヘシ

第二十九條　審判請求書又ハ答辯書ヲ差出シタル者其請求書又ハ答辯書ニ過誤アルコトヲ發見シタルトキハ訂正書ヲ添ヘ其訂正ヲ請求スルコトヲ得但對手人答辯書ヲ差出シタル後ハ審判長ニ於テ必要ト認メタルモノヽ外其請求ヲ許サス

第三十條　審判請求書又ハ答辯書ニ不明瞭ノ廉アリト認メタルトキハ審判長ハ其旨ヲ差出人ニ通知シ相當ノ期限ヲ定メ訂正書ヲ差出サシムヘシ

第三十一條　審判請求書又ハ答辯書ニ訂正ヲ加ヘタルトキハ審判長ハ其訂正書ヲ對手人ニ送付スヘシ

第三十二條　審判請求書始末書及抵觸又ハ審判ニ關スル答辯書並ニ訂正書ハ審判長又ハ特許局長ノ定メタル期限内ニ差出スニアラサレハ之ヲ受理セス

第三十三條　口頭審判ヲ爲ストキハ審判長ハ其期日ヲ定メ之ヲ關係人ニ通知スヘシ

關係人前項ノ通知ヲ受ケ其期日ニ出頭セサルトキハ缺席ノ儘口頭審判ヲ終結スルモノトス

第三十四條　審判ヲ終結シタルトキハ審判長ハ其審決書ヲ關係人ニ送付スヘシ口頭審判ノ場合ニ在テハ尚ホ之ヲ言渡スヘキモノトス

第三十五條　審判ヲ請求シタル者其請求ヲ取消サントスルトキハ審判終結前ニ其旨ヲ申出ツヘシ

第三十六條　審判ノ請求ヲ取消シ又ハ之ヲ放棄シタル者ハ審判上敗者ト見做スヘシ但對手人ノ承諾ヲ經テ取消シタル者

ハ此限ニアラス

第三十七條　特許條例第十二條ノ再審査及同條例第十五條ノ審判請求期限ハ査定書ノ日附ヨリ起算シ九十日トス此期限ヲ經過スルトキハ再審査又ハ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

第三十八條　特許ヲ與フルトキハ特許局長ハ特許料納付用紙ヲ添ヘテ特許通知書ヲ出願人ニ送付スヘシ

出願人前項ノ通知書ヲ受ケタルトキハ特許料納付用紙ニ特許條例第三十一條ノ特許料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ明細書二通圖面二通ヲ添ヘ通知書ノ日附ヨリ六十日以内ニ差出スヘシ此期限内ニ差出サヽルトキハ出願ヲ無効トス（二十三年四月農商務省令第五號ヲ以テ本項中追加）

第三十九條　出願人特許料ヲ納付シタルトキハ特許局長ハ其納付ノ日ヲ以テ特許原簿ニ登録シ其旨ヲ出願人ニ通知シ三十日以内ニ特許證ヲ送付スヘシ

第四十條　特許條例第八條第二項ノ場合ニ於テ特許證主ノ承諾ヲ經ル能ハスシテ出願シタル者ニ特許ヲ與フルトキハ特許局長ハ其旨ヲ特許證主ニ通知シ報酬ニ就キ協議ヲ爲サシムルニ必要ノ手續ヲ爲スヘシ

其協議整ハサルトキハ特許局長ハ農商務大臣ノ相當ト認ムル報酬ノ種類數額方法等ヲ特許通知ト同時ニ出願人ニ通知シ特許原簿ノ登録ト同時ニ之ヲ特許證主ニ通知スヘシ

第四十一條　特許證ハ第九號書式ニ依リ調製シ特許原簿登録ノ日ヲ以テ其日附ト爲シ改訂特許證ハ第十號書式ニ依リ調製シ許可ノ日ヲ以テ其日附ト爲ス（同上本條中追加ス）

特許條例第二十五條ノ場合ニ於テ特許證ヲ下付スルトキハ特許局長ハ其事由並ニ下付ノ年月日ヲ裏書シ之ニ署名スヘシ（同上削除）

第四十二條　出願人他人ノ記名又ハ他人ト連名ニテ特許證ヲ受ケント欲スルトキハ特許原簿登録ノ日マテニ其旨ヲ申出ツヘシ

第四十三條　特許條例第二十二條ニ依リ賣與、讓與、共有又ハ書入ノ登録ヲ請求スルトキハ第十一號及第十二號書式ニ從ヒ請求書ヲ認メ同條例第三十條ノ手數料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ約定書ヲ添ヘテ差出スヘシ

前項ノ請求アルトキハ特許局長ハ其約定書ヲ契約原簿ニ登録シ約定書ニ登録濟ノ證印ヲ捺シテ之ヲ請求人ニ送付スヘシ

第四十四條　特許局ニ差出ス書類ハ一事件毎ニ一通宛認メ之ニ差出ノ年月日及差出人ノ住所、氏名、明細書及圖面ニハ差出人ノ氏名ノミヲ記載シテ捺印スヘシ

審判請求書始末書及抵觸又ハ審判ニ關スル答辯書及訂正書ニハ對手人ノ住所、氏名ヲモ記載シ正本一通ノ外對手人ノ員數ニ應シ副本ヲ添フヘシ

第四十五條　前條ノ書類ハ字體明瞭ニ認メ若シ其書類中文字ヲ挿入又ハ削除シ若クハ欄外ニ記入シタルトキハ之ニ認印シ地方廳ヲ經由セス直ニ特許局ニ差出スヘシ

第四十六條　特許局ニ差出シタル書類ハ其下戻ヲ請求スルコトヲ得ス

第四十七條　特許局ニ差出ス書類等ニシテ執務時間ノ最後一時間内又ハ休日ニ到着シタルモノハ次ノ執務日ニ接受シタルモノト見做スヘシ

第四十八條　出願人代人ヲ使用スルトキハ委任狀寫ヲ添ヘ其旨ヲ屆出ツヘシ

代人ニ不都合ノ事アリト認メタルトキハ特許局長ニ於テ其代理ヲ差止ムヘシ

第四十九條　特許局ニ差出シタル雛形又ハ見本ノ不用ニ屬シタルトキハ特許局長ハ其受取方ヲ差出人ニ通知スヘシ差出人其通知書ノ日附ヨリ九十日以内ニ受取方ヲ爲サヽルトキハ特許局長ニ於テ適宜處分スヘキモノトス

特許局ニ差出シタル雛形又ハ見本ハ保管中亡失毀損スルモ辨償ノ責ニ任セス（二十三年十月農商務省令第九號ヲ以テ本項ヲ追加ス）

第五十條　已ヲ得サル事故ノ爲メ此細則ニ定ムル期限内ニ書類見本又ハ雛形ヲ差出シ又ハ出頭シ難キトキハ其事由ヲ記載シ期限内ニ延期請求書ヲ差出スコトヲ得

前項ノ請求ヲ相當ナリト認メタルトキハ特許局長又ハ審判長ハ更ニ期限ヲ定メ之ヲ請求人及關係人ニ通知スヘシ

第十六類　第一章　特許

第五十一條　特許證主ハ特許局長ノ差圖ニ從ヒ陳列用ノ爲メ其發明ノ雛形又ハ見本ヲ差出スヘシ

第五十二條　特許證主ハ特許條例第二十九條ニ依リ特許品又ハ其上包等ニ特許ノ二字特許證ノ日附及特許ノ年限ヲ標記スヘシ

第五十三條　特許ヲ相續シタルトキ又ハ特許證主氏名ヲ變換シタルトキハ三十日以内ニ其旨ヲ屆出ツヘシ

第五十四條　特許ヲ與ヘタルトキ、特許證ノ改訂又ハ明細書ノ削除ヲ許可シタルトキ、特許ヲ取消シ又ハ無効トシタルトキ及其他特許ニ關シ必要ノ場合ニ於テハ特許局長ハ官報並ニ特許公報ヲ以テ之ヲ廣告スヘシ

書式用紙美濃紙十三行二十五字詰

第一號特許ヲ願出ルトキ

特許願

一何々發明ノ名稱ヲ掲クヘシ

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

右ハ別紙明細書ニ記載スル通ノ工術（機械製造品、合成物）ニシテ私（私共）ノ發明ニ有之特許條例ニ觸レサルモノト確信候間何箇年ノ特許相受度此段相願候也

年　月　日　　本籍（及現住所）
發明者　氏　名　印
二名以上ナルトキハ各署名捺印スヘシ以下總テ此例ニ依ル

農商務大臣氏名殿

第二號發明者他人ト連名ノ特許證ヲ受ケントシテ特許ヲ願出ルトキ

特許願

一何々發明ノ名稱ヲ掲クヘシ

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

右ハ別紙明細書ニ記載スル通ノ工術（機械製造品、合成物）ニシテ私（私共）ノ發明ニ有之特許條例ニ觸レサルモノト確信候間何箇年ノ特許相受度尤特許證ノ儀ハ何某本籍ヲモト連名ニテ下付相成度此段相願候也

年　月　日　　本籍（及現住所）
發明者　氏　名　印

農商務大臣氏名殿

第三號發明者他人ノ記名ニテ特許證ヲ受ケントシテ特許ヲ願出ルトキ

特許願

一何々發明ノ名稱ヲ掲クヘシ

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

右ハ別紙明細書ニ記載スル通ノ工術（機械製造品、合成物）ニシテ私（私共）ノ發明ニ有之特許條例ニ觸レサルモノト確信候間何箇年ノ特許相受度尤特許證ノ儀ハ何某本籍ヲモト記スヘシノ記名ニテ下付相成度此段相願候也

年　月　日　　本籍（及現住所）
發明者　氏　名　印

農商務大臣氏名殿

第四號他人ノ特許發明ヲ改良シ特許ヲ願出ルトキ

特許願

一何々ノ改良原發明ノ名稱ヲ掲クヘシ

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

右ハ別紙明細書ニ記載スル通何某所有第何號特許證ノ何々原發明ノ名稱ノ發明ニ就キ私（私共）ニ於テ改良ヲ加ヘ候モノニシテ特許條例ニ觸レサルモノト確信候間何箇年ノ特許相受度特許證主ノ承諾書（特許證主ノ承諾ヲ經ル能ハサルニ付其事由書）ヲ添へ此段相願候也

年　月　日　　本籍（及現住所）
發明者　氏　名　印

農商務大臣氏名殿

第五號相續者ヨリ特許ヲ願出ルトキ

特許願

一何々發明ノ名稱ヲ掲クヘシ

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

右ハ亡何某ノ發明ニ係リ私相續候處別紙明細書ニ記載スル通ノ工術（機械、製造品、合成物）ニシテ特許條例ニ觸レサルモノト確信候間何箇年ノ特許相受度此段相願候也

年　月　日　　本籍（及現住所）
發明者　亡何某相續者
特許願人　氏　名　印

農商務大臣氏名殿

第六號特許證ノ再下付ヲ願出ルトキ

特許證再下付願

一第何號特許證

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

一何々發明ノ名稱ヲ掲クヘシ
一發明者氏名
右私(私共)所有特許證何々事由ヲ記スヘシニ依リ毀損(亡失)候ニ付特許證再下付相成度此段相願候也
本籍(及現住所)
年月日　特許證主　氏　名　印
農商務大臣氏名殿

第七號特許證ノ改訂ヲ願出ルトキ

特許證改訂願

一第何號特許證　此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ
一何々發明ノ名稱ヲ掲クヘシ
一發明者氏名
右私(私共)所有特許證附屬ノ明細書(圖面)中何々事由ヲ記ノ爲メ特許ノ効力ヲ全クシ難キニ付別紙スヘシ之通改訂致度尤之カ爲メ發明ノ要部ニ變更ヲ生スル儀無之候間改訂特許證下付相成度別紙改訂明細書(改訂圖面)並ニ現特許證及附屬明細書(圖面)相添此段相願候也

本籍(及現住所)
年月日　特許證主　氏　名　印
農商務大臣氏名殿

第八號明細書ノ削除ヲ願出ルトキ

明細書削除願

一第何號特許證　此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ
一何々發明ノ名稱ヲ掲クヘシ
一發明者氏名
右私(私共)所有特許證附屬ノ明細書ニ於テ私(私共)(前記發明者)ノ發明ニアラサル事項ヲ誤テ請求區域中ニ記載シタルコトヲ發見候間明細書中第何頁何行目何ノ字ヨリ何ノ字ニ至ル若干字ヲ削除致度此段相願候也
本籍(及現住所)
年月日　特許證主　氏　名　印
農商務大臣氏名殿

第九號特許證書式(二十三年八月農商務省令第八號ヲ以テ書式中削除)

表

第何號
特許證
本籍(及現住所)
何々(發明ノ名稱)　氏　名
本證附屬明細書ノ請求區域ニ對シ特許條例ニ據リ右記名ノ者ニ何年間特許ヲ與フルモノ也
年月日　農商務大臣　氏　名　印
特許局長　氏　名　印

裏

何々下付ノ事由
年月日　特許局長　氏　名　印

第十號改訂特許證書式(同上追加)

第何號
改訂特許證
本籍(及現住所)
何々(發明ノ名稱)　氏　名
特許條例ニ據リ前記發明ノ請求區域ニ對シ(何某ニ)明治何年何月何日何年間特許ヲ與ヘタル明細書(圖面)ノ改訂ヲ許可スルヲ以テ本證ヲ下付スルモノ也
年月日　農商務大臣　氏　名　印
特許局長　氏　名　印

第十一號特許ノ賣與、讓與、共有又ハ書入ノ登錄ヲ請求スルトキ(同上追加)

特許賣與(讓與、共有又ハ書入)登錄請求書　此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ
一第何號特許證
一何々發明ノ名稱ヲ掲クヘシ
一發明者氏名
右私(私共)所有特許ヲ別紙約定書之通賣與(讓與、共有又ハ書入)候間登錄相成度約定書相添此段請求候也
本籍(及現住所)

年月日　特許證主　氏　名　印
本籍（及現住所）
買受（譲受、共有、書入受）人　氏　名　印
特許局長氏名殿

第十二號　書入中ノ特許ノ賣與譲與共有又ハ書入ノ登録ヲ請求スルトキ　（同上）

特許賣與（譲與、共有又ハ書入）登録請求書　此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

一第何號特許證
一何々發明ノ名稱
一發明者氏名

右私（私共）所有特許ハ何年何月何日附ノ約定書ニ依リ何某本籍ヲモ書入致置候處今般別紙約定書ニ記スヘシ之通賣與（譲與、共有又ハ書入）候間登録相成度約定書相添此段請求候也

本籍（及現住所）
年月日　特許證主　氏　名　印
本籍（及現住所）
買受（譲受、共有、書入受）人　氏　名　印
特許局長氏名殿

明細書文例

（備考）

一　明細書ハ美濃紙二ツ折ニシテ上部曲尺一寸下部八分左二分綴料一寸ヲ餘シ楷行ノ内ヲ以テ十三行二十五字詰ニ認ムヘシ

二　明細書ニハ此細則第二條ニ掲ケタル諸件ノ外必要ナラサル事項ヲ記載スヘカラス

三　明細書ハ其發明ニ關スル學術又ハ事業ニ熟練ナル者ノ之ニ由リテ其發明ヲ實施シ得ル樣詳細正確ニ認ムルヲ要ス

四　明細書ハ書損ナキ樣認ムヘシ若シ書損アリテ挿入又ハ削除スルトキハ其上部ニ存スル餘白ニ第何行第何字目何々ノ下何々ノ上何々ノ何字ヲ加ヘ又ハ除クトカ或ハ何々ノ字ヨリ何々ノ字ニ至ル何字ヲ何々ノ何字ニ改ムト記シテ認印スヘシ紙ヲ糊付シテ書損ノ部分ヲ掩ヒ其上ニ書改ムル等ノコトヲ爲スヘカラス但削除スヘキ文字ニハ一ノ縱線ヲ引キ其字體ヲ存スヘシ

五　明細書ニハ其末尾ニ出願人署名捺印スヘシ本籍、現住所年月日及宛名ハ之ヲ記載スヘカラス

製圖例

（備考）

一　圖面ハ礬水引ノ純白ナル美濃紙ヲ用ヒ凡ソ其上部曲尺一寸下部八分左三分右一寸五分ヲ餘シ竪曲尺七寸二分横四寸六分ノ面内ニ之ヲ認メ其面内左右ノ下部ニ於テ圖面ニ妨ケナキ所ニ出願人署名捺印スヘシ本籍現住所、年月日及宛名ハ之ヲ記載スヘカラス

二　圖面ヲ製スルニ其紙ノ横ヲ竪ニ用フルハ妨ケナシト雖モ同一ノ紙面ヲ竪横混合シテ用フヘカラス

三　圖面ハ成ルヘク一枚ニ認メ已ムヲ得サル場合ノ外其紙數ヲ增加スヘカラス

四　發明ノ名稱ハ圖面中ニ記載スヘカラス

五　圖面ハ寫眞石版ノ原料ニ適スヘキ樣濃墨ヲ用ヒ鮮明ニ畫キ着色スヘカラス

六　圖ノ離レタルモノハ一箇毎ニ第一圖第二圖ト番號ヲ付シ又一部分ニシテ數圖ニ亘ルモノアレハ必ス同一ノ符號ヲ用フヘシ但番號及符號ハ圖ノ妨ケトナラサル樣濃墨ニテ明瞭ニ記スヘシ

符號ヲ直ニ圖ニ施スコト能ハサル場合ニハ其部分ヨリ少シク離シテ符號ヲ記シ極小ノ點線ヲ以テ其部分ト符號トヲ接續スヘシ陰ヲ施シタル上ニ符號ヲ記スヘカラス已ムヲ得スシテ陰ノ上ニ施ストキハ其部分タケ陰ヲ施サスシテ符號ヲ記スヘシ

八　截斷面ヲ現ハスニハ線間凡ソ三厘ヲ離シタル平行線ヲ斜ニ引クヘシ截斷面中部分ヲ異ニスルモノハ各方向ノ差ヒタル斜線ヲ用フヘシ

九　圖面ノ凹凸ヲ明瞭ナラシムル爲メ陰ヲ施スコトヲ要スルトキハ線ヲ用ヒ簡明ニ畫クヘシ射影ハ成ルヘク施スヘカラス

第一　機械ノ發明ヲ記載シタル一例

明細書

肉類細切器

此發明ハ上下スル庖丁ト旋轉スル俎ト相須テ作用スル肉類細切器ニ加ヘタル改良ニ係リ其目的トスル所三アリ、第一、俎ヲ支撐スル表面ニ油ノ斷エサル樣ニシ其旋轉ヲ常ニ滑利ナラシムルコト、第二、二箇ノ庖丁ノ位置ヲ各別々ニ調節（カケン）シ以テ其刃ト俎ノ表面トノ關係ヲ適切ニナスコトヲ自在ナラシムルコト、第三、庖丁ヲ上下スル桿ノ摩擦ヲ減少スルコト是ナリ

別紙圖面ニ於テ右ノ目的ヲ達スヘキ機構ヲ示ス、其第一圖ハ全器ノ垂直斷面、第二圖ハ全器ノ中ヨリ俎ト庖丁トヲ除キ去リテ上ヨリ之ヲ觀タル圖、第三圖ハ二圖ニ示セル部分ヲ第一圖中(一二)線ニ就テ截斷シタル垂直斷面、第四圖ハ上下スル丁字架ト之ニ裝附シタル庖丁トヲ細ニ示シタル斜面圖ナリ

右諸圖ニ於テ同シ符號ハ同シ部分ヲ示スモノトス

臺い、其脚ろろ、及ヒ臺ノ裏面ニ取リ着ケタル軸吊はヲ以テ本器ノ構礎トス、軸吊はニハ勢輪ほノ軸にヲ通ス、此勢輪ノ殼ナル曲柄串ハ連桿及ヲ以テ丁字架をノ串ニ連チ、丁字架をニハ桿ちヲ取リ着ケ、此桿ノ上端ニハ丁字架りヲ取リ着ケ、丁字架りニハ下文ニ解明スル如ク自在ニ調節シ得ヘキ庖丁ぬぬヲ裝附シタリ

軸にノ推引スル丁字架をニハ臺いノ裏面ニ取リ着ケタル導桿ををニ適應スル減阻轉子るるヲ具フ、是レ此丁字架上下ノ際、摩擦抵阻ヲ極メテ少クセンカ爲メナリ

木造ノ俎わノ下面ニハ、臺いノ上面ニ設ケタル環狀ノ溝かニ適應シテ之ニ支撐セラルヘキ環狀ノ凸起よヲ具フ、環溝かノ深サハ一樣ナラス一箇所以上(茲ニハ假ニ二箇所トス)ニ於テ較〻深キ窪ミヲ有リテ之ニ油ヲ貯フ、而シテ凸起よハ此油ニ觸レテ旋轉スルヲ以テ凸起ト溝トノ間ニハ常ニ油ノ斷ユルコトナク甚タ滑利ナルコトヲ得ルナリ、桿ちハ中央ノ架れヲ貫通シ之ニ制導セラル、該架ノ下端ハ臺いニ取着ケ其上部ハ俎わニ觸レシテ俎ノ中央ナル孔ヲ貫キテ上方ニ突出シ蓋うニ蹍ハル、此蓋ハ俎ニ取着ケ其中央ノ孔ニ肉片ノ落ツルヲ防クモノナリ、

前ニモ掲ケ且第四圖ニ委シク示セル丁字架りハ桿ちニ貫カレ其位置ハ桿ちニ從ヒ垂直ノ方向ニ於テ任意ニ之ヲ移動シ以テ適切ニ之ヲ調節スルコトヲ得、而シテ其調節整頓シタルトキハ止螺旋つヲ以テ之ヲ緊挂スヘシ、又桿ちノ上端ニハ牝螺旋ヲ冒嵌スルタメニ螺絲ヲ刻メリ、此牝螺旋ハ丁字架ノ上ニ在リテ庖丁カ俎上ノ肉ニ突當リタルトキ丁字架ノ之カ爲ニ激シテ躍リ上ルヲ押ヘ止ムルノ用ヲナスモノナリ、

庖丁ぬぬハ右ノ丁字架ニモ關係ナク又相互ニモ關係ナク各獨立ニ其位置ヲ調節スルコトヲ得、故ニ何レノ庖丁ノ刃ヲモ常ニ俎ノ上面ト恰モ相合ハシムルヲ得ヘキナリ

上文ノ庖丁調節方ニ付テ予ハ第四圖ノ裝置ヲ用フルヲ以テ最良ノ法ト爲ス、即チ兩庖丁ノ上端ニ各二條ノ螺絲桿ねねヲ固着シ、此桿ヲ丁字架ノ耳ナ

ナニ挿シコノ耳ヲ隔テ、其上下ニ二箇ノ牝螺旋ヲ嵌ムルニ在リ、斯裝置ニ依ルトキハ各牝螺旋ヲ同轉シテ以テ極メテ精密ニ庖丁ヲ調節シ得ヘシ

俎ノ周邊ニ圓筒狀ノ版らヲ附着シテ槽むヲ形成セシメ以テ肉片ノ俎外ニ落ツルヲ防ク、又俎ノ下面ナル環狀ノ凸起よノ周圍ニハ小齒輪ろニ嚙合フヘキ輪齒ヲ刻ム、此小齒輪うハ軸にヨリ適宜ノ聯動機ヲ經テ之ヲ運轉セシムヘシ、別紙圖面ニ示セル聯動機ノ若キハ此發明ノ一部分トシテ示シタルモノニアラス

軸にハ滑車のニ調革ヲ掛ケテ以テ之ヲ旋轉セシムルモ可ナリ、亦一端ニ把手〻ヲ具ヘ一端ニハ軸にニ設ケタル小齒輪ニ嚙合フヘキ齒輪やヲ備ヘタル軸まヲ裝置シ手ニテ之ヲ旋轉スルモ可ナリ

臺いノ一方ニ蝶鉸ふニテ板けヲ据附ケ以テ細切シタル肉ヲ入ルヽ器物ヲ載スルノ用ニ供スルモ可ナリ、此板ヲ有用ノトキ支挂シ不用ノトキ除クニ最モ便利ナルノ方ヲ第一圖ニ示セリ

此發明以前ニ旋轉スル俎ト上下スル庖丁ト相須テ作用スル肉切器アリタルコトハ予之ヲ知レリ、故ニ予ハ汎ク斯ノ如キ組合ヲ取リテ悉ク予ノ發明ナリトセス左ニ予ノ發明トシテ其特許ヲ請求スル區域ヲ掲ク

一肉類細切器中、環狀ノ凸起よヲ具フル旋轉俎ト環溝かヲ具ヘタル上下スル丁字架とトノ組合

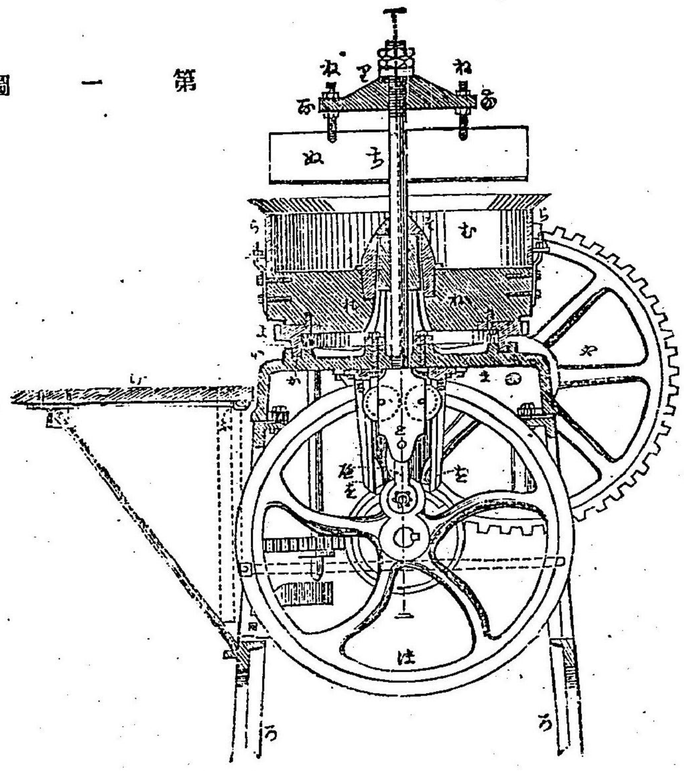
二肉類細切器中、各獨立ニ自在ニ上下シテ調節シ得ヘキ庖丁ぬぬヲ裝附シタル上下スル丁字架ト旋轉俎トノ組合

三本書ニ記シタル目的ヲ以テ、上端ニ二條ノ螺絲桿ねねヲ固着シタル庖丁ぬ

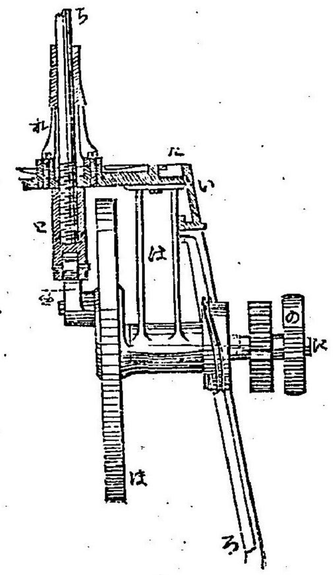
四肉類細切器中、庖丁ぬぬヲ裝附シタル上下スル桿ちト、此桿ニ取着ケ且ツ減阻轉子るるヲ具フル丁字架とト、此轉子ニ適應スル導桿ををトノ組合

氏名印

第一圖

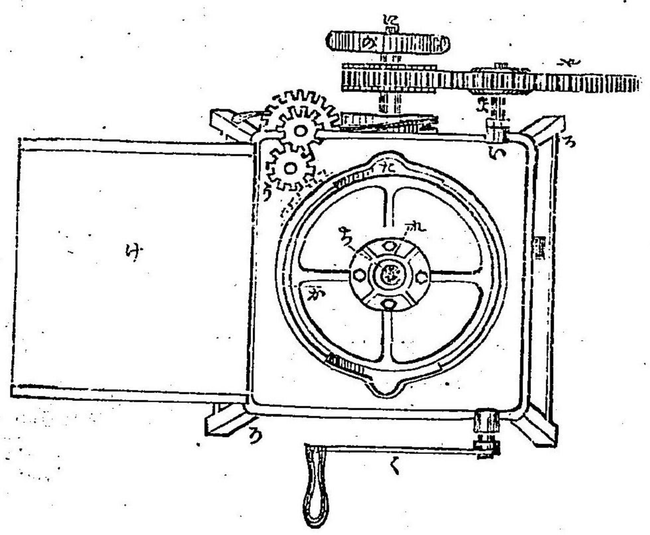


第三圖

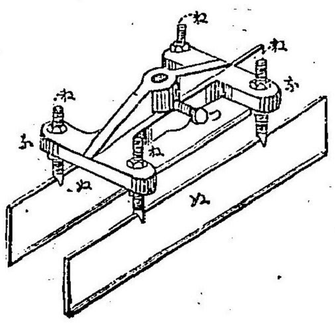


氏名印

第二圖



第四圖



氏名印

明細書

旋轉齒刷

此發明ハ柄ノ頭部ノ四方ニ刷毛ヲ具ヘ柄ノ中心線ヲ軸トシテ旋轉シ以テ齒ヲ磨クノ用ヲナス齒刷ニ係リ、其目的トスル所ハ刷毛ヲシテ垂直ノ方向ニ即チ齒ノ長サノ方向ニ作用セシメ以テ齒ノ表面ヲ掃除スルノ効用ヲ完全ナラシムルニ在リ

別紙圖面中、第一圖ハ此旋轉齒刷ノ全體ノ斜面圖、第二圖ハ刷毛函ヲ開キタル圖、第三圖ハ柄ノ頭部、第四圖ハ推引サル、鈕子ヲ示ス、此等諸圖ニ於テ同シ符號ハ同シ部分ヲ示スモノトス

柄いハ金屬、象牙、護謨骨等ノ如キ隨意ノ材料ヲ以テ之ヲ造リテ可ナリ、然レトモ骨ヲ用フルトキハ其價ヲシテ最モ廉ナラシムルヲ得ヘシ、其形ハ圓圓壔トナスヲ可トス、其周圍ニハ二三同之ニ纏繞スル螺絲ノ狀ニ於テ溝よヲ穿ツ、柄ノ頭部ニハ四方ニ刷毛ヲ列植シ、此刷毛ヲ植タル部分ノ各端ニ於テ約ソ二分ヲ相距テ、環緣ヒルヲ設ケ、其間ヲ軸頸ろトス、柄いノ溝よヲ穿チタル部分ニハ鈕子ろヲ推引スルナリ、此鈕子ハ柄ト同シ材料ニテ造ルヲ便利トス然レトモ他ノ材料ヲ資ルモ固ヨリ不可ナシ、其形狀ハ外周ニ於テハ四角其他隨意ノ形トナシ內側ハ柄いニ適應スル形トナシ且ツ溝よニ嵌ルヘキ舌つヲ具フ、故ニ此鈕子ヲ前後ニ推引スルトキハ柄並ニ其頭部ニ植タル刷毛ヲシテ旋轉動ヲナサシムルナリ

刷毛函はハ柄ノ刷毛ヲ植タル部分ト大概等シキ長サヲ有シ其橫斷面ハU字狀ニシテ其兩端ニ扇形ノ側版具ほヲ具フ、但シ此側版ハ函ノ胴ト同一體ニ造ルヲ可トス、又兩側版ノ內一箇ほニハ孔ねヲ穿チ以テ刷毛ヨリ滴漏スル水ヲ放流スルニ供ス、又中央ニ半圓狀ノ凹處なヲ穿チ以テ軸頸ろヲ受撐スル表面ヲ形成セシム、軸頸ろヲ此凹處ニ置キタル後ハ蓋ゑヲ閉チテ刷毛ヲ函中ニ安定セシムルナリ

蓋ゑハ種々ニ之ヲ構造シ得ヘシ、別紙圖面ニ其最モ簡單ナル構造ヲ示ス、即チ微シク彎曲セル版と ト側版ちリトヨリ成リ、側版ちリハ蓋ゑヲ閉チタルトキ函はノ側版ほト相重ナル如クス、蓋ゑハ其一邊ニ於テ函はニ蝶鉸シ他ノ一邊ニ於テ摘子ぬヲ具フ、此摘子ハ蓋ヲ閉チタルトキ函ノ摘子るト相符合スル如クス、刷毛函及ヒ蓋ハ金屬若クハ護謨ヲ以テ之ヲ造ルヲ可トス

此齒刷ヲ使用スルニハ一手ヲ以テ摘子ぬヲ摘ミ刷毛ヲ齒ニ接觸セシメ他ノ一手ヲ以テ鈕子るヲ前後ニ推引スルナリ、爾ルトキハ縱令ヒ鈕子ノ動ハ稍〻徐ナリトモ刷毛ハ迅速ニ旋轉スヘシ、故ニ刷毛ハ極メテ周密ニ齒ノ端邊ヲ掃除スルコトヲ得ルナリ、蓋シ齒ヲ損スルコトナクシテ之ヲ清掃スルノ最良方ハ唯リ齒ノ長サノ方向ニ於テ之ニ刷毛ヲ加フルニ在リトイフコトハ世ノ理學家カ疑ハサル事實ナリ

此發明ノ精神ヲ變スルコトナクシテ刷毛函ノ構造ニ多少ノ變更ヲ加ヘ若クハ爾他ノ部分ノ形狀及ヒ構造ヲ少シク變スルコトヲ得ヘキコト言ヲ須タス、故ニ予ハ此發明ノ區域ヲ上文ニ記述シタル特別ノ構造ノミニ限ルヲ欲セス、左ニ予カ發明ノ特許ヲ請求スル區域ヲ揭ク

一蝶鉸ニテ蓋ヲ裝附シ以テ旋轉スル刷毛ヲ保持スルノ用ヲナスヘキ刷毛函ト、螺絲狀ノ溝ヲ穿チタル柄ト、此柄ノ溝ニ適合シ推引サレテ柄ヲ旋轉スヘキ舌ヲ具フル鈕子トヨリ成ル旋轉齒刷

二旋轉齒刷中、摘子附キノ蓋ヲ蝶鉸シタル摘子附キノ刷毛函ト、之ニ軸頸ヲ委スル旋轉スヘキ刷毛ト、此刷毛ヲ旋轉セシムル柄トノ組合

三旋轉齒刷中、凹處ヲ具ヘ之ニ刷毛ノ軸頸ヲ入レ蓋ノ側版ノ凹處ト相須テ刷毛ノ軸架ヲ形成スヘキ側版ヲ有スル函ト、螺絲狀ノ導子及ヒ此導子ニ適合シ推引サレテ旋轉動ヲ生スヘキ鈕子ヲ具フル柄トノ組合

四旋轉齒刷中、一面開放セル刷毛函ニ軸頸ヲ委スル刷毛ト、此刷毛ニ固着シテ同一體ヲ成シ且ツ表面ニ螺絲狀ノ溝ヲ穿チタル柄ト、此柄ノ溝ニ適合シテ刷毛ヲ操作スヘキ舌ヲ具フル鈕子トノ組合

氏名印

第三工術ノ發明ヲ記載シタル一例

明細書

軟鐵及鋼鐵製造方

此發明ノ目的ハ熔解シタル粗鐵ヨリ燐ト硫黄トヲ除去スルニ在リ、其方法ハ鹽基性物即チ硅酸ヲ含有セサル物料ヲ内面ニ塗布シタル顕同爐ニ鐵ヲ投入シ、硅素ヲ奪除センカ爲メニ大氣ヲ吹キ入レテ之ニ作用セシメ、從テ化生スル所ノ含硅熔滓ヲ該爐ヨリ放排シ、然ル後燐ト硫黄トヲ奪除センカ爲メニ大氣ト螢石即チ弗化カルシウムトヲ爐中ノ鐵ニ加ヘテ之ニ作用セシムルニ在リ

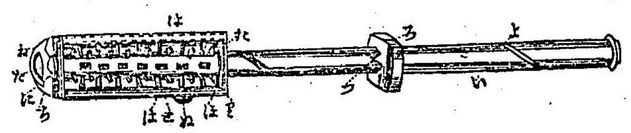
此發明ヲ施行スルニハ、先ツ熔鐵ヲ熔鑛爐ヨリ顕同爐ニ移注シ、顕同爐ノ底若クハ側部ヨリ吹キ入ル大氣ヲ之ニ加ヘ、奪硅作用ノ全ク終ルニ至リテ大氣ノ吹入即チ衝風ヲ斷チ、次ニ顕同爐ヲ傾欹シテ其熔滓ヲ流放シ、次ニ又衝風ヲ吹キ入レ且ツ顕同爐ヲ直立ノ地位ニ復セシメテ後直チニ螢石ヲ之ニ入ル、但シ其入レ方ハ之ヲ細粉トナシテ衝風ト共ニ熔鐵中ニ吹キ入ル、ヲ可トス亦熔滓ヲ去リタル後顕同爐ノ口部ヨリ其小塊ヲ投入スルモ可ナリ、斯クシテ入レタル螢石ハ熟ノ爲メニ分解シ弗素ト石灰トヲ化生シテ以テ硫黄ト燐トヲ蒸氣及ヒ熔滓トナシテ除去スル(硅素ノ殘留スルモノアルトキハ亦之ヲ去ル)カ故ニ爐中ノ鐵ハ奪炭作用完カラサルトキハ化シテ鋼鐵トナリ、其作用完キトキハ軟鐵トナルナリ

顕同爐ノ壁ノ内面ニ塗附スルニハ石灰若クハ苦土質石灰ヲ用フルヲ良シトス、然レトモ亦他ノ適當ナル石灰質ノ塗被料ヲ用フルモ妨ナシ

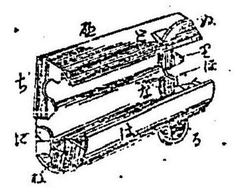
上文ノ粗鐵ハ普通ノベッセマー法ニ於テ通常用フルモノ即チ百分中硅素二分、炭素三乃至四分ヲ含有シ且ツ之ニ若干ノ螢石ヲ加フルニアラサレハ良質ノ鋼鐵ヲ成ス能ハサル程ニ過量ノ燐ヲ含有スルモノニテ可ナリ

粗鐵中ニ多量ノ滿俺存スルトキハ其含有スル硅素ノ量或ハ較ゝ少カルヘシ(然レトモ較ゝ多量ノ硅素ヲ含有スルモ敢テ害ナシ)予ハ百分中三分乃至五分ノ滿俺ヲ含有スル粗鐵ヲ用フルヲ良シトス爾ル時ハ衝風吹入ノ終リニ當リテ滿俺ヲ加フルコトヲ要セス、然レトモ若シ粗鐵ニ滿俺ヲ含有セサルトキハ奪硅作用終リテ直チニ一分乃至一分半ノ鏡鐵(スピーゲルアイゼン)

第一圖

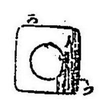


第二圖



第三圖

第四圖



氏名印

ヲ投入スルヲ可トス是レ予ハ奪炭作用ノ間ニ滿俺存在スルトキハ其鐵ノ質ヲシテ良好ナラシムルノ效著大ナルコト之ヲ後ニ至リテ加フルノ比ニアラサルコトヲ發見シタルニ由ル、然リト雖モ鐵ヲ精製スル間ニ滿俺ノ存スルト否トハ必スシモ鋼鐵ノ生成ニ須要ナリトセス何トナレハ衝風ヲ吹入ルノ際滿俺アリタリト否トニ關セス衝風ヲ止ムルニ臨テ滿俺ヲ入ルヽモ亦可ナレハナリ

爐中ニ加フヘキ螢石ノ量ハ應ニ粗鐵中ニ含有スル硅素ト燐ト硫黄トノ目方ノ三乃至五倍タルヘシ

石灰若クハ酸化鐵ヲ螢石ト混和シテ爐中ニ入ルヽモ可ナリ、亦當初奪硅作用ヲ施ス前ニ石灰ヲ粗鐵ト共ニ爐ニ投入スルモ可ナリ、然レトモ斯ク石灰若クハ酸化鐵ヲ使用スルハ敢テ緊要ノ事ナリトセス

螢石ヲ奪硅作用ノ前ニ用ヒスシテ之ヲ其後ニ用フルノ利益タル所以ハ他ナシ、若シペッセマー法ノ始メニ當テ之ヲ用フルトキハ大ニ熔鐵ヲ冷却シ從テ之ヲ流放シ難カラシメ且ツ尚ホ懸ニ多量ノ螢石ヲ要スルノ憂アルヲ以テナリ、奪硅作用後直チニ含硅熔滓ヲ除去スルノ利益タル所以ハ他ナシ、之ヲ去ルトキハ螢石ヲシテ之ヲ中和センカ爲メニ耗費セシムルノ憂ナケレハナリ若シ否セスシテ之ヲ久シク爐中ニ留滯セシムルトキハ螢石ノ多量ハ無益ニ熔滓ト相化合スヘシ

ペッセマー法ニ於テ鑄鐵ヨリ燐ヲ奪除センカ爲メニ螢石ト大氣トヲ使用スルコトハ予カ既ニ何年何月何日附ヲ以テ第何號特許ヲ得タル所ナルヲ以テ今汎ク斯ノ如キ方法ヲ取テ本發明ハ右ノ方法ニ加ヘタル改良ニシテ其主眼トスル所ハ小量ノ螢石ヲ費シテ以テ鐵ヲ精製スルコトヲ得ルニ在リ

特許條例ニ依リ本發明ノ特許ヲ請求スル區域ヲ左ニ掲ク

本書ニ詳記シタル軟鐵及鋼鐵製造方ニ加ヘタル改良、即チ適當ナル鹽基性物ヲ以テ內面ヲ塗被シタル顯同爐內ニ於テ先ツ粗鐵ヨリ硅素ヲ奪除センカ爲メニ之ニ衝風ヲ加ヘ、次ニ生成シタル含硅熔滓ヲ流放シ、又次ニ鐵中ノ硫黄ト燐トヲ奪除センカ爲メニ螢石若クハ之ニ齊シキ作用ヲナスヘキ鹽基性物ヲ加フルヨリ成ル方法

氏名印

第四合成物ノ發明ヲ記載シタル一例

明細書

脫毛媒助劑

此發明ハ毛皮ヲ鞣化スルニ先チ豫メ其毛ト脂肪トヲ除去スルニ供用スヘキ合成劑ニ係ル

此合成劑ハ左記ノ資料ヲ左記ノ割合ニ合セテ成ル

清水	拾貳石五斗
生石灰	八斗
炭酸曹達	拾貳貫目
硝石	貳貫四百目
硫黄花	壹貫貳百目

以上ノ資料ヲ善ク攪拌シテ混和セシムルナリ

此合成劑ノ用方ハ先ツ毛皮ヲ水中ニ漬スコト、生皮ナレハ一日間、枯乾シタル皮ナレハ八日間ニシテ其毛皮ニ存スル鹽類及ヒ汚物ヲ悉ク除去シ以テ之ヲ清淨ニシ次ニ之ヲ此合成劑ノ液中ニ漬スコト四十八時間ニシテ之ヲ取出シ、爾ル後通常ノ方ニ藉リテ其毛ヲ脫除スルニ在リ

此合成劑ヲ毛皮ニ施ストキハ忽チ其毛ヲシテ極メテ脫除シ易カラシメ且ツ皮中ニ存スル脂肪其外鞣化ヲ妨クヘキ有害ノ物質ハ悉ク之ヲ去リ而シテ其化シテ革ト成ルヘキ精良ノ物質ニ至テハ能ク之ヲ留存スルナリ

炭酸曹達ト水ト石灰ト硫黄トヨリ成ル合成劑ヲ上文ニ同シキ目的ニ供スルコト並ニ硝石ヲ脫毛劑ニ用フルコトハ世人ノ既ニ知ル所ナルハ予之ヲ知レリ然レトモ予ノ合成劑ノ資料ヲ悉ク用ヒ且ツ之ヲ混合スルニ前記ノ割合ヲ以テシタルハ予ノ未タ知ラサル所ナリ

左ニ予カ發明ノ特許ヲ請求スル區域ヲ掲ク

毛皮ノ毛ヲ脫除シ易カラシメ及ヒ該皮ヲシテ鞣化スルニ適切ナラシムルノ目的ニ供用スヘキ水ト生石灰ト炭酸曹達ト硝石ト硫黄花トヨリ前記ノ割合ニテ成ル合成劑

氏名印

○特許料登錄料及手數料ハ登記印紙ヲ用ユ　二十一年十二月二十五日閣令第二十三號

特許條例意匠條例ノ特許料登錄料及特許條例第三十條意匠條例第十八條商標條例第十七條ノ手數料ハ登記印紙ヲ以テ之

ヲ納ムヘシ

○農商務省特許局ニテ登録セル特許意匠及商標登録方（二十三年十月農商務省告示第九號）

本年九月法律第七十八號ヲ以テ登記法第一條ニ追加規定ノ農商務省特許局ニ於テ登録シタル特許意匠及商標ノ登記ハ當省特許局ヨリ本人ノ居住地ヲ管轄スル登記所ニ通知シテ之ヲ爲スヘキニ付本人ニ於テ其登記ヲ登記所ニ請求スルヲ要セス

○特許發明ノ明細書特許公報商標公報ノ拂下代價並ニ書類謄本圖面調製ノ手數料及請求手續ヲ定ム（二十二年一月四日農商務省告示第一號）

特許條例意匠條例及商標條例ニ依リ特許發明ノ明細書特許公報商標公報ノ拂下代價並ニ書類謄本圖面調製ノ手數料及請求手續ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一條　印刷書類拂下代價ハ明細書一部ニ付金貳錢五厘特許公報一部ニ付金貳錢五厘商標公報一部ニ付金拾五錢商標公報一部ニ付金拾錢トス但字數一枚ニ滿サルモノハ一枚ヲ以テ算ス

第二條　書類ノ謄本手數料ハ十三行二十五字詰一枚ニ付金拾錢トス但字數一枚ニ滿サルモノハ一枚ヲ以テ算ス

第三條　圖面調製手數料ハ一枚ニ付金貳拾五錢以上金五圓以下ニ於テ調製ノ難易ニ從ヒ特許局長ノ定ムル所ニ依ル（二十三年三月農商務省告示第二號ヲ以テ本項中改正ス）

第四條　印刷書類ノ拂下ヲ望ム者ハ賣捌人東京市京橋區八官町十三番地彦根正三ニ就テ購入スヘシ（二十四年四月農商務省告示第三號ヲ以テ本條ヲ改正ス）

第五條　書類ノ謄本又ハ特許條例第三十三條ニ依リ圖面ノ調製ヲ請求スル者ハ請求書ヲ差出スヘシ但圖面ノ調製ヲ請求スル者ハ其發明ノ雛形見本又ハ粗圖竝明細書ヲ差出シタルモノハ之ヲ添フルニ及ハス（同上）

第六條　意匠條例第二十五條ニ依リ圖面ノ調製ヲ請求スル者ハ其意匠登録證ノ番號及日附ヲ請求書ニ記載シテ差出スヘシ

第七條　手數料ハ現金又ハ爲換券ヲ以テ當省會計局ヘ納ムヘシ但東京市内ニ限リ納入告知書ヲ發送スヘシ（同上）

●沿革要領

明治四年四月七日布告ヲ以テ專賣略規則ヲ定ム○五年三月第百五號布告ヲ以テ新發明品專賣免許ノ布告ヲ停止ス○明治十八年四月第七號布告ヲ以テ專賣特許條例ヲ制定シ四年四月七日布告專賣略規則及五年三月第百五號布告ヲ廢止ス○同月第五號布達ヲ以テ專賣特許手續ヲ定ム○四月農商務省告示第六號ヲ以テ專賣特許ニ關スル諸願書及明細書文例ヲ定ム○同月同省告示第七號ヲ以テ專賣特許發明品標記方ヲ定ム○十九年九月同省令第十號ヲ以テ前布達中ヲ改正ス○同月同省告示第十七號ヲ以テ十八年告示第六號中ヲ改正ス○二十年四月勅令第八號ヲ以テ條例第七條中ヲ改正ス○同年五月農商務省令第一號ヲ以テ十八年第五號布達中ヲ改正ス○同月同省告示第三號ヲ以テ專賣特許ニ關スル諸願書式明細書及圖面用紙雛形等ヲ定メ十八年告示第六號ヲ廢止ス○同月同省訓令第八號ヲ以テ專賣特許ノ通知ヲ得タルトキ取扱方ヲ北海道廳府縣ニ令ス○二十一年十二月勅令第八十四號ヲ以テ特許條例ヲ頒布シ專賣特許條例ヲ廢止ス○同月閣令第二十三號ヲ以テ特許條例意匠條例商標條例ノ特許料登録料及手數料ハ登記印紙ヲ以テ納メシム○二十二年一月農商務省令第一號ヲ以テ特許條例施行細則ヲ定ム

○意匠條例（二十一年十二月十八日勅令第八十五號）

朕意匠條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

勅令第八十五號

意匠條例

第一條　工業上ノ物品ニ應用スヘキ形狀模樣若クハ色彩ニ係ル新規ノ意匠ヲ按出シタル者ハ此條例ニ依リ其意匠ノ登録ヲ受ケ之ヲ專用スルコトヲ得

第二條　左ニ掲クル意匠ハ登録ヲ受クルコトヲ得サルモノトス

一　風俗ヲ害スヘキモノ

二　登録出願以前公ニ知ラレ又ハ公ニ用ヒラレタルモノ

第三條　意匠ノ登録ヲ受ケント欲スル者ハ一意匠毎ニ明細書及圖面ヲ添ヘ農商務大臣ニ出願スヘシ但其願書明細書及圖面ハ特許局ニ差出スヘシ

第四條　意匠ノ登録ヲ出願スル者アルトキハ特許局長ハ特許局審査官ヲシテ其意匠ヲ審査セシメ登録ヲ許スヘシト査定シタルモノハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ意匠原簿ニ登録シ其登録證下付ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條　登録證ハ農商務大臣之ニ署名シ特許局長之ニ副署シ明細書及圖面ヲ添ヘ之ヲ下付スルモノトス

第六條　意匠專用ノ年限ハ三年五年七年及十年ノ四種ト爲シ原簿登録ノ日ヨリ起算ス

第七條　意匠ノ專用ハ農商務大臣ノ定ムル物品類別ニ於テ出願人ノ指定シタル物品ニ限ルモノトス

第八條　二人以上同一又ハ類似意匠ノ登録ヲ出願スル者アルトキハ願書日附ノ先ナルモノヲ登録ス其日附同キモノハ共ニ之ヲ登録セサルモノトス但出願人協議ノ上連名ニテ其登録ヲ出願スルトキ又ハ其出願ヲ取消ス者アリテ出願者一人トナリタルトキハ此限ニ在ラス

第九條　意匠ノ登録ヲ受ケタル者又ハ之ヲ受ケントスル者死亡シタルトキハ其權利ハ相續者ニ屬スルモノトス

第十條　他人ノ委託又ハ雇主ノ費用ヲ以テ按出シタル意匠ノ登録出願ノ權利ハ其委託者若クハ雇主ニ屬ス但別ニ契約アル場合ニ於テハ此限ニ在ラス

第十一條　登録ヲ受ケタル意匠ト雖モ第二條ニ該ルコトヲ發見セラレタルモノ又ハ第八條第十條ニ違ヒ登録ヲ受ケタルコトヲ發見セラレタルモノハ其登録ヲ無効トス

第十二條　意匠ノ審査査定審判ニ關スル事項ハ總テ特許條例ヲ適用ス

第十三條　意匠專用權ハ制限ヲ附シ若クハ附セスシテ賣與讓與シ若クハ共有トナシ又ハ書入ト爲スコトヲ得此場合ニ於テハ特許局ニ請求シ契約ノ登録ヲ受クヘシ登録ヲ受ケサル契約ハ第三者ニ對シ法律上其効ナキモノトス

第十四條　特許局ノ官吏ハ在職中意匠ノ登録ヲ出願シ又ハ意匠專用權ヲ新ニ有スルコトヲ得ス但相續ニ由リ意匠專用權ヲ新ニ有スルハ此限ニ在ラス

第十五條　登録意匠主其登録證ヲ毀損若クハ亡失シタルトキハ事由ヲ具シ再下付ヲ出願スルコトヲ得

第十六條　登録意匠主其明細書若クハ圖面ノ不完全ナルコトヲ發見シタルトキハ登録ノ効力ヲ全クスル爲メ改訂明細書若クハ圖面ヲ添ヘ登録證ノ改訂ヲ出願スルコトヲ得但其意匠ニ變更ヲ生スルモノハ此限ニ在ラス

第十七條　登録意匠主ハ其意匠ヲ應用シタル物品ニ農商務大臣ノ定メタル登録標記ヲ爲ス

ヘシ

第十八條　意匠ニ關シ出願又ハ請求スル者ハ左ノ手數料ヲ納ムヘシ

一　意匠ノ登錄ヲ出願スルトキ

一意匠ニ付物品一類毎ニ　金五拾錢

二　登錄意匠ノ賣與讓與共有又ハ書入契約ノ登錄ヲ請求スルトキ

一意匠ニ付物品一類毎ニ　金三圓

三　登錄證ノ再下付ヲ出願スルトキ

證書一枚毎ニ　金壹圓

四　登錄證ノ改訂ヲ出願スルトキ

一意匠ニ付物品一類毎ニ　金貳圓

五　審判ヲ請求スルトキ

一事件毎ニ　金七圓

第十九條　意匠登錄證又ハ其改訂登錄證ヲ受クル者ハ意匠ヲ應用スル物品一類毎ニ左ノ區別ニ從ヒ登錄料ヲ納ムヘシ

一　三年ノ專用　金壹圓

二　五年ノ專用　金貳圓

三　七年ノ專用　金四圓

四　十年ノ專用　金八圓

第二十條　登錄意匠ニ關スル書類ノ謄本若クハ圖面ノ調製ヲ要スル者ハ特許局ニ之ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ相當ノ手數料ヲ納ムヘシ

第二十一條　登錄意匠ノ專用權ヲ侵シタル者ハ其意匠主ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ

第二十二條　前條損害賠償ノ責ハ三年ヲ以テ期滿免除ノ期トス

第二十三條　他人ノ登錄意匠ナルコトヲ知リ之ヲ同一物品ニ應用シテ之ヲ販賣シタル者又ハ情ヲ知リテ其物品ヲ受託販賣シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

登錄意匠主ノ權利ヲ侵スヘキ物品ナルコトヲ知リ之ヲ外國ヨリ輸入シテ販賣シタル者又ハ情ヲ知リ其物品ヲ受託販賣シタル者ハ登錄ヲ受ケサル意匠ヲ應用シタル物品ニ登錄詐欺ノ所爲ヲ以テ登錄證ヲ受ケタル者又ハ登錄ヲ受ケサル意匠ヲ應用シタル物品ニ登錄標記若クハ類似ノ標記ヲ爲シテ販賣シタル者又ハ情ヲ知リ其物品ヲ受託販賣シタル者ハ罰第一項ニ同シ

第二十四條　前條第一項第二項ノ場合ニ於テハ其犯罪ノ物件ヲ沒收シテ登錄意匠主ニ給付シ其既ニ賣捌キタルモノハ代價ヲ追徵シテ之ヲ給付ス

第二十五條　第二十三條第一項第二項ノ犯罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

前項ノ場合ニ於テ告訴人ノ請求ニ依リ裁判官ハ假ニ其告訴ニ係ル物品ノ販賣ヲ差止ムル

コトヲ得

第二十六條　登録意匠主第十七條ノ登録標記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキハ告訴又ハ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス

第二十七條　此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十八條　此條例施行ノ細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第二十九條　此條例ハ明治二十二年二月一日ヨリ施行ス

○意匠條例施行細則（二十二年一月四日農商務省令第二號）

意匠條例施行細則ヲ定ムルコト別冊ノ如シ

（別冊）

意匠條例施行細則

第一條　意匠條例ニ依リ差出ス願書ハ第一號ヨリ第七號ニ至ル書式ニ從ヒ之ヲ認メ同條例第十八條ノ手數料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用スヘシ

第二條　明細書ニハ明細書文例ニ準シ左ノ諸件ヲ記載シ圖面ニ通ヲ添フヘシ

一　意匠ノ名稱

二　意匠ヲ應用スル物品ノ類別及名稱

三　意匠ノ詳細說明

四　專用權請求ノ區域

第三條　圖面ニハ製圖例ニ準シ意匠ヲ明了ナラシムルニ必要ナル部分ヲ示スヘシ

寫眞ヲ以テ意匠ヲ示スコトヲ得ルモノハ之ヲ圖面ニ代用スルコトヲ得

第四條　意匠登録願書ハ其意匠ヲ應用スヘキ物品類別一類毎ニ各別ニ差出スヘシ

第五條　意匠登録願書及明細書圖面ヲ受理シタルトキハ特許局長ハ出願人ニ領收證ヲ送付シ願書ノ日附ヨリ三十日ヲ經タル後願書日附ノ順ニ從ヒ審査官ヲシテ其審査ニ着手セシムヘシ

第六條　意匠條例第十六條ニ依リ意匠登録證ノ改訂ヲ願出ルトキハ其事由ヲ記載シタル願書ニ改訂明細書一通若クハ圖面二通ヲ添ヘ現意匠登録證並ニ附屬ノ明細書圖面ト共ニ差出スヘシ

前項ノ出願ヲ許可スルトキハ特許局長ハ此細則第十條及第十一條ノ手續ニ依リ改訂意匠登録證ヲ送付スヘシ

第七條　審査官ニ於テ願書明細書圖面等ニ關シ訂正又ハ照會ヲ要スルトキハ特許局長ハ其旨ヲ出願人ニ通知シ通知ノ日附ヨリ六十日以内ニ訂正書訂正圖面又ハ回答書ヲ差出サシムヘシ此期限内ニ差出サヽルトキハ出願ヲ無効トス（二十三年八月農商務省令第八號ヲ以テ本條ヲ改正ス）

第八條　出願人其出願中ニ係ル願書明細書圖面等ニ過誤アルコトヲ發見シタルトキハ意匠ニ變更ヲ生セサルモノニ限リ其訂正ヲ請求スルコトヲ得但査定書若クハ登録通知書ヲ發シタル後及審判中ニ係ルモノヽ訂正ハ特許局長ニ於テ必要ト認メタルモノヽ外之ヲ許サス

第九條　再審査及審判ニ關スル事項ハ總テ特許條例施行細則ヲ適用ス

第十條　意匠ノ登録ヲ許可スルトキハ特許局長ハ登録料納付用紙ヲ添ヘテ登録通知書ヲ出願人ニ送付スヘシ

出願人前項ノ通知書ヲ受ケタルトキハ登録料納付用紙ニ意匠條例第十九條ノ登録料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ明細書二通圖面二通ヲ添ヘ通知書ノ日附ヨリ六十日以内ニ差出スヘシ此期限内ニ差出サヽルトキハ出願ヲ無効トス

第十一條　出願人登録料ヲ納付シタルトキハ特許局長ハ其納付ノ日ヲ以テ意匠原簿ニ登録シ其旨ヲ出願人ニ通知シ十五日以内ニ意匠登録證ヲ送付スヘシ

第十二條　意匠登録證ハ第八號書式ニ依リ調製シ意匠原簿登録ノ日ヲ以テ其日附ト爲シ改訂意匠登録證ハ第九號書式ニ

依リ調製シ許可ノ日ヲ以テ其日附ト爲ス（同上追加）

意匠條例第十五條ノ場合ニ於テ意匠登録證ヲ下付スルトキハ特許局長ハ其事由並ニ下付ノ年月日ヲ裏書シ之ニ署名スヘシ（同上ヲ以テ本項中削除ス）

第十三條　出願人他人ノ記名又ハ他人ト連名ニテ意匠登録證ヲ受ケント欲スルトキハ意匠原簿登録ノ日マテニ其旨ヲ申出ツヘシ

第十四條　意匠條例第十三條ニ依リ賣與、譲與、共有又ハ書入ノ登録ヲ請求スルトキハ第十號及第十一號書式ニ從ヒ請求書ヲ認メ同條例第十八條ノ手數料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ約定書ヲ添ヘテ差出スヘシ（同上ヲ以テ本條中訂正ス）

前項ノ請求アルトキハ特許局長ハ其約定書ヲ契約原簿ニ登録シ約定書ニ登録濟ノ證印ヲ捺シテ之ヲ請求人ニ送付スヘシ

第十五條　登録意匠主ハ意匠條例第十七條ニ依リ其意匠ヲ應用シタル物品又ハ其上包等ニ登録意匠ノ四字意匠登録證ノ日附及專用ノ年限ヲ標記スヘシ

第十六條　意匠專用權ヲ相續シタルトキ又ハ登録意匠主氏名ヲ變換シタルトキハ三十日以内ニ其旨ヲ屆出ツヘシ

第十七條　意匠ノ登録又ハ意匠登録ノ改訂ヲ許可シタルトキ又ハ意匠ノ登録ヲ無効トシタルトキ其他登録意匠ニ關シ必要ノ場合ニ於テハ特許局長ハ官報並ニ特許公報ヲ以テ之ヲ廣告スヘシ

第十八條　意匠條例第七條ノ物品類別ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一類　衣服

衣、裳、外套、襯衣、帶、領、領飾、領卷、肩掛等

第二類　頭飾、服飾、帽子

櫛、簪、根掛等○胸飾、腕環、指環、釦、鈕等○各種ノ帽子

第三類　時計及其附屬品

懸時計、置時計、掛時計、鎖、下ケ物等

第四類　傘、杖及履物類

各種ノ傘、杖○下駄、草履、靴等

第五類　携帶品

烟具、扇、懐中物、手提等

第六類　家具

棚、箪笥、机、椅子、卓子、寢臺等

第七類　敷物

段通、油團、花莚其他各種ノ敷物

第八類　煖爐及其附屬品

火鉢、煖爐、烟草盆、炭取、石炭入、火箸等

第九類　點燈器

行燈、燭臺、手燭、燈籠、ランプ、瓦斯燈、電氣燈等

第十類　建築附屬品

障戸、扉、柵、欄間、欄干等

第十一類　織物及他類ニ屬セサル織物製品

絹、綿、麻、毛等各種ノ織物○服紗、手巾、窓掛、卓被等

第十二類　他類ニ屬セサル編物組物

レース、打紐、飾緣等

第十三類　他類ニ屬セサル漆器（假漆塗、油漆塗等モ之ニ屬ス）

第十六類　第一章　意匠

飲食器、手箱、香合等

第十四類　他類ニ屬セサル陶器（煉化石、瓦等モ之ニ屬ス）

飲食器、花瓶、香爐等

第十五類　他類ニ屬セサル玻璃

飲食器、紋樣玻璃等

第十六類　他類ニ屬セサル七寶

花瓶、香爐、手箱、香合等

第十七類　他類ニ屬セサル金屬製品

貴金屬、賤金屬及合金ノ各種製品

第十八類　他類ニ屬セサル石材製品

寶石其他石類ノ各種製品

第十九類　他類ニ屬セサル木、竹、牙、角類製品

盆、箱、花瓶、籠、籠、柱聯、茶托、箸、硯屏、墨壺、筆筒等

第二十類　紙及他類ニ屬セサル紙製品

紋紙、擬革紙、襖紙、壁紙、表紙、色紙、短冊、紙袋等○書簡筒、文匣、一閑張等

第二十一類　皮革及他類ニ屬セサル皮革製品

各種ノ紋革○文匣、馬具等

第二十二類　他類ニ屬セサル物品

第十九條　特許條例施行細則第十三條第四十四條第四十五條第四十六條第四十七條第四十八條第四十九條第五十條及第五十一條ハ此細則ニモ之ヲ適用ス（同上ヲ以テ本條中加除ス）

書式用紙美濃紙十三行二十五字詰

第一號意匠ノ登録ヲ願出ルトキ

意匠登録願

一何々意匠ノ名稱ヲ掲クヘシ

右ハ別紙明細書及圖面（寫眞）ノ通ノ意匠ニシテ私（私共）ノ按出候モノニ有之意匠條例ニ觸レサルモノト確信候間何箇年ノ登録相受度此段相願候也

（此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ）

本籍（及現住所）

年　月　日　　按出者　氏　名　印

（二名以上ナルトキハ各署名捺印スヘシ以下總テ此例ニ依ル）

農商務大臣氏名殿

第二號意匠按出者他人ト連名ノ意匠登録證ヲ受ケントシテ登録ヲ願出ルトキ

意匠登録願

一何々意匠ノ名稱ヲ掲クヘシ

右ハ別紙明細書及圖面（寫眞）ノ通ノ意匠ニシテ私（私共）ノ按出候モノニ有之意匠條例ニ觸レサルモノト確信候間何箇年ノ登録相受度尤登録證ノ儀ハ何某本籍ヲモ記スヘシト連名ニテ下付相成度此段相願候也

（此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ）

本籍（及現住所）

年　月　日　　按出者　氏　名　印

農商務大臣氏名殿

第三號意匠按出者他人ノ記名ニテ意匠登録證ヲ受ケントシテ登録ヲ願出ルトキ

意匠登録願

一何々意匠ノ名稱ヲ掲クヘシ

右ハ別紙明細書及圖面（寫眞）ノ通ノ意匠ニシテ私（私共）ノ按出候モノニ有之意匠條例ニ觸レサルモノト確信候間何箇年ノ登録相受度尤登録證ノ儀ハ何某本籍ヲモ記スヘシト連名ニテ下付相成度此段相願候也

（此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ）

本籍（及現住所）

年　月　日　　按出者　氏　名　印

農商務大臣氏名殿

意匠登録願

一何々意匠ノ名稱ヲ掲クヘシ

右ハ別紙明細書及圖面（寫眞）ノ通ノ意匠ニシテ私（私共）ノ按出候モノニ有之意匠條例ニ觸レサルモノト確信候間何箇年ノ登録相受度此段相願候也

（此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ）

本籍（及現住所）

年　月　日　　按出者　氏　名　印

（二名以上ナルトキハ各署名捺印スヘシ以下總テ此例ニ依ル）

農商務大臣氏名殿

第四號 相續者ヨリ意匠ノ登録ヲ願出ルトキ

意匠登録願

一何々意匠ノ名稱ヲ掲クヘシ

右ハ亡何某ノ按出ニ係リ私相續候處別紙明細書及圖面(寫眞)ノ通ノ意匠ニシテ意匠係例ニ觸レサルモノト確信候間何箇年ノ登録相受度此段相願候也

本籍(及現住所)
按出者亡何某相續者
登録願人　氏　名　印

農商務大臣氏名殿

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

第五號 他人ノ按出ニ係ル意匠ノ登録ヲ願出ルトキ

意匠登録願

一何々意匠ノ名稱ヲ掲クヘシ

右ハ別紙明細書及圖面(寫眞)ノ通ノ意匠ニシテ私(私共、當會社、當組合)ヨリ何某本籍ヲモ記スヘシニ託シ按出セシメタルモノニ有之意匠係例ニ觸レサルモノト確信候間何箇年ノ登録相受度此段相願候也

本籍(及現住所)

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

年　月　日　登録願人　氏　名　印
又ハ所在地
登録願人　會社組合名社組印
社(組)長又ハ重役　氏　名　印
會社又ハ組合ヨリ差出ス書面ノ署名方ハ總テ此例ニ依ル

農商務大臣氏名殿

第六號 意匠登録證ノ再下付ヲ願出ルトキ

意匠登録證再下付願

一第何號意匠登録證

一何々登録意匠ノ名稱ヲ掲クヘシ

一按出者氏名

右私(私共)所有意匠登録證何々事由ヲ記スヘシニ依リ毀損(亡失)候ニ付意匠登録證再下付相成度此段相願候也

本籍(及現住所)
年　月　日　登録意匠主　氏　名　印

農商務大臣氏名殿

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

第七號 意匠登録證ノ改訂ヲ願出ルトキ

意匠登録證改訂願

一第何號意匠登録證

一何々意匠ノ名稱ヲ掲クヘシ

一按出者氏名

右私(私共)所有意匠登録證附屬ノ明細書(圖面又ハ寫眞)中何々事由ヲ記スヘシノ爲メ登録ノ效力ヲ全クシ難キニ付別紙之通改訂致度尤之カ爲メ意匠ノ要部ニ變更ヲ生スル儀無之候間改訂意匠登録證下付相成度別紙改訂明細書(改訂圖面又ハ寫眞)並ニ現意匠登録證及附屬明細書(圖面又ハ寫眞)相添此段相願候也

本籍(及現住所)
年　月　日　登録意匠主　氏　名　印

農商務大臣氏名殿

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

第八號 意匠登録證書式 (同上ヲ以テ書式中削除)

第何號

意匠登録證

第十六類　第一章　意匠

表

何々(意匠ノ名稱)　本籍(及現住所)　氏　名

意匠條例ニ據リ前記ノ意匠ヲ登録シ本證附屬明細書ノ請求區域ニ對シ右記名ノ者ニ何年間專用權ヲ與フルモノ也

年　月　日　農商務大臣　氏　名　印
特許局長　氏　名　印

裏

何々下付ノ事由

年　月　日　特許局長　氏　名　印

第九號 改訂意匠登録證書式 (二十三年八月農商務省令第九號ヲ以テ追加ス)

第何號

改訂意匠登錄證

本籍(及現住所)

何々(意匠ノ名稱)　氏　名

意匠條例ニ據リ(何某ニ)明治何年何月何日何年間ノ專用權ヲ與ヘタル登錄意匠ニ對シ本證附屬明細書圖面ノ通改訂ヲ許可スルモノ也

年　月　日　農商務大臣　氏　名　印

特許局長　氏　名　印

第十號登錄意匠ノ賣與、讓與、共有又ハ(同上ヲ以テ第十號ト改ム)書入ノ登錄ヲ請求スルトキ

登錄意匠賣與(讓與、共有又ハ書入)登錄請求書　此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

一第何號意匠登錄證

一何々登錄意匠ノ名稱ヲ掲クヘシ

一按出者氏名

右私(私共)所有登錄意匠ヲ別紙約定書之通賣與(讓與共有又ハ書入)候間登錄相成度約定書相添此段請求候也

本籍(及現住所)

八百四十

年　月　日　登錄意匠主　氏　名　印

本籍(及現住所)

買受(讓受、共有書入受)人　氏　名　印

特許局長氏名殿

第十一號書入中ノ登錄意匠ノ賣與、讓與、共有又ハ書入ノ登錄ヲ請求スルトキ(同上ヲ以テ第十一號ト改ム)

登錄意匠賣與(讓與、共有又ハ書入)登錄請求書　此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

一第何號意匠登錄證

一何々登錄意匠ノ名稱ヲ掲クヘシ

一按出者氏名

右私(私共)所有登錄意匠ハ何年何月何日附ノ約定書ニ依リ何某本籍ヲモヘ書入致置候處今般別紙約定書之通賣與(讓與、共有又ハ書入)候間登錄相成度約定書相添此段請求候也

本籍(及現住所)

年　月　日　登錄意匠主　氏　名　印

本籍(及現住所)

買受(讓受、共有書入受)人　氏　名　印

特許局長氏名殿

明細書文例

(備考)

一　明細書ハ美濃紙二ツ折ニシテ上部曲尺一寸下部八分左二分綴料一寸ヲ餘シ楷行ノ内ヲ以テ十三行二十五字詰ニ認ムヘシ

二　明細書ニハ此細則第二條ニ掲ケタル諸件ノ外必要ナラサル事項ヲ記載スヘカラス

三　明細書ハ書損ナキ樣認ムヘシ若シ書損アリテ挿入又ハ削除スルトキハ其上部ニ存スル餘白ニ第何行第何字目何々ノ下何々ノ上何々ノ何字ヲ加ヘ又ハ除クトカ或ハ何々ノ字ヨリ何々ノ字ニ至ル何字ヲ何々ノ何字ニ改ムト記シテ認印スヘシ紙ヲ糊付シテ書損ノ部分ヲ掩ヒ其上ニ書改ムル等ノコトヲ爲スヘカラス但削除スヘキ文字ニハ一ノ縱線ヲ引キ其字體ヲ存スヘシ

四　明細書ニハ其末尾ニ出願人署名捺印スヘシ本籍、現住所(年月日及宛名ハ之ヲ記載スヘカラス

製圖例

(備考)

一　圖面ハ礬水引ノ純白ナル美濃紙ヲ用ヒ凡ソ其上部曲尺一寸下部八分左三分右一寸五分ヲ餘シ竪曲尺七寸二分横四寸六分ノ面内ニ之ヲ認メ其面内左右ノ下部ニ於テ圖面ニ妨ケナキ所ニ出願人署名捺印スヘシ本籍、現住所、年月日及宛名ハ之ヲ記載スヘカラス

二　圖面ヲ製スルニ其紙ノ横ヲ竪ニ用フルハ妨ケナシト雖モ同一ノ紙面ヲ竪横混合シテ用フヘカラス

三　圖面ハ成ルヘク一枚ニ認メ已ムヲ得サル場合ノ外其紙數ヲ增加スヘカラス

四　意匠ノ名稱ハ圖面中ニ記載スヘカラス

五　圖面ハ色彩ニ係ルモノヽ外一切着色スヘカラス

六　圖ノ離レタルモノハ一箇毎ニ第一圖第二圖ト番號ヲ付シ又一部分ニシテ數圖ニ亘ルモノアレハ必ス同一ノ符號ヲ用フヘシ但番號及符號ハ圖ノ妨ケトナラサル樣濃墨ニテ明瞭ニ記スヘシ

七　符號ヲ直ニ圖ニ施スコト能ハサル場合ニハ其部分ヨリ少シク離シテ符號ヲ記シ極小ノ點線ヲ以テ其部分ト符號トヲ接續スヘシ陰ヲ施シタル上ニ符號ヲ記スヘカラス已ムヲ得スシテ陰ノ上ニ施ストキハ其部分

タケ陰ヲ施サスシテ符號ヲ記スヘシ

八 截斷面ヲ現ハスニハ線間凡ソ三厘ヲ離シタル平行線ヲ斜ニ引クヘシ又截斷面中部分ヲ異ニスルモノハ各方向ノ差ヒタル斜線ヲ用フヘシ

九 活版ニ應用スヘキ文字及記號ノ形狀ニ係ル意匠ノ圖面ヲ製スルニハ左ノ心得ニ依ルヘシ

一、片假名平假名數字若クハ羅馬字ノ如キ數ニ定限アル文字等ノ形狀ニ係ル意匠ナルトキハ其各字形等ノ全體ヲ示スヘシ

一、漢字ノ如キ數ニ定限ナキ文字ノ形狀ニ係ル意匠ナルトキハ其各字形ノ全體ヲ示スヲ要セス唯之ヲ構成スル部分即チ偏、旁、冠、構等ノ各種類ヲ舉ケテ其形狀ヲ示スヘシ若シ又偏、旁等ノ一部分ヲ以テ示シ難キ文字全體ノ形狀ニ係ル意匠ナルトキハ其全般ヲ推知スルニ足ルヘキ若干ノ字例ニ依テ之ヲ示スヘシ

一、文字ノ全體又ハ偏、旁等ニ關セス唯其點畫ニ屬スル形狀ニ係ル意匠ナルトキハ各種點畫ノ形狀並ニ之ヲ以テ組成セル文字ノ全體數種ヲ示スヘシ

第一形狀ノ意匠ヲ記載シタル一例

明細書

煖爐ノ意匠

此意匠ヲ應用スル物品ハ第八類中砲狀煖爐トス

此意匠ハ別紙圖面ニ示シ且ツ左ニ逐一記載スル如キ新規ナル各部ト其組合トヲ包括ス

一部ヲ扉いノ裝飾方トス即チ圓狀ノ通風版ロト下部兩隅ノ菊花形ほト上部兩隅ノ葉形へト中間ナル四分菊花形ノ裝飾とトヨリ成ルモノナリ

一部ハ煖爐中ろナル部分ノ形狀ト裝飾方トニ係リ突緣ちト上ニ向テ漸ク歛小スル凸曲面ヲ有シ且ツ上端ニ鋸齒狀ノ摸樣ヲ附ケタル帶ぬヲ具フル部分リト截頭圓錐狀ノ環るト四分圓狀凹曲面ヲ有スル環をト半圓狀菊花形ヲ並列シタル環わト四分圓狀凸曲面ヲ有スル環かト罷版よトヨリ成ル

一部ハ煖爐ノ脚ノ形狀ト裝飾方トニ在リ即チ葉形ねヲ有シ且ツ相會シテ角ヲ成ス所ノ上部側版つト菊花形及ヒ葉形ノ裝飾らヲ有スル下部なトヨリ成ル

煖爐ノ體部ニ屬スル意匠ハ別紙圖面ニ示シタル如

キ形狀ト裝飾トヲ具フルろは兩部分ヨリ成リ其はナル部分ハれろノ諸部分ヲ有ス

本意匠ノ全體ハ扉いトろは兩部分ト脚トヲ包含ス但シ此等諸部分ノ形狀及ヒ裝飾方ハ煖爐ノ全體ヲシテ恰モ別紙圖面ニ示シタル觀ヲ呈セシムル如クスルモノトス

此意匠ノ專用權ヲ請求スル區域ヲ左ニ掲ク

一煖爐ノ意匠中別紙圖面ニ示ス如ク通風版ロト菊花形ほト葉形へト四分菊花形とトヨリ成ル扉いノ裝飾方

二煖爐ノ意匠中前記ノ如クちりぬるをわかよノ諸部分ヨリ成ル部分ろノ形狀及ヒ裝飾方

三煖爐ノ意匠中別紙圖面ニ示シ且ツ前ニ記スル如キつねならノ諸部分ヨリ成ル脚ノ形狀及ヒ裝飾方

四前記ノ如キ形狀及ヒ裝飾ヲ有スルろは兩部分ヨリ成ル煖爐ノ體部ノ意匠

五前記ノ如キ形狀及ヒ裝飾ヲ有スル扉いトろは兩部分ト脚トヨリ成ル全體ノ意匠

一　氏名印

又ハ

會社(組合)名社印

社(組)長又ハ重役

氏名印

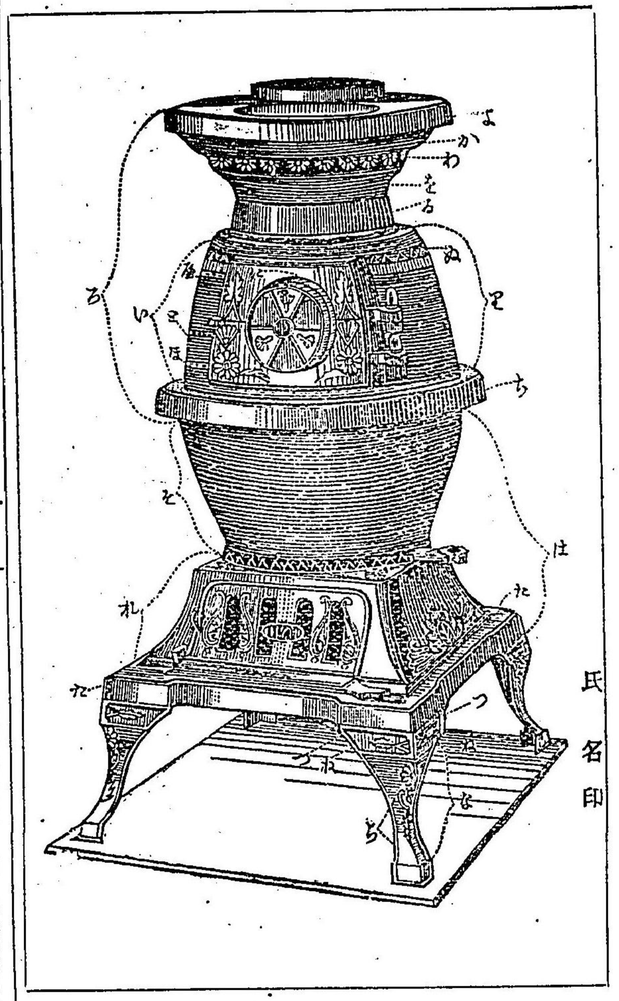
會社又ハ組合ヨリ差出ス明細書及圖面ノ署名方ハ總テ此例ニ依ル

第二模様ノ意匠ヲ記載シタル一例

明細書

織物模様ノ意匠

此意匠ヲ應用スル物品ハ第十一類中一切ノ織物トス

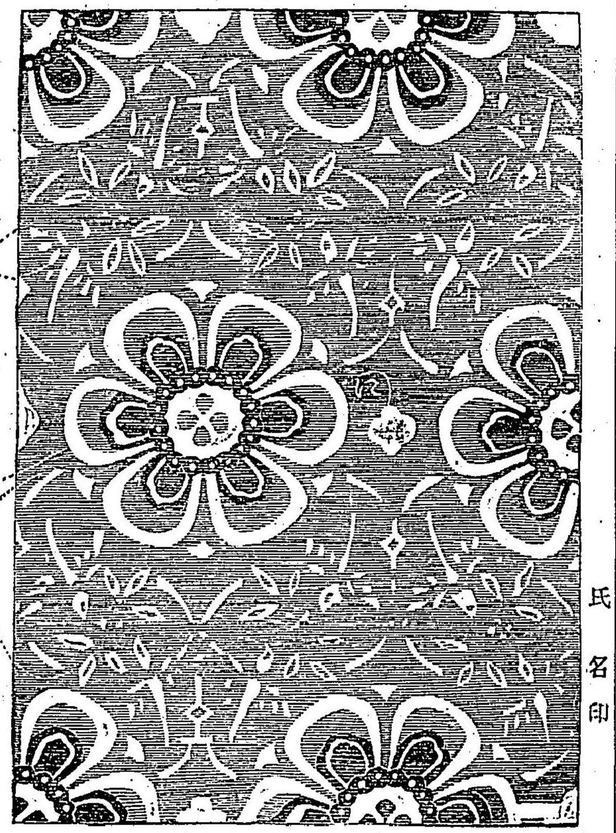


氏名印

此模様ハ別紙圖面ニ示ス如ク形狀相同シク且ツ大イサ相等シキ二重六瓣ノ花紋いノ縱列スル距離ヲ其横列スル距離ノ二倍トシ相隣接セル四花毎ニ菱形ヲ爲スノ位置ニ之ヲ配リ唐草模様ろ及ヒ一對ツヽ斜メニ向ヒ合ヒタル鳥模様はニテ之ヲ繫キ更ニ木瓜形にヲ横列セル花紋ノ間ニ置キテ成ルモノニ

係ル此意匠ノ專用權ヲ請求スル區域ヲ左ニ掲ク

一別紙圖面ニ示シ且ツ前ニ記スル如キ唐草ろト鳥はトヨリ成ル繫キ模様



氏名印

二前記ノ二重六瓣花紋いヲ前起ノ模様ニテ繫キ且ツ横列セル花紋ノ間ニ木瓜形にヲ置キテ成ル全體ノ意匠

氏名印

第三 蒔繪ノ意匠ヲ記載シタル一例

明細書

蒔繪ノ意匠

此意匠ヲ應用スル物品ハ第十三類中香合トス

此蒔繪ハ丸香合ノ表裏ニ施スモノニシテ拾遺和歌集ニ載スル所ノ貫之ノ歌「ねもひかねいもかりゆけは冬の夜の川かせさむみちどりなくなり」ノ意ヲ畫ト文字トニテ表ハシタルモノニ係ル

此圖樣ハ蓋ノ表面(通常黑漆地)ニ蒔繪(通常金ノ平蒔繪)ニテ三羽ノ千鳥ノ飛フ狀ヲ別紙圖面中いいノ如ク描キ其下ニ蒔繪(通常金ノ平研出シ)ニテ小波ヲ圖中ろノ如ク顯ハシ其直上ニ右歌ノ中ノ詞「冬の夜」ノ三字ヲ(通常平嵌ノ銀金貝ニテ)圖中はノ如ク嵌入シテ成ル又蓋ノ裏面ニハ表面ノ千鳥ト同一ノ蒔繪ニテ二羽ノ千鳥ノ飛フ狀ヲ圖中にノ如ク描クナリ

此意匠ノ專用權ヲ請求スル區域ヲ左ニ掲ク

一前記ノ如ク香合ノ蓋ノ表面ニ三羽ノ千鳥ノ飛フ狀ヲ描キ其下ニ小波ヲ顯ハシ小波ノ直上ニ「冬の夜」ノ三字ヲ記シタル圖樣

二第一項ノ意匠ヲ施シタル香合ノ蓋ノ裏面ニ前記ノ如ク二羽ノ千鳥ノ飛フ狀ヲ描キタル圖樣

氏名印

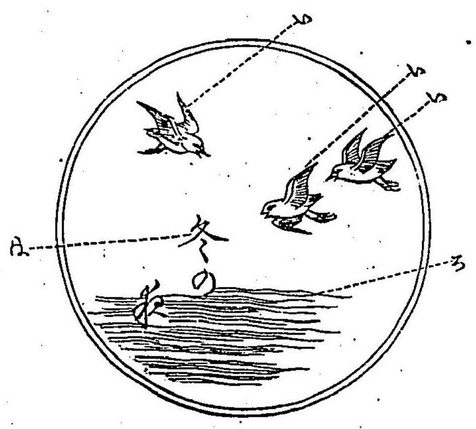
第四 色彩ノ意匠ヲ記載シタル一例

明細書

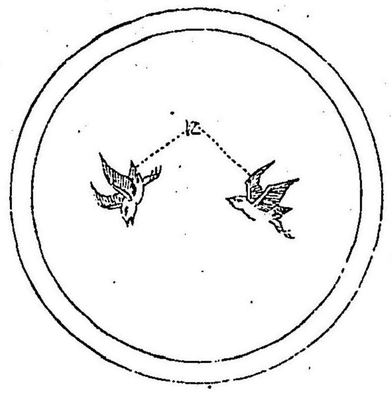
織物色彩ノ意匠

此意匠ヲ應用スル物品ハ第十一類中絹織物綿織物及ヒ交織物トス

第一圖



第二圖



氏名印

第十六類　第一章　意匠

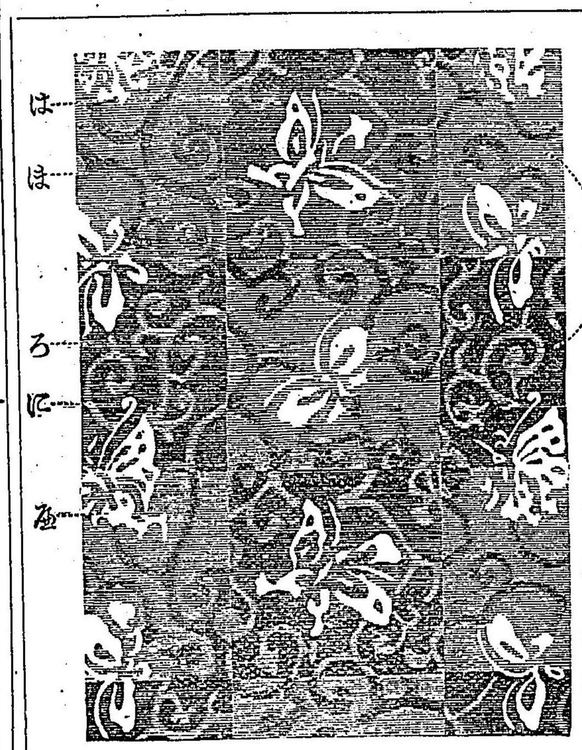
此意匠ハ市松形ノ上ニ唐草ト蝶トヲ附シタル在來ノ模樣ヲ用ヒテ之ニ新規ノ色彩ヲ施シタルモノニ係リ其色ノ配合ハ別紙圖面ニ示ス如ク市松形いヲ一ツ舍キニ淡藍ろト白茶はトノ二色ニ分チ其淡藍地ノ所ニハ唐草にヲはニ同シキ白茶ニテ出シ白茶地ノ所ニハ唐草はヲろニ同シキ淡藍ニテ出シ又唐草ノ間ニ在ル蝶模樣ゑハ總テ黃色ニスルモノトス

此意匠ノ専用權ヲ請求スル區域ヲ左ニ掲ク
一前記ノ如ク市松形ヲ一ツ舍キニ淡藍ト白茶ト
ノ二色ニ分チ其淡藍地ノ所ハ唐草ヲ白茶ニ白
茶地ノ所ハ唐草ヲ淡藍ニ出シテ唐草ノ間ニ在
ル蝶模樣ヲ黄色ニシタル全體ノ色彩

氏名印

八百四十八

第五字形ノ意匠ヲ記載シタル一例

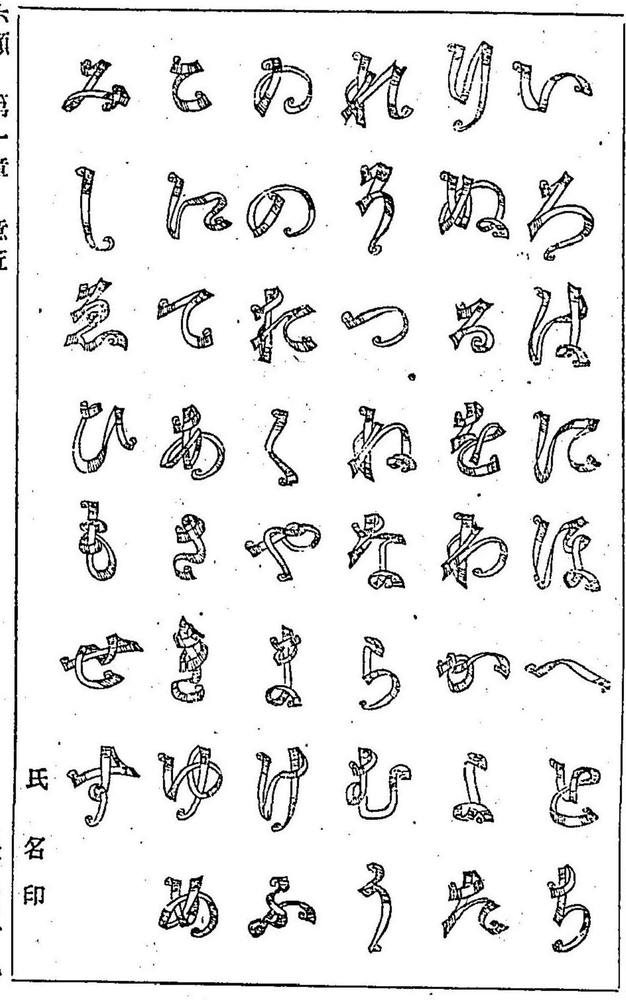


氏名印

明細書

平假名文字ノ意匠
此意匠ヲ應用スル物品ハ第二十二類中活版トス
此意匠ハ別紙圖面ニ示ス如ク一條ノ平綬ヲ屈曲シテ各字體ヲ形成セシメ更ニ其首尾ノ兩端ヲ捲キタル狀ノモノニ陰ヲ施シテ成ルモノナリ
此意匠ノ専用權ヲ請求スル區域ヲ左ニ掲ク
一前記ノ如ク平綬ヲ以テ字體ヲ成シ首尾兩端ヲ捲キ之ニ陰ヲ施シテ成ル平假名文字ノ意匠

氏名印



氏名印

○農商務省特許局ニテ登錄セル特許意匠及商標登錄方（特許條例ノ部ニ掲ク）
○特許料登錄料及手數料ハ登記印紙ヲ用ユ（特許條例ノ部ニ掲ク）
○特許發明ノ明細書特許公報商標公報ノ拂下代價幷ニ書類謄本圖面調製ノ手數料及請求手續ヲ定ム（特許條例ノ部ニ掲ク）

○商標條例（二十一年十二月十八日勅令第八十六號）

商標條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

勅令第八十六號

商標條例

第一條　自己ノ商品ヲ表彰スル爲メ商標ヲ使用セント欲スル者ハ此條例ニ依リ其商標ノ登錄ヲ受ケ之ヲ專用スルコトヲ得

商標ハ特別著明ナル圖形字體又ハ其結合ヲ以テ要部ト爲スヘシ

第二條　左ニ揭クル商標ハ登錄ヲ受クルコトヲ得サルモノトス

一　風俗ヲ害スヘキモノ

二　商品普通ノ名稱若クハ內外國ノ旗章ノミヲ以テ要部ト爲スモノ

三　他人ノ登錄商標又ハ登錄出願以前ヨリ他人ノ使用スル商標ト同一若クハ類似ニシテ同一商品ニ使用セントスルモノ

第三條　商標ノ登錄ヲ受ケント欲スル者ハ一商標毎ニ明細書及見本ヲ添ヘ農商務大臣ニ出願スヘシ但其願書明細書及見本ハ特許局ニ差出スヘシ

第四條　商標ノ登錄ヲ出願スル者アルトキハ特許局長ハ特許局審査官ヲシテ其商標ヲ審査セシメ登錄ヲ許スヘシト査定シタルモノハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ商標原簿ニ登錄シ其登錄證下付ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條　登錄證ハ農商務大臣之ニ署名シ特許局長之ニ副署シ明細書及見本ヲ添ヘ之ヲ下付スルモノトス

第六條　商標專用ノ年限ハ二十年ト爲シ原簿登錄ノ日ヨリ起算ス

第七條　商標ノ專用ハ農商務大臣ノ定ムル商品類別ニ於テ出願人ノ指定シタル商品ニ限ルモノトス

第八條　二人以上同一又ハ類似ノ商標ヲ同一商品ニ使用セントシテ登錄ヲ出願スル者アルトキハ願書日附ノ先ナルモノヲ登錄ス其日附同キモノハ共ニ之ヲ登錄セサルモノトス但其出願ヲ取消ス者アリテ出願者一人トナリタルトキハ此限ニ在ラス

第九條　商標ノ登錄ヲ受ケタル者又ハ之ヲ受ケントスル者死亡シタルトキハ其權利ハ相續者ニ屬スルモノトス

第十條　登錄ヲ受ケタル商標ト雖モ第二條ニ該ルコトヲ發見セラレタルモノ又ハ第八條ニ違ヒ登錄ヲ受ケタルコトヲ發見セラレタルモノハ其登錄ヲ無効トス

第十一條　商標ノ審査査定審判ニ關スル事項ハ總テ特許條例ヲ適用ス

第十二條　登録商標主其營業ヲ賣與讓與シ又ハ他人ト其營業ヲ共ニスル場合ニ限リ其商標專用權ヲ賣與讓與シ若クハ共有トナスコトヲ得此場合ニ於テハ特許局ニ請求シ契約ノ登録ヲ受クヘシ登録ヲ受ケサル契約ハ第三者ニ對シ法律上其効ナキモノトス

第十三條　登録ヲ受ケタル商標ト雖モ左ノ場合ニ於テハ登録ノ効ヲ失フモノトス

一　登録商標主相當ノ事故ナクシテ商標登録ノ日附ヨリ六箇月ヲ經テ其商標ヲ使用セサルトキ

二　登録商標主相當ノ事故ナクシテ其商標ノ使用ヲ一箇年間中止シタルトキ

三　登録商標主其商標ヲ使用スル營業ヲ廢止シタルトキ

四　登録商標主其商標ヲ使用スル商品ノ數量產地品質等ニ關シ不實ノ事項ヲ附記シタルトキ

五　登録商標主磨滅若クハ缺損シタル商標ヲ使用シタルトキ

第十四條　登録商標主其專用年限滿期ノ後其商標ヲ續用セント欲スル者ハ更ニ其登録ヲ出願スルコトヲ得

第十五條　登録商標主其登録證ヲ毀損若クハ亡失シタルトキハ事由ヲ具シ再下付ヲ出願スルコトヲ得

第十六條　登録商標主其明細書若クハ見本ノ不完全ナルコトヲ發見シタルトキハ登録ノ効力ヲ全クスル爲メ改訂明細書若クハ見本ヲ添ヘ登録證ノ改訂ヲ出願スルコトヲ得但其商標ノ要部ニ變更ヲ生スルモノハ此限ニ在ラス

第十七條　商標ニ關シ出願又ハ請求スル者ハ左ノ手數料ヲ納ムヘシ

一　商標ノ登録ヲ出願スルトキ　金壹圓

一商標ニ付商品一類毎ニ

二　登録商標ノ賣與讓與又ハ共有契約ノ登録ヲ請求スルトキ　金參圓

一商標ニ付商品一類毎ニ

三　登録證ノ再下付ヲ出願スルトキ　金壹圓

證書一枚毎ニ

四　登録證ノ改訂ヲ出願スルトキ　金貳圓

一商標ニ付商品一類毎ニ

五　審判ヲ請求スルトキ　金七圓

一事件毎ニ

第十八條　商標登録證又ハ其改訂登録證又ハ其續用登録證ヲ受クル者ハ其商標ヲ使用スル物品一類毎ニ登録料金拾圓ヲ納ムヘシ

第十九條　特許局ハ時々商標公報ヲ印刷シ衆庶ノ縱覽ニ供スヘシ其請求者アルトキハ相當代價ヲ以テ之ヲ拂下クルコトヲ得

第二十條　登錄商標ニ關スル書類ノ謄本ヲ要スル者ハ特許局ニ之ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ相當ノ手數料ヲ納ムヘシ

第二十一條　登錄商標ノ專用權ヲ侵シタル者ハ其商標主ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ

第二十二條　前條損害賠償ノ責ハ三年ヲ以テ期滿免除ノ期トス

第二十三條　他人ノ登錄商標ナルコトヲ知リ之ト同一又ハ類似ノ商標ヲ同一商品ニ使用シテ之ヲ販賣シタル者又ハ情ヲ知リ其商品ヲ受託販賣シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

詐欺ノ所爲ヲ以テ登錄證ヲ受ケタル者又ハ登錄ヲ受ケサル商標ニ登錄ノ文字ヲ記シタル者又ハ情ヲ知リ其商品ヲ受託販賣シタル者ハ罰前項ニ同シ

第二十四條　前條ノ場合ニ於テハ違犯ノ商標ヲ沒收ス其商品ト分離スヘカラサルモノハ商品ヲ破毀セシム

第二十五條　第二十三條第一項ノ犯罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

前項ノ場合ニ於テ告訴人ノ請求ニ依リ裁判官ハ假ニ其告訴ニ係ル物品ノ販賣ヲ差止ムルコトヲ得

第二十六條　此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十七條　此條例施行ノ細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第二十八條　此條例ハ明治二十二年二月一日ヨリ施行ス

○商標條例施行細則ヲ定メ商標登錄願手續ヲ廢止ス　二十二年一月四日　農商務省令第三號

商標條例施行細則ヲ定ムルコト別冊ノ如シ但明治十七年六太政官第十三號布達商標登錄願手續ハ明治二十二年二月一日ヨリ廢止ス

（別冊）

商標條例施行細則

第一條　商標條例ニ依リ差出ス願書ハ第一號ヨリ第五號ニ至ル書式ニ從ヒ之ヲ認メ同條例第十七條ノ手數料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用スヘシ

第二條　明細書ニハ明細書文例ニ準シ商標ノ見本一箇ヲ掲ケ左ノ諸件ヲ記載シテ別ニ商標ノ見本一箇ヲ添フヘシ

一　商標全部構造ノ詳細說明

二　商標ノ要部

三　商標ヲ使用スル商品ノ類別及名稱

四　商標使用ノ方法

第三條　商標登錄願書ハ其商標ヲ使用スヘキ商品類別一類毎ニ各別ニ差出スヘシ

第四條　商標登錄願書明細書及見本ヲ受理シタルトキハ特許局長ハ出願人ニ領收書ヲ送付シ願書ノ日附ヨリ三十日ヲ經タル後願書日附ノ順ニ從ヒ審査官ヲシテ其審査ニ着手セシムヘシ

第五條　商標條例第十六條ニ依リ商標登錄證ノ改訂ヲ願出ルトキハ其事由ヲ記載シタル願書ニ改訂明細書一通若クハ見本二箇ヲ添ヘ現商標登錄證並ニ附屬ノ明細書ト共ニ差出スヘシ

前項ノ出願ヲ許可スルトキハ特許局長ハ此細則第九條及第十條ノ手續ニ依リ改訂商標登錄證ヲ送付スヘシ

第六條　審査官ニ於テ願書明細書見本等ニ關シ訂正又ハ照會ヲ要スルトキハ特許局長ハ其旨ヲ出願人ニ通知シ通知書ノ日附ヨリ六十日以內ニ訂正書訂正見本又ハ回答書ヲ差出サシムヘシ此期限內ニ差出サヽルトキハ出願ヲ無効トス（二十三年八月二十九日農商務省令第九號ヲ以テ改正）

第七條　出願人其出願中ニ係ル願書明細書見本等ニ過誤アルコトヲ發見シタルトキハ商標ノ要部ニ變更ヲ生セサルモノニ限リ其訂正ヲ請求スルコトヲ得但査定書若クハ登録通知書ヲ發シタル後及審判中ニ係ルモノハ訂正ハ特許局長ニ於テ必要ト認メタルモノハ外之ヲ許サス

第八條　再審査及審判ニ關スル事項ハ總テ特許條例施行細則ヲ適用ス

第九條　商標ノ登録ヲ許可スルトキハ特許局長ハ登録料納付用紙ヲ添ヘテ登録通知書ヲ出願人ニ送付スヘシ

出願人前項ノ通知書ヲ受ケタルトキハ登録料納付用紙ニ商標條例第十八條ノ登録料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ明細書一通見本一箇及商標ノ印版ヲ添ヘ通知書ノ日附ヨリ九十日以内ニ差出スヘシ此期限内ニ差出サヽルトキハ出願ヲ無効トス

第十條　出願人登録料ヲ納付シタルトキハ特許局長ハ其納付ノ日ヲ以テ商標原簿ニ登録シ其旨ヲ出願人ニ通知シ十五日以内ニ商標登録證ヲ送付スヘシ

第十一條　商標登録證ハ第六號書式ニ依リ調製シ商標原簿登録ノ日ヲ以テ其日附ト爲シ改訂商標登録證ハ第七號書式ニ依リ調製シ許可ノ日ヲ以テ其日附ト爲ス（同上本項中追加）

商標條例第十五條ノ場合ニ於テ商標登録證ヲ下付スルトキハ特許局長ハ其事由並ニ下付ノ年月日ヲ裏書シ之ニ署名スヘシ（同上本項中削除）

第十二條　商標條例第十二條ニ依リ賣與、譲與又ハ共有ノ登録ヲ請求スルトキハ第八號書式ニ從ヒ請求書ヲ認メ同條例第十七條ノ手數料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ約定書ヲ添ヘテ差出スヘシ（同上本項中改正）

前項ノ請求アルトキハ特許局長ハ其約定書ヲ契約原簿ニ登録シ約定書ニ登録濟ノ證印ヲ捺シテ之ヲ請求人ニ送付スヘシ

第十三條　商標專用權ヲ相續シタルトキ又ハ登録商標主氏名ヲ變換シ若クハ其商標ノ使用ヲ廢止シタルトキハ三十日以内ニ其旨ヲ届出ツヘシ

第十四條　商標ノ登録又ハ商標登録證ノ改訂ヲ許可シタルトキ又ハ商標ノ登録ヲ無効トシタルトキ其他登録商標ニ關シ必要ノ場合ニ於テハ特許局長ハ官報並ニ商標公報ヲ以テ之ヲ廣告スヘシ

第十五條　特許局ニ差出シタル商標ノ印版ハ保管中亡失毀損スルモ辨償ノ責ニ任セス（二十二年十月農商務省令第十號ヲ以テ本項ヲ改ム）

第十六條　商標條例第七條ノ商品類別ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一類　化學品及藥劑

酸類、鹽類、アルカリ、漂白粉、膠、糊、膠、燐、石鹼、酒精、グリセリン、キナエン、モルヒチン、丁幾劑、舍利別、煎劑、丸藥、膏藥、藥油、麝香、丁子、食鹽、石灰、艾等

第二類　染料及顔料

藍玉、藍靛、紫根、紅、朱、丹、綠青、燒青、洋靛、白粉、胡粉、藤黃等

第三類　塗料

漆、假漆、油漆、澱、粉墨等

第四類　香料及燻料

香油、髮膏、香袋、香水、炷香、線香、練香等

第五類　金屬及其半加工品

銑鐵、鍛鐵、鋼鐵、條鐵、鐵葉、鐵板、鐵線、銅、銅板、銅線、鉛、鉛板、亞鉛、亞鉛板、錫、合金等

第六類　金屬ノ製品

鑄物、打物、彫鏤品及編物等

第七類　利器及尖刃器

鋸、鋸、鑿、錐、鏨、針、釘、剪刀、小刀、劍刀、庖丁、鳶嘴等

第八類　貴金屬及其製品（アルミニウム金、ニツケル銀ノ製品モ之ニ屬ス）

黃金、銀、四分一、紫銅其他貴金屬ノ合金鍍品(彫鏤品、モール等

第九類　珠玉及其彫鏤品

珊瑚珠、眞珠、瑪瑙、水晶、黃玉、碧玉等及其模造品

第十類　鑛物類(但石炭ハ第五十一類ニ屬ス)

第十一類　石材及其製品並彫鏤品

版石、大理石、砥石、石器等及其模造品

第十二類　漆喰類

漆喰、セメント、石膏等

第十三類　陶磁器類

諸種ノ陶磁器、土器、坩堝、瓦、煉化石等

第十四類　七寶燒

第十五類　玻璃及其製品

玻璃壜、玻璃管、彩色玻璃等

第十六類　機械類

紡績機、裁縫機、製糖機、印刷機、其他諸製造機械、汽機、汽罐等

第十七類　農工器具

犁、鋤、鍬、唐箕、耙、釘拔、鐵槌、繩墨等

第十八類　學術上ノ器械

理化學、醫術及測量等ノ器械

第十九類　度量權衡

第二十類　運送用ノ車類

荷車、馬車、人力車、自轉車等

第二十一類　樂器

琴、三味線、胡弓、笛等

第二十二類　時計及其附屬品

第二十三類　銃砲、彈丸、火藥、烟火等

第二十四類　蠶種紙繭

第二十五類　眞綿及木棉綿

第二十六類　生絲、絹絲及天蠶絲(琴絲、金絲、銀絲モ之ニ屬ス)

第二十七類　綿絲

第二十八類　毛絲

第二十九類　麻絲

第三十類　絹織物

第三十一類　木綿織物

第三十二類　毛織物

第三十三類　麻織物

第三十四類　絹、絹麻、毛外ノ織物及各種ノ交織物

第三十五類　絲類ノ編物及組物

レース、打紐、網等

第三十六類　被服

第十六類　第一章　番標

諸種ノ衣服、織物製帽子、手套、足袋、織物製甫衣、袴、目利安等

第三十七類　醸造物及飲料

諸種ノ酒、酢、醤油、蜜柑水、曹達水、氷等

第三十八類　砂糖類

諸種ノ砂糖、糖蜜、蜂蜜等

第三十九類　菓子及麺包類

干菓子、蒸菓子、掛ケ物、西洋菓子、飴、砂糖漬等

第四十類　茶及珈琲類

第四十一類　烟草類

第四十二類　穀、菜、種子及菓物類

五穀、蔬菜、菓、菓實、種子、根球、蒟種モヤシ等

第四十三類　挽粉、澱粉及其製品

諸種ノ挽粉、澱粉、粥類、湯波、蒟蒻、凍豆腐、凍蒟蒻類

第四十四類　味噌、醤物及漬物類

第四十五類　貯藏食品

鰹節、錫、乾鮑、海苔、昆布、佃煮、罐詰、雲丹、諸種ノ鹹製品等

第四十六類　牛乳製品

凝乳（コンデンスドミルク）、乳油（バタ）、乳餅（チーズ）、乳粉等

第四十七類　烟具及袋物

諸種ノ烟管、烟袋、烟管筒、懐中物等

第四十八類　紙及其製品

諸種ノ紙、色紙、短冊、擬革紙、壁紙、油紙、澁紙、書簡筒、張文匣、一閑張、元結等

第四十九類　筆、墨類

筆、墨、朱墨、印肉、墨汁、石筆、鉛筆、ペン等

第五十類　皮革及其製品

馬具、革包、文匣、革帶、靴、唐弓弦等

第五十一類（カバン）　燃料類

諸種ノ炭、附木、摺附木、燈心等

第五十二類　油、蠟類

諸種ノ油、蠟、蠟燭、脂肪等

第五十三類　肥料

干鰯、鯡粕、油粕、骨粉等

第五十四類　木竹材

第五十五類　木、竹、籐製品及其漆塗、蒔繪品類

指物、挽物、曲物、植類、編物、組物等

第五十六類　角甲、牙類ノ製品

第五十七類　藁及草ノ製品

疊表、莚、編笠、繩、麥藁細工等

第五十八類　傘、杖及履物

諸種ノ傘、杖、下駄、草履、鼻緒等

第十六類　第一章　商標

第五十九類　扇子及團扇
第六十類　提燈及ランプ類
第六十一類　齒磨及洗粉
第六十二類　刷子及髢類
第六十三類　玩具類
花簪、鞠、碁、將棋、人形、獨樂、楊弓、押繪、造花、骨牌等
第六十四類　錦繪及寫眞類
第六十五類　書籍、新聞紙、雜誌類
第六十六類　他類ニ屬セサル商品

第十七條　特許條例施行細則第四十四條第四十五條第四十六條第四十七條第四十八條及第五十條ハ此細則ニモ之ヲ適用ス

書式用紙美濃紙十三行二十五字詰

第一號　商標ノ登錄ヲ願出ルトキ

商標登錄願　（此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ）

別紙明細書ニ記載ノ商標ハ商標條例ニ觸レサルモノト確信候間登錄相受度此段相願候也

本籍（及現住所）
出願商標ヲ使用スル營業名
營業名以下此例ニ依ル

年　月　日　登錄願人　氏　名　印

農商務大臣氏名殿

第二號　會社又ハ組合ヨリ商標ノ登錄ヲ願出ルトキ

商標登錄願　（此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ）

別紙明細書ニ記載ノ商標ハ商標條例ニ觸レサルモノト確信候間登錄相受度此段相願候也

所在地
營業名
登錄願人　會社（組合）名　社組印
社（組）長又ハ重役　氏　名　印
會社又ハ組合ヨリ差出ス書面ノ署名方ハ總テ此例ニ依ル

年　月　日

農商務大臣氏名殿

第三號　登錄商標ノ續用ヲ願出ルトキ

登錄商標續用登錄願

一第何號商標登錄證　（此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ）

右私所有登錄商標來ル明治何年何月何日ニテ專用年限滿期之處尚引續キ專用致度ニ付更ニ登錄相受度此段相願候也

本籍（及現住所）
登錄商標主　氏　名　印

年　月　日

農商務大臣氏名殿

第四號　商標登錄證ノ再下付ヲ願出ルトキ

商標登錄證再下付願

一第何號商標登錄證　（此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ）

右私所有商標登錄證何々事由ヲ記ニ依リ毀損（亡失）候ニ付商標登錄證再下付相成度此段相願候也

本籍（及現住所）
登錄商標主　氏　名　印

年　月　日

農商務大臣氏名殿

第五號　商標登錄證ノ改訂ヲ願出ルトキ

商標登錄證改訂願

一第何號商標登錄證　（此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ）

右私所有商標登錄證附屬ノ明細書（見本）中何々事由ヲ記スヘシノ爲メ登錄ノ効力ヲ全クシ難キニ付別紙之通改訂致度尤之カ爲メ商標ノ要部ニ變更ヲ生スル義無之候間改訂商標登錄證下付相成度別紙改訂明細書（改訂見本）並ニ現商標登錄證及附屬明細書（見本）相添此段相願候也

本籍（及現住所）
登錄商標主　氏　名　印

年　月　日

農商務大臣氏名殿

第六號商標登錄證書式

表

第何號

商標登錄證

本籍（及現住所）

營業名

氏　名

商標條例ニ據リ本證附屬明細書ニ記載ノ商標ヲ登錄シ右記名ノ者ニ二十年間專用權ヲ與フルモノ也

年　月　日　農商務大臣　氏　名　印

特許局長　氏　名　印

裏

何々下付ノ事由

年　月　日　特許局長　氏　名　印

第七號改訂商標登錄證書式（二十三年八月二十九日農商務省令第九號ヲ以テ追加ス）

第何號

改訂商標登錄證

本籍（及現住所）

營業名

氏　名

商標條例ニ據リ明治何年何月何日（何某ニ）登錄ヲ許可シタル商標ニ對シ本證附屬明細書見本ノ通改訂ヲ許可スルモノ也

年　月　日　農商務大臣　氏　名　印

特許局長　氏　名　印

第八號登錄商標ノ賣與（譲與又ハ共有）ノ登錄ヲ請求スルトキ（同上ヲ以テ第八號ニ改ム）

登錄商標賣與（譲與又ハ共有）登錄請求書　此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

一第何號商標登錄證

右私所有登錄商標ヲ別紙約定書之通營業ト共ニ賣與（譲與又ハ共有）候間登錄相成度約定書相添此段請求候也

年　月　日　本籍（及現住所）

登錄商標主　氏　名　印

本籍（及現住所）

買受（譲受共有）人　氏　名　印

特許局長氏名殿

明細書交例

（備考）

一　明細書ハ美濃紙二ツ折ニシテ上部曲尺一寸下部八分左ニ分綴料一寸ヲ餘シ楷行ノ内ヲ以テ十三行二十五字詰ニ認ムヘシ

二　明細書ニハ此細則第二條ニ掲ケタル諸件ノ外必要ナラサル事項ヲ記載スヘカラス

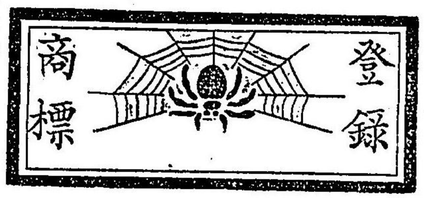
三　明細書ニ見本ヲ掲クルニハ其商標全部ノ眞形ヲ摸寫シ又ハ印刷シ又ハ摸寫若クハ印刷セルモノヲ貼附スヘシ但シ之ヲ貼附シタルトキハ商標ト明細書用紙トニ懸ケテ捺印スヘシ

四　明細書ハ書損ナキ樣認ムヘシ若シ書損アリテ挿入又ハ削除スルトキハ其上部ニ存スル餘白ニ第何行第何字目何々ノ下何々ノ上何々ノ何字ヲ加ヘ又ハ除クトカ或ハ何々ノ字ヨリ何々ノ字ニ至ル何字ヲ何々ノ何字ニ改ムト記シテ認印スヘシ紙ヲ糊付シテ書損ノ部分ヲ掩ヒ其上ニ書改ムル等ノ事ヲ爲スヘカラス但削除スヘキ文字ニハ一ノ縱線ヲ引キ其字體ヲ存スヘシ

五　明細書ニハ其末尾ニ出願人署名捺印スヘシ本籍、現住所、年月日及宛名ハ之ヲ記載スヘカラス

明細書

商標見本



一此商標ハ子母線ヲ以テ横長方形ノ欄ヲ設ケ其正中ニ蜘ノ巣中ニ栖メル圖ヲ畫キ其右側ニ登錄左側ニ商標ト楷書ニテ記シタルモノナリ

一此商標ノ要部ハ蜘ノ巣中ニ栖メル圖ナリ

一此商標ハ商標條例施行細則第十六條第三十類ノ絹織物ニ使用ス

一此商標ハ厚紙ノ小牌ニ印刷シテ絹織物ニ結ヒ附ケ又ハ絹織物ノ上包ニ印刷シテ使用ス

又ハ　氏名印

○農商務省特許局ニテ登錄セル特許意匠及商標登錄方（特許條例ノ部ニ掲ク）

○特許料登錄料及手數料ハ登記印紙ヲ用ユ（特許條例ノ部ニ掲ク）

○特許發明ノ明細書特許公報商標公報ノ拂下代價幷ニ書類謄本圖面調製ノ手數料及請求手續ヲ定ム（特許條例ノ部ニ掲ク）

●沿革要領

明治十七年六月第十九號布告ヲ以テ商標條例ヲ制定ス○同月第十三號ヲ以テ右登錄願手續ヲ布達ス○十九年九月農商務省令第十號ヲ以テ前布達中ヲ改正ス○二十年四月勅令第九號ヲ以テ條例第十四條ヲ改正ス○同年五月農商務省令第二號ヲ以テ十七年第十三號布達等ヲ加除改正ス○同月同省告示第四號ヲ以テ商標ニ關スル諸願書式及明細書文例等ヲ定ム○二十一年十二月勅令第八十六號ヲ以テ商標條例ヲ改正ス○二十二年一月農商務省令第三號ヲ以テ商標條例施行細則ヲ定メ商標登錄願手續ヲ廢止ス

會社（組合）名社組印
社（組）長又ハ重役　氏名印

第二章　會社　銀行　兌換銀行券　爲替、約束手形

○米商會所條例（九年八月一日布告第百五號）

從來各地方ニ於テ差許置候米油限月賣買一切差止メ自今米穀賣買相場取引致度者ハ會社規則取調可願出旨明治七年十二月第百三十八號ヲ以テ布告候處今般更ニ米商會所條例別冊ノ通相定候條營業致度者ハ右ニ照準可願出此旨布告候事

（別冊）

米商會所條例

第一條　緒言

第一節　米商會所ハ米穀流通ノ爲メ米商人ノ集會シテ賣買取引ヲ爲ス所ナリ而シテ協同結社之ヲ創立セントスル者ハ農商務卿ノ免許ヲ請フヘシ（十四年第三十一號布告ヲ以テ（內務省內務卿大藏省）トアルヲ（農商務省及農商務卿）ト改ム以下皆同シ）

第二節　農商務卿ハ地方ノ景狀ヲ察シ之ヲ創立スルノ緊要ナルヤヲ考定シ之ヲ許可スルト否トノ權ヲ有ス

第三節　米商會所營業ハ五ケ年ヲ以テ一期ト定ム右滿期ノ際猶之ヲ保續セント望ム者ハ更ニ其趣ヲ申立農商務卿ノ免許ヲ乞フヘシ

第二條　會所創立ノ手續

第一節　米商會所ヲ創立スルニハ發起人十人以上ニシテ資本金ノ總額三萬圓以上タルヘシ

第二節　資本金ハ百圓ヲ以テ一株ト定メ發起人總員ニテ必資本金總高ノ半額以上ニ當ル株數ヲ所持スヘシ

第三節　會所ノ發起人ハ創立願書ニ此會所ヲ創立セントスル地方ノ從來米穀聚散ノ實況及ヒ將來賣買ノ目的ヲ詳悉シ各記名調印シ區戸長ノ奥書ヲ得會所創立證書及定款申合規則等ヲ添ヘ之ヲ地方官廳ヘ差出スヘシ

但創立證書中株主ノ責任ニ於テ有限或ハ無限ナルヿヲ明記スヘシ（十二年第四號布告ヲ以テ但書ヲ追加ス）

第四節　地方官廳ニ於テハ願人共ノ身元行狀ヲ檢知シ且ツ其目的ノ利害障碍ノ有無ヲ識別シ又會議所等ノ設ケアル地方ニ於テハ其衆議ヲ取リ併セテ之ヲ參酌シ相當ト思量スルトキハ意見書ヲ添ヘ農商務卿ヘ具申スヘシ

第三條　開業ノ手續

第一節　發起人等ニ於テ會所創立ノ許可ヲ受ケタル時直ニ其旨ヲ新聞紙又ハ其他ノ方法ヲ以テ世上ニ公告シテ他ノ株主ヲ募ルヿヲ得

第二節　發起人ハ其募ニ應シタル株主等ト共ニ集會ヲ爲シ第五條ノ程限ニ從ヒ五人以上ノ肝煎及ヒ正副頭取ヲ撰任シ其住所姓名年齡等ヲ詳記シタル書面ヲ以テ地方廳ヲ經由シ農商務卿ノ認許ヲ受クヘシ農商務卿ハ時トシテ其改撰ヲ命スルヿアルヘシ（十三年第十九號布告ヲ以テ全節ヲ改正ス）

第三節　此頭取肝煎等ハ資本金總高ノ三分二ニ當ル現金或ハ日本政府ノ公債證書（此公債證書ハ時々相場ノ昇低ヲ以增減スヘシト雖モ明治七年大藏省第二十八號達ノ價額ヨリ減少スヘカラス）ヲ其地方官廳或ハ國立銀行ニ預ケ公正ナル預リ證書ヲ乞受ケ其寫ヲ農商務卿ニ差出シ開業免狀ヲ請求スヘシ

第四節　會所ニ於テ開業免狀ヲ受ケタル上ハ其免狀ノ寫ヲ添ヘ何月何日ヨリ其商業ヲ創ムヘキ旨ヲ新聞紙又ハ其他ノ方法ヲ以テ世上ニ公告シ始メテ之ニ從事スルヿヲ得

第四條　社印ノ用方幷印鑑差出方等ノ手續

第一節　開業免狀ヲ得テ其商業ヲ創メントスルニ當リ會所ノ印ヲ刻シ頭取以下諸役員ノ印ト共ニ其印影ヲ一纏メニシテ農商務卿ニ差出スヘシ若シ改刻スル者アルトキハ其都度之ヲ差出スヘシ

第二節　會所ノ諸願伺屆又ハ諸證書約定書及ヒ往復ノ文書等ニ至ルマテ會所一般ニ關スル事ハ其會所ノ名義ヲ用幷會所ノ印ヲ捺シ頭取肝煎等之ニ署名加印スヘシ

第五條　役員ノ程限

第一節　會所ノ役員ト稱スル者左ノ如シ

頭取

副頭取

肝煎

以下支配人書記等ノ名義ヲ以テ役員ヲ定ムルハ會所ノ都合ニ任ス

第二節　會所ノ役員タル者ハ該會所ニ於テ賣買本人又ハ仲買人トナルヿヲ許ルサス

第二節　右役員ハ株主ノ定例總集會ノ節投票ヲ以テ十株以上ヲ所持シタル株主中ヨリ肝煎ヲ選擧シ肝煎ハ其同僚中ヨリ正副頭取ヲ推撰シ共ニ其住所姓名年齢等ヲ詳記シタル書面ヲ以テ地方廳ヲ經由シ農商務卿ノ認許ヲ受テ新舊交代セシムヘシ農商務卿ハ時トシテ其改撰ヲ命スルヿアルヘシ（十三年第十九號布告ヲ以テ全節改正ス）

第六條　役員ノ職務

第一節　頭取ハ會所ノ事務ヲ總轄シ他ノ役員ヲ指揮シ會所一切ノ責ニ任ス

第二節　頭取ハ肝煎分掌ノ事務ヲ定ムヘシ

第三節　副頭取ハ頭取ヲ助ケテ其事務ヲ共成シ時トシテハ其代理ノ任ニ當ルヘシ

第四節　肝煎ハ支配人書記等ノ役名ヲ議定シ其者等分掌ノ課程及ヒ俸給ヲ定メ社中差縺ノ事ヲ判決シ金穀ノ出納ヲ管理シ株主ノ衆議ヲ取ラントスル事柄アル時ハ之ヲ招集スルヿアルヘシ

第五節　肝煎ハ毎月何回ト定メタル會議ノ議員トナルヘシ

第六節　肝煎ハソノ同僚中又ハ頭取ニ於テ職任ニ不適當ノ行ヒアルカ又ハ之ヲ怠ル者アルトキハ臨時委員ヲ定メ次ノ肝煎會議ノ日ニ無名投票ヲ以テ三分ノ二以上ノ說ニ從ヒ之ヲ退職セシムルヿヲ得

第七條　株主ノ權利制限及株式讓渡ノ手續

第一節　株主ハ會所ノ本主ニシテ會所資本ノ一部ヲ入金シ其入金高ニ應シタル株券ヲ所持シ以テ株數相當ノ權利ヲ有シ營業上ノ損益ヲ負擔スル者ナルカ故ニ時々ノ景況ニ着目シ金員及ヒ出納勘定帳簿ヲ檢閲セントスルノ權アリ

第二節　株主ハ肝煎ノ承諾ヲ得テ仲買人ト爲ルヲ得其場合ニ於テハ別段證人ヲ要セスト雖モ通常仲買人タルノ條件ニ適應スルヲ要ス（同上全節ヲ改正ス）

第三節　株主ハ何等ノ事故アルトモ會所解散ノ期ニ至ラサル時間ハ其株金ヲ取戻スヿヲ得ス

第四節　株主ハ肝煎ノ承認ヲ受ケタル上ニテ其所持ノ株式ヲ賣渡シ讓與ヘ又ハ質入抵當ト爲スヿヲ得ヘシ但シ其質入抵當ト爲シタル時間ハ總會議事ノ時發言ノ權ナク又役員ノ選擧ニ應スルヿヲ許サス

第五節　株主其所持ノ株式ヲ賣渡シ又ハ讓與ヲ爲ス時ハ其賣買授受雙方ヨリ連印ノ證書ヲ會所ニ差出スヘシ會所ハ此證書ヲ請取リタル時ニ株主帳ノ姓名ヲ書改ムヘシ若シ右手續ヲナサヽル間ハ證書賣買授受ノ効ナキ者トス

第八條　仲買人入社ノ手續

第一節　仲買人タルヲ得ヘキ者ハ丁年ニシテ會所所在ノ地ニ於テ滿一年以上米商營業ヲ爲シタル者ニ限ル而テ仲買人トナラント欲スル者ハ身元金千圓以上ヲ出シ株主二名以上ノ保證ヲ以テ肝煎ニ申出テ其承認ヲ得タル上地方廳ヲ經由シテ仲買人トナラントスル願書ヲ農商務卿ニ捧ケテ其認許ヲ受クヘシ

身元金ハ現金又ハ日本政府ノ公債證書ヲ以テ會所ニ預ケ置クヘシ（同上）

第二節　仲買人タルモノハ他人ノ依頼ヲ受ルニアラサレハ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ス其賣買取引ニ付會所ニ對シ自己ノ名義ヲ以テシ其賣買取引上一切ノ責任ヲ負擔スヘシ但一口ノ取引ニ付賣買雙方ノ依頼ヲ受クルヲ得ス（十三年第十九號布告ヲ以テ全節ヲ改メ十五年第二十六號布告ヲ以テ又全節ヲ改ム）

第三節　仲買人ハ五名ヲ一組トシ組合中ヨリ一名ヲ推撰シ肝煎ノ承認ヲ得テ組頭トナシ組合中一切ノ取締ヲ爲サシムヘシ（十三年第十九號布告ヲ以テ全節ヲ改ム）

第四節　仲買人退社セントスルトキハ其旨趣ヲ書面ヲ以テ肝煎ニ申出ヘシ肝煎ハ之ヲ受ケテ十日間之ヲ會所ニ張出シ置キ會所ニ連帶シタル計算上ノ關係ナキヲ認タル上ニテ其退社ヲ許シ身元金ヲ返付シテ證人ノ責任ヲ解クヘシ

第九條　米商會所一般ノ規則

第一節　外國人ヲ株主幷仲買人ト爲スコトヲ得ス（十五年第二十六號布告ヲ以テ第一節第二節ヲ改正シ第三節以下ヲ追加ス）

第二節　會所ニ於テ賣買取引ヲ爲スモノハ其會所ノ仲買人ニ限ルヘシ

第三節　會所ニ於テハ貸附金ヲナスヘカラス又仲買人ノ身元金及證據金ヲ使用スヘカラス

第四節　會所ハ此條例ノ旨趣ニ基キ賣買主雙方ノ約定ヲ履行セシムルノ責任アルモノトス

第五節　會所ハ左ノ場合ニ於テハ賣買ノ違約人トシテ會所限處分スルコトヲ得

第一　賣買主雙方若クハ一方其會所ニ差入ヘキ證據金ノ差入方ヲ怠リタルトキ

第二　賣買主雙方若クハ一方其取引約定ノ期日ニ至リ其約定ヲ執行セサルトキ

第三　會所ニ於テ定メタル現米檢査ノ方法及受渡上ノ期約ニ背キタルトキ

第六節　會所ニ於テ違約人ヲ處分スルハ其違約ニ依リ會所ノ取引上ニ於テ失ヒタル利得ト蒙リタル損害トヲ其者ノ證據金及身元金ヲ以テ償ハシメ其者ヲ除名スルニ止ルヘシ而シテ仍ホ其損失ヲ償フヿ能ハサルトキハ會所ニ於テ其責ニ任スヘシ

第十條　賣買取引ノ手續

第一節　會所ニ於テ爲ス所ノ賣買取引ハ現米直取引ト定期トノ二樣ニ分チ又其定期ヲ二種ト爲シ其一ヲ約定ノ期限ニ至リ現米金ノ受渡ヲ爲スモノトシ其二ヲ豫定ノ期限內ニ其取引ヲ完結シ又ハ解約スルモノトス（十三年第十九號布告ヲ以テ以下四節ヲ改正ス）

第二節　現米直取引ハ見本米ヲ以テ會所內ニ於テ賣買ヲ爲シ其現石受渡ノ順序ハ會所ノ規則ニ從フヘシ

第三節　定期賣買ヲ約定シタルトキハ會所ノ役員ニ屆出テ賣買主雙方ヨリ約定ノ證據金ヲ會所ニ差入ルヘシ此證據金ハ少クトモ約定代金高十分ノ一ヨリ下ルヘカラス又此證據金ノ外ニ時々相場ノ高低ニ因テハ追證據金或ハ期日前ニ至リ猶ホ其約定ヲ確固ナラシムル爲メ增證據金ヲ差入シムヘシ（十五年第六十六號布告ヲ以テ更ニ（十分ノ二）ヲ（一）ト改ム）

第四節　定期賣買約定ノ期限ハ三ケ月ヨリ永カルヘカラス而シテ其期日ニ至レハ會所ノ役員立會ノ上必ス現米金ノ受渡シヲ爲シ其取引ヲ完結スヘシ但約定濟ノ分ヲ雙方ノ都合ニヨリ其期限內ニ買戻シ又ハ買受ケタル分ヲ他人ヘ賣渡スヿヲ得

第十一條　手數料ノ定期（十三年第十九號布告ヲ以テ本條中第一節ヲ改正シ第二節中ヲ加除シ十八年十一月廿八日第三十六號布告ヲ以テ全條ヲ改正ス）

第一節　會所ニ於テ賣買者雙方ヨリ領收スヘキ手數料ハ會所ニ於テ相當ノ額ヲ定メ大藏卿農商務卿ノ認許ヲ受クヘシ

第二節　手數料ハ其決算ノ時ニ至リ賣買取引ニ關係スル他ノ債主ニ先ツテ收受スルコトヲ得

第十二條　會議ノ規則

第一節　會所ノ會議ヲ分ツテ肝煎會議ト株主總集會トノ二類トス

第二節　肝煎會議ハ毎月何回ト定メ頭取ヲ以テ議長ト爲ス此會議ニ於テ發言ノ權ハ一人ニ付一說ト定メ衆說ヲ取リテ其議事ノ可否ヲ決ス若シ可否ノ數相半ハスルトキハ議長ノ判決ニ任カス

第三節　右會議ニ當リ出席定員ノ半ハニ充タサルトキハ其議事ヲ始ムヘカラス但シ急遽ノ事件ハ格別ナリトス

第四節　株主ノ總集會ハ毎年一度又ハ數度例日ヲ定メテ之ヲ開ク此集會ハ頭取肝煎ノ撰擧及ヒ會所營業ノ實況計算ノ得失ヲ議スルヲ主務トス

第五節　株主五分ノ一以上ノ請求又ハ肝煎ノ衆議ニ依リテハ臨時總集會ヲ開クヿヲ得

第六節　總集會ニ於テノ發言ノ權利決議ノ方法ハ便宜ニ從テ之ヲ定ムヘシ

第七節　總集會ニ於テノ議長ハ頭取又ハ株主中ヨリ撰擧スルモ妨ケナシ

第十三條　資本金增減ノ手續

第一節　會所ニ於テ資本金高ヲ增減セントスル時ハ總集會ノ決議案ヲ具シ頭取肝煎其次第ヲ詳記シ農商務卿ノ指揮ヲ受クヘシ

但其資本金賣買取引ノ景況ニ對シ不適當ト認ルトキハ農商務卿ハ其適當ノ金額ニ增加スヘキ旨ヲ命スルヿアルヘシ（十五年第廿六號布告ヲ以テ但書ヲ追加ス）

第二節　右增減ノ許可ヲ得タル上ハ直チニ世上ニ公告シ其增減セシ名前書ヲ取纏メタル上農商務卿ニ屆出且地方官廳或ハ銀行ニ預ケタル營業保證ノ金額ヲ增減スヘシ

第十四條　損益金計算ノ定規

第一節　頭取肝煎ハ毎年兩度以上營業ノ總決算ヲ爲シ其內稅金並ニ積立金其他一切ノ社費ヲ引去リ殘リ損益高ヲ以テ株數ニ割リ合セ之ヲ株主ニ分賦スヘシ

第二節　右計算表ハ株主ニ分賦ノ日ヨリ十五日內農商務卿ニ屆出且世上ニ公告スヘシ

第十五條　納稅ノ手續及ヒ積金ノ規則

第一節　會所ハ政府ニ於テ制定施行スル所ノ收稅規則ニ遵ヒ稅金ヲ納ムヘシ（同上布告ヲ以テ全節ヲ改正シ同第六十六號布告ヲ以テ本節中ヲ改正シ十八年十一月第三十六號布告ヲ以テ更ニ全節ヲ改正ス）

第二節　株主等ヘ配當スヘキ純益金一ケ年一割即百分ノ十以上ノ利息ニ當ルトキハ肝煎ノ衆議ヲ以テ割賦高ノ幾分ヲ引去リ之ヲ積立テ以テ非常準備金ト爲スヘシ

第十六條　報告ノ定規

第一節　會所及仲買人ハ毎日取扱ノ事項幷金穀出納等凡テ之ヲ詳明正確ニ記載シ且其簿記

ノ方法ニ於テハ農商務卿ノ差圖アルトキハ其差圖ニ從フヘシ（十三年第十九號布告ヲ以テ全節ヲ改正シ十五年第廿六號布告ヲ以テ又全節改正ス）

第二節　會所及仲買人ニ於テ使用スル所ノ諸帳簿ハ其名目用法ヲ詳記シ之ヲ農商務卿ニ屆出ヘシ（十五年第廿六號布告ヲ以テ本節以下追加）

第三節　會所ハ賣買實際ノ景況及金穀出納其他役員ノ進退並株主ノ異同仲買人ノ退社ヲ農商務卿ニ報告スヘシ

第十七條　官員檢査規則

第一節　地方長官ハ時々官員ヲ派出シ會所及仲買人營業ノ摸樣其他諸帳簿幷現米ノ所在其受渡ノ實況及會所ノ現金等ヲ査覈セシムヘシ又時トシテ農商務省ヨリ官員ヲ派出シ之ヲ檢査セシムルコトアルヘシ若シ右檢査官員ヨリ疑問等アルトキハ會所ノ役員及仲買人等ハ逐一答辯ヲ爲サヽルヘカラス（同上全節改正）

第十八條　諸願書其他ノ書類上達ノ定規

第一節　會所ヨリ農商務卿ニ差出スヘキ文書中諸願ハ二通其他ハ一通宛ニシテ其差出方ハ地方廳ヲ經由スヘシ（同上）

第十九條　罰則

第一節　會所ノ役員及株主仲買人等此條例ヲ犯スカ又ハ役員タル者株主仲買人ノ條例ニ背犯シタルヲ不問ニ措キ又ハ背犯セシメタル實證アルトキハ役員幷ニ本人共其輕重ニヨリ三拾圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス（十三年第十九號布告ヲ以テ全節ヲ改正ス）

第二節　（十三年第十九號布告ヲ以テ追加シ十六年第三十號布告ヲ以テ刪除ス）

第三節　官員檢査ノ節簿冊書類ヲ差出スヿヲ拒ミ又ハ疑問ニ答辯ヲ爲サヽル者アルトキハ頭取又ハ其主任者ヘ五十圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ（十三年第十九號布告ヲ以テ第二節ヲ三節トシ第三節ヲ四節ト改ム）

第四節　會所ノ規約ニ背犯シタル役員株主仲買人ヲ會所限リ處分スルハ之ヲ除名スルカ或ハ過怠料ヲ取立ルニ止ルモノトス但其過怠料ハ株金身元金ノ高ニ超ルヲ得ス（十五年第廿六號布告ヲ以テ全節改正）

第二十條　營業停止及禁止（同上布告ヲ以テ本條ヲ追加シ同年第四十六號布告ヲ以テ刪除ス）

○米穀金銀貨幣等竊ニ取引ヲ爲ス者處分方（十三年四月十五日布告第貳拾壹號）

法律定規ニ遵ヒ官許ヲ得タル米商會所株式及ヒ横濱取引所外若クハ內タリトモ竊ニ米穀幷金銀貨幣及株式ノ限月若クハ現場（定期ヨリ起リタル現場ヲ云フ）賣買其他之ニ類似シタル取引ヲ爲シタル者及情ヲ知テ賣買取引ノ場所ヲ給與シタル者若クハ其賣買取引ヲ誘助シタル者ハ拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處シ其賣買取引ハ無効ト爲スヘシ

但本條ヲ犯シタル者ヲ告發シタル者ニハ其告發ニ因テ科シタル罰金ノ全部ヲ給ス其自ラ犯シタル者事未タ發覺セサル前ニ於テ自首シタルトキハ其罪ヲ問ハス

右布告候事

○米商會所及株式取引所ノ賣買上ニ關スル處分方（十五年八月十九日布告第四拾六號）

米商會所及ヒ株式取引所ノ賣買ニ不正惡弊アルカ又ハ賣買取引上ノ景況穩當ナラサル爲メ公共ニ妨害ヲ及ホスト認ムルトキハ農商務卿ハ其會所及ヒ取引所又ハ仲買人ノ營業ノ一部又ハ全部ヲ停止若クハ禁止シ又ハ役員ヲ退罷セシムルヿアルヘシ

但本年第貳拾六號布告米商會所條例追加第二十條ハ削除ス

右奉　勅旨布告候事

○米商會所株式取引所ノ方法ニ倣ヒ又ハ類似ノ方法ヲ用ヒ取引ヲ爲ス者處分方（十六年一月十五日布告第四號）

米商會所株式取引所ノ限月若クハ現場賣買ノ方法ニ倣ヒ又ハ之ニ類似ノ方法ヲ用ヒ諸物品ノ賣買取引ヲ爲シタル者及情ヲ知テ賣買取引ノ場所ヲ給與シタル者若クハ其賣買取引ヲ誘助シタル者ハ總テ明治十三年四月第貳拾壹號布告ニ據リ處分スヘシ

右奉　勅旨布告候事

○米商會所株式取引所ノ仲買人竊ニ米穀金銀貨幣公債證書株式ノ賣買ヲ爲ス者處分方（十六年八月六日布告第貳拾九號）

米商會所及株式取引所ノ仲買人ニシテ竊ニ米穀幷金銀貨幣公債證書株式ノ限月若クハ現場（定期ヨリ起リタル現場ヲ云フ）賣買又ハ其類似ノ取引ヲ爲シタル者及情ヲ知テ賣買取引ノ場所ヲ給與シタル者若クハ其賣買取引ヲ誘助シタル者ハ五十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其賣買取引ハ米商會所條例及株式取引所條例ノ手續ヲ爲サシム

右奉　勅旨布告候事

○米商會所株式取引所收稅規則（十八年十一月二十八日布告第三十八號）

米商會所幷株式取引所收稅規則左ノ通制定シ明治十八年十二月一日ヨリ施行ス

但明治十一年九月第三拾號布告明治十五年十二月第六拾五號布告及同年同月第六十七號布告ハ明治十八年十二月一日ヨリ廢止ス

米商會所並株式取引所收稅規則

第一條　會所並取引所ノ稅金ハ左ノ割合ニ從ヒ毎一ケ月分ヲ翌月十日マテハ地方廳ニ上納スヘシ

賣買各約定代金高

萬分ノ六（二十一年十一月十二日勅令第七十五號ヲ以テ千分ノ二ヲ萬分ノ六ニ改ム）

米穀定期賣買

賣買各約定代金高

萬分ノ三

公債證書定期賣買

賣買各約定代金高

萬分ノ六

諸株式定期賣買

第二條　定期內ニ轉賣又ハ買戻ヲ爲ス者ハ其轉賣買戻ニ係ル稅金ハ免除ス

第三條　賣買ヲ解約スルヿアルモ其稅金ハ之レヲ還付セス

第四條　大藏卿ハ地方廳ニ委任シ又ハ隨時官吏ヲ派出シ納稅ノ精算ヲ檢査セシムヘシ

第五條　會所幷取引所ニ於テ賣買約定ノ代金高ヲ詐リ脫稅シタルトキハ頭取ヲ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其會所幷取引所ヨリ其脫稅ニ係ル金額ヲ徵收スヘシ

右奉　勅旨布告候事

○米商會所株式取引所仲買人認可料　十六年八月六日太政官布達第二十八號

米商會所及株式取引所ノ仲買人ト爲ラント欲スル者農商務卿ノ認可ヲ得タルトキハ認許料トシテ金三拾圓ヲ農商務省ニ納ムヘシ

右布達候事

○米穀現月幷現場賣買ハ米商會所內ニ限ル　十三年三月十三日大藏省布達甲第三拾貳號

米穀限月賣買ノ儀ハ明治九年第百五號公布ノ趣有之該條例ニ遵ヒ會所ヲ設ケ營業候儀ハ其處ニ依リ許可相成候處右限月幷ニ現場限月賣買ヨリ賣買取引ハ米商會所內ニ限リ差許サレ候儀ニテ會所ノ支社出張所ヲ取設ケ又ハ仲買人ノ分店代理人取次人等ヲ置候儀不相成ハ勿論渾テ會所外ニ於テハ仲買人タリトモ其業務取扱候儀一切不相成筋ニ候條心得違無之樣可致此旨布達候事（十三年同省甲第三十八號布達ヲ以テ（儀ニテ）ノ下五字ヲ刪除ス）

○製茶砂糖反物等竊ニ現月若クハ現場賣買類似ノ商業ヲ爲ス者處分方　十三年九月二十二日太政官達第四十九號

近來竊ニ製茶砂糖反物薪炭等種々ノ物品ヲ以テ限月若クハ現場賣買類似ノ商業ヲ爲ス者有之趣右ハ總テ本年四月第貳拾壹號布告ニ悖リ處分スヘキ儀ト心得ヘシ此旨相達候事

○米穀金銀貨幣等竊ニ取引ヲ爲ス者取締方　十三年四月十六日大藏省達乙第拾八號府縣

今般第廿一號公布ノ趣モ有之候ニ付テハ取締向尚一層嚴重ニ可相立因テハ金銀米穀賣買取引ヲ爲ス業體ノ者幷ニ兩替店爲替店又ハ穀物問屋ノ類ヘハ時々主務ノ官吏ヲ派遣シ篤ト爲相改自然右公布ニ違反候者ハ速ニ取糺シ裁判所ヘ求刑可致此旨相達候事

○米商會所株式取引所仲買人定員　十六年八月十八日農商務省告示第七號

米商會所株式取引所仲買人員ノ儀米商會所ハ東京百名大阪七十五名其他ハ一箇所三十名株式取引所ハ東京横濱ハ一箇所七十名大阪神戸ハ一箇所六十名ヲ以定限トシ其餘ハ自今不及認許候條此旨告示候事（十七年農商務省第九號告示ヲ以テ東京ノ下八十名ヲ百名ト改メ大阪ノ下六十名ヲ七十五名ト改ム同告示第七號ヲ以テ京都株式取引所仲買人員ハ六拾名ヲ以テ定限トス）

○米商會所株式取引所仲買人認許規程　十六年八月十八日農商務省告示第六號

米商會所株式取引所仲買人認許料之儀本年八月第廿八號ヲ以テ布達相成候ニ付テハ認許規程左之通相定候條此旨告示候事

米商會所株式取引所仲買人認許規程

第一項　米商會所仲買人及株式金銀貨仲買人ヒ營業認許願ハ各其條例ニ依リ從前會所及取引所ニ於テ慣行ノ手續ニ從フヘシ

第二項　仲買人ニ認許ヲ與ヘタルトキハ左ノ雛形ノ如キ認許ヲ下付スヘシ

第三項　米商會所並株式取引所仲買人ヘ認許證ヲ下付シタルトキハ認許料ヲ地方廳ヘ納付シ地方廳ヨリ農商務省ヘ上納スヘシ（十八年十二月農商務省告示第二十四號ヲ以テ本項ヲ改正ス）

第四項　株式仲買人及金銀貨仲買人ヘ認許證ヲ下付スルトキハ認許料ヲ其株式取引所ヘ納付シ株式取引所ヨリ農商務省ヘ上納スヘシ

第五項　從前會所及取引所ノ定欵ニ定メタル年限中認許ヲ與ヘタルモノハ其期限中ハ認許證下付セサルニ付滿期ニ至リ第一項ノ手續ニ從フヘシ

第六項　仲買人左ノ場合ニ於テハ會所及取引所ヲ經由シテ認許證ヲ農商務省ヘ返納スヘシ

但本人執行成リ難キ場合ニ於テハ親戚又ハ組合仲買人ニ於テ返納ノ手續ヲ爲スヘシ

第一　廢業シタル片
第二　死亡シタル片
第三　營業禁止ノ命ヲ受タル片
第四　納稅規則ニ違犯シ認許ノ効ヲ失ヒタル片
第五　會所及取引所ノ規約ニ違ヒ除名ノ處分ヲ受タル片
第六　身代限リノ處分ヲ受タル片
第七項　認許證若シ盜火水難其他ノ事故ニ因テ紛失シタル片ハ其事由ヲ詳悉シテ更ニ認許證ノ下附ヲ請願スヘシ
第八項　氏名ヲ改メタル片ハ認許證ヲ農商務省ニ差出シ書替ヲ請願スヘシ
右告示候事

●沿革要領

明治七年十二月第百三拾八號布告ヲ以テ從來各地方ニ於テ許可セシ米油現月賣買ヲ差止メ自今會社ヲ結ヒ米穀賣買相場取引ヲ望ム者ハ本年第百七號布告株式取引所條例ノ方法ニ倣ヒ其管轄廳ヲ經テ大藏省ヘ出願シ許可ヲ受シム○九年八月第五號布告ヲ以テ更ニ米商會所條例ヲ定ム○九年八月內務省甲第二十九號布達ヲ以テ米商會所成規ヲ定メ八年大藏省甲第十六號第十九號及同年六月心得達ノ趣ヲ取消ス○十八年十一月第三十號布告ヲ以テ米商會所株式取引所收稅規則ヲ定ム

○株式取引所條例

（十一年五月四日布告第八號）

明治七年十月第百七號布告株式取引條例相廢シ更ニ別冊ノ通相定候條此旨相達候事

（別冊）

株式取引所條例

第一章　株式取引所創立及開業ノ事

第一條　株式取引所ハ株式仲買人ノ集會シテ日本政府ノ諸公債證書及日本政府ノ條例ヲ遵奉シテ發行シタル銀行並諸會社ノ株券等ヲ賣買取引スル所ナリ而メ之ヲ創立セントスルモノハ其創立願書ヘ其地方長官ノ奥書ヲ受ケ之ヲ農商務省ヘ差出シ農商務卿ノ允許ヲ請フヘシ（十四年第四十三號布告ヲ以テ（大藏省大藏卿）トアルヲ（農商務省農商務卿）ト改ム以下同シ）

第二條　此條例ヲ遵奉シテ株式取引所ヲ創立スルニハ其發起人少クトモ十名以上ニシテ其資本金額ハ十萬圓以上タルヘシ而シテ其資本金總高ノ半數以上ニ當ル金額ヲ右發起人總員ニテ出スヘシ（十三年第五十七號布告ヲ以テ（二十萬圓）ヲ（十萬圓）ト改ム）

第三條　農商務卿ハ此創立願書ヲ受領シテ其許可スヘキヤ否ヲ考案シ或ハ之ヲ許可シ或ハ之ヲ許可セサルヿアルヘシ

第四條　發起人右創立許可ヲ受クルニ於テハ諸般ノ規程ヲ議定シテ創立證書及定款申合規則各二通ヲ製シ株主一同記名調印ノ上地方長官ノ奥書證印ヲ受ケ之ヲ農商務省ヘ差出スヘシ

但創立證書及定款等ハ創立許可ヲ得タル日ヨリ遲クトモ三ケ月間ニ差出スヘシ若シ右期限內ニ差出サヽルヿハ其許可ハ無効ニ屬スヘシ

第五條　右創立證書及定款申合規則ハ左ノ主旨ニ從ヒ各取引所ノ便宜ニ依テ之ヲ製定スヘシ然レトモ必ス此條例ノ旨趣ニ牴觸スルヲ得サルヘシ

創立證書ハ取引所ヲ創立スルニ付株主一同決定シタル綱領ノ條件及ヒ其責任ノ有限或ハ無限（有限責任トハ負債償却ノ義務ニ於テ該取引所ノ株券限リ或ハ其株券ノ二倍等其限アルヲ云ヒ無限責任トハ株主一同相連帶シテ各自ノ資力ヲ竭スニ至ルヲ云フ）ヲ明記シ必ス之ヲ遵守踐行スヘキ旨ヲ政府ニ對シ保證スルモノナリ

定款ハ取引所ヲ創立スルニ付株主一同其取引所ノ便宜ヲ商量決定シテ互相確守スヘキ約束條款ヲ記載スルモノナリ

申合規則ハ賣買取引ニ付賣買主雙方ノ間ニ於テ取引所ニ對シ確守スヘキ規程ヲ記載スルモノナリ

第六條　農商務卿ハ右創立證書及定款申合規則ヲ檢按シテ不都合ナシト思考スルニ於テハ之ニ奥書證印ヲ加ヘ免狀ト共ニ之ヲ其取引所ニ下付シテ開業ヲ許スヘシ

但爾后取引所ノ都合ニヨリ其創立證書及ヒ定款申合規則ヲ改正加除セントスルトキハ其時々農商務卿ノ認許ヲ受クヘシ

第七條　取引所ハ開業前ニ於テ其營業保證ノ爲メ資本金高ノ三分二以上ニ當ル現金又ハ公債證書（大藏省ヨリ指定スル價格ヲ以テ）ヲ農商務省ニ差出シ預置クヘシ

但シ開業免狀ヲ得タル後滿五ケ月ニ至リ猶本文ノ手續ヲナサス又ハ開業セサルトアルトキハ其免狀ハ取消タルヘシ

第八條　取引所ハ開業ノ日ヨリ滿五ケ年ノ間其營業ヲ保續スルヲ得ヘシ右滿期ニ至リ尚ホ營業セント欲スルトキハ更ニ允許ヲ受クヘシ

第九條　取引所ニ於テ開業免狀ヲ受ケタル上ハ其免狀並ニ創立證書ノ寫ヲ添ヘ何月何日ヨリ其商業ヲ創ムヘキ旨ヲ新聞紙又ハ其他ノ方法ヲ以テ世上ニ公告スヘシ

第二章　株主並ニ株手形ノ事

第十條　各株主ヨリ入金シタル金額ハ分テ百圓以上一定ノ株式トナシ株手形ヲ製シ其株主タルモノヘ之ヲ交付スヘシ

第十一條　株主ハ其取引所ノ營業時間ハ何時ニテモ其金員及ヒ諸帖簿ヲ檢閲スルヿヲ得ヘシ

第十二條　株主ハ何等ノ事故アルトモ其取引所解散ノ期ニ至ラサル間ハ其株金ヲ取戻スヿヲ得ス

第十三條　株主ハ其取引所ノ承認ヲ得タル上其所持ノ株式ヲ賣渡シ又ハ讓渡シヲナスヿヲ得ヘシ

第十四條　株主タルモノハ其取引所ノ役員タラサル時間ニ何時ニテモ仲買人タルヲ得ヘシト雖ヒ仲買人トナリタルトキハ仲買人ノ規則ヲ遵守スヘシ而シテ賣買上ニ於テハ之ヲ仲買人ト稱スヘシ

第三章　仲買人ノ事

第十五條　丁年ニシテ仲買人トナラント欲スル者ハ次條ニ定ムル身元金ヲ差入レ取引所ノ承認ヲ得タル上仲買人トナラントスル願書ヲ農商務卿ニ捧ケ其認許ヲ受クヘシ

仲買人ハ他人ノ委托ヲ受ケテ賣買取引ヲ爲スト自己ノタメニ爲ストヲ問ハス取引所ニ對シテハ其賣買取引上一切ノ責任ヲ負フヘシ（十三年第廿號布告ヲ以テ全條改正）

第十六條　株式仲買人ノ身元金ハ貳百圓以上金銀仲買人ノ身元金ハ千圓以上タルヘシ（同上）

第十七條　仲買人ハ丁年者ニ限ルヘシ且ツ一度身代限ノ處分ヲ受ケタル者ハ其負債ノ義務ヲ免レタル實證アルニ非サレハ入社ヲ許サヽルヘシ

第四章　役員ノ事

第十八條　取引所ノ役員ト稱スルモノハ左ノ如シ

頭取　肝煎

其他支配人書記方計算方等ノ名義ヲ以テ役員ヲ定ムルハ取引所ノ便宜ニ任ス

第十九條　取引所ノ肝煎ハ五名以上トシ株主ノ總會ニ於テ取引所ノ定規ニ從ヒ現ニ三十株以上ヲ所持スル株主中ヨリ之ヲ撰擧シ肝煎ハ其同僚中ヨリ頭取壹人ヲ推擧シ其住所姓名年齢等ヲ農商務大藏卿ニ具申シテ其認許ヲ受クヘシ農商務大藏卿ハ時トシテハ其改撰ヲ命スルヿアルヘシ

支配人以下ノ役員ハ頭取肝煎ノ衆議ニ依リ株主又ハ株主ニアラサル者ヲ撰任スルヿヲ得（同上）

第二十條　取引所役員ノ在職年限ハ一ケ年タルヘシ

第廿一條　頭取ハ取引所ノ事務ヲ總轄シ取引所一切ノ責ニ任スヘシ

第廿二條　頭取肝煎ハ其仲買人賣買上ノ差縺レヲ解キ違約者ヲ處分スルノ責任アリトス

第廿三條　取引所諸役員職務上ノ責任權限等ハ其取引所ニ於テ適當ノ規程ヲ設ケ之ヲ定欵中ニ記載スベシ

第五章　一般ノ規程

第廿四條　外國人ヲ取引所ノ株主並仲買人ト爲スヿヲ得ス

第廿五條　取引所ニ於テ株式賣買取引ヲナス者ハ其取引所ノ承認ヲ經タル仲買人ニ限ルヘシ

第廿六條　（十四年第廿八號布告ヲ以テ刪除）

第廿七條　取引所ノ役員タルモノハ其取引所ニ於テ賣買本人又ハ仲買人トナルヘカラス

第廿八條　取引所ノ役員及ヒ仲買人ハ他ノ株式取引ヲ爲ス會社ノ役員又ハ仲買人或ハ他ノ銀行並ニ諸會社（官許ヲ經タル合本會社）ノ役員タルヲ得ス

第廿九條　取引所ハ其營業ノ爲メ緊要ナル地所家屋ヲ除クノ外地所家屋ヲ所持スルヲ許サス又之ヲ賣買スヘカラス

第三十條　政府ニ於テ賣買ヲ許シタル諸公債證書及ヒ政府ノ條例ヲ遵奉シテ發行シタル銀行並諸會社ノ株券等ノ賣買ヲ除クノ外此取引所ニ於テ一切他ノ物件ヲ賣買シ他ノ事業ヲ營ムヘカラス

但本條ニ揭載セサル諸會社ノ株券ト雖モ其營業確實ナリト認ムルモノハ農商務卿ニ於

テ其賣買ヲ許可スルヲ得（十三年第五十七號布告但書追加）

第三十一條　取引所ハ第一章第七條ニ掲ケタル營業保證ノ爲メ農商務ヘ預ケヘキ公債證書ヲ除クノ外自ラ諸公債證書諸株券等ヲ賣買シ又ハ之ヲ所持スヘカラス

第三十二條　取引所ハ諸證據金ヲ使用スヘカラス又貸附金ヲナスヘカラス

第三十三條　取引所ニ於テ違約人ヲ處分スルハ其違約ニ依リ取引所ノ取引上ニ於テ失ヒタル利得ト蒙リタル損害トヲ其者ノ證據金及ヒ身元金ヲ以テ償ハシメ其者ヲ除名スルニ止ルヘシ而シテ仍ホ其損失ヲ償フコト能ハサルトキハ取引所ニ於テ其責ニ任スヘシ（十三年第廿號布告ヲ以テ全條改正シ十五年六十四號布告ヲ以テ又全條改正ス）

第三十四條　取引所ハ其取引所ニ於テ株式等ノ賣買ヲ認許シタル銀行並諸會社及ヒ新立會社ノ株式ヲ賣買スルヿノ依頼ヲ受ルト雖モ其事情ニヨリ之ヲ停止シ又ハ之ヲ許否スルノ權ヲ有ス

第三十五條　取引所ノ諸願伺屆又ハ諸證書約定書及往復ノ文書等取引所一般ニ關スル事件ハ頭取肝煎等コレニ記名調印スヘキハ勿論ナレ𪜈必ス其取引所ノ名ヲ署シ取引所ノ印ヲ捺スヘシ

第六章　賣買取引ノ事

第三十六條　取引所ニ於テ爲ス所ノ賣買取引ハ現場ト定期ノ二樣ニ分チ必ス現物ノ受渡ヲ爲スヘシ

但三ケ月ヨリ永キ定期ノ約定ヲナスヘカラス

第三十七條　凡取引所ニ於テ賣買ノ約定ヲナシ其定期ニ係ルモノハ約定金高百分ノ五宛ニ下ラサル證據金ヲ賣買雙方ヨリ差入ル可シ而シテ其期限中相庭ノ高低等ニヨリテハ追證據金增證據金等ヲ差入シムルヿヲ得ヘシ

第三十八條　約定取引ノ期限ニ至ツテハ其品種ニ依リ記名書替等其他受渡シノ手續ハ政府又ハ諸會社ノ成規ニ照シ之ヲ履行スヘシ

第三十九條　約定期限內ニ於テ之ヲ轉賣スルヲ得ヘシト雖𪜈其期日ニ至レハ必ス現物ノ受渡ヲ爲スヘシ

第四十條　賣買主ニ於テ諸證據金ノ差入レヲ怠リ又ハ期限ニ至リテ其約定ヲ履行セサル者ハ都テ之ヲ違約人ト爲スヘシ（十五年第六十四號布告ヲ以テ全條改正）

第七章　手數料ノ事

第四十一條　取引所ニ於テ賣買者雙方ヨリ領收スヘキ手數料ハ取引所ニ於テ相當ノ額ヲ定メ大藏卿農商務卿ノ認可ヲ受クヘシ（十八年十一月第三十七號布告ヲ以テ本條ヲ改正シ十八年十二月一日ヨリ施行ス）

第四十一條　取引所ニ於テ領收スヘキ手數料ハ賣買雙方ヨリ其賣買金高現場取引ハ千分ノ一定期取引ハ千分ノ二宛ニ超ユヘカラス

第四十二條　手數料ハ其決算ノ時ニ至リ賣買取引ニ關係スル他ノ債主ニ先ツテ之ヲ收受スルヿヲ得ヘシ

第八章　檢査ノ事

第四十三條　農商務卿ニ於テ要用ト思考スルトキハ何時ニテモ官員ヲ派遣シ或ハ其地方長官ヘ達シテ其取引所ノ業體及ヒ金銀其他諸帖簿等ヲ檢査セシムルヿアルヘシ

第九章　帖簿ノ事

第四十四條　取引所ハ毎日取扱ノ事項ハ勿論金銀ノ出納等凡テ之ヲ詳明正確ニ記載シ且其簿記ノ方法ニ於テ農商務卿ノ差圖アルトキハ其差圖ニ從フヘシ

第四十五條　取引所ニ於テ製定使用スル處ノ諸帖簿ハ其名目用法詳記シ之ヲ農商務省ヘ屆出ツヘシ

第十章　諸報告ノ事

第四十六條　取引所ハ賣買實際ノ報告及金銀出納表其他役員ノ進退並株主仲買人ノ姓名等ヲ農商務卿ノ指命スル處ニ從ヒ時々報告ヲナスヘシ

第十一章　納稅ノ事

第四十七條　此取引所ハ追テ政府ニ於テ制定施行スル所ノ收稅規則ニ遵ヒ相當ノ稅金ヲ納ムヘシ

第十二章　罰則

第四十八條　取引所ノ役員及株主並仲買人等此條例ヲ犯スカ又ハ役員タルモノ株主並仲買人ノ此條例ニ背戻シタルヲ不問ニ措キ又ハ背戻セシメタル實證アルトキハ役員並ニ本人トモ其事ノ輕重ニ依リ三十圓ヨリ少ナカラス千圓ヨリ多カラサル罰金ヲ科スヘシ

第四十九條　官員檢査ノ節取引所役員及ヒ仲買人等簿冊書類ヲ差出スコトヲ拒ミ又ハ疑問ニ答辯ヲ爲サヽル者アルトキハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ（同上）

第五十條　取引所ノ規約ニ背犯シタル役員及ヒ株主仲買人ヲ取引所限リ處分スルハ之ヲ除名スルカ或ハ過怠料ヲ取立ツルニ止ルモノトス（同上本條ヲ追加ス）

但其過怠料ハ株金身元金ノ高ニ超ユルヲ得ス

○株式取引所ニ於テ金銀貨幣取引ヲ禁ス　十八年十一月廿八日布告第三十九號

明治十二年九月第三拾七號第三拾八號布告及同十六年七月第貳拾五號布達ヲ以テ東京大阪横濱神戸各株式取引所ニ於テ當分金銀貨幣取引差許置候處明治十九年一月一日ヨリ右取引ヲ禁止ス

右奉　勅旨布告候事

○横濱取引所ヲ横濱株式取引所ト改稱シ從來營業ノ外株式ノ賣買ヲ許ス　十三年九月十三日大藏省布達甲第百貳號

株式取引所ノ儀ハ當分ノ内東京大阪ニ於テ一ケ所宛ニ相限リ候旨明治十一年五月甲第拾四號ヲ以テ及布達置候處詮議ノ次第有之横濱取引所ノ儀自今横濱株式取引所ト改稱シ從來營業ノ外株式賣買差許候條爲心得此旨布達候事

○兵庫縣下神戸港ニ於テ株式取引所一ケ所ヲ許ス　十六年七月三十日太政官布達第二十五號

明治十一年五月第八號布告株式取引所設立ノ儀更ニ今般兵庫縣下神戸港ニ於テ一箇所差許ス

右布達候事

○京都府下京都ニ於テ株式取引所一ヶ所ヲ許ス 十七年七月三日 太政官布達第十七號

明治十一年五月第八號布告株式取引所設立ノ儀更ニ今般京都府下ニ於テ一箇所差許ス

右布達候事

沿革要領

明治七年十月第百七號布告ヲ以テ株式取引所條例ヲ創定ス○十一年五月第八號布告ヲ以テ前令ヲ廢シ更ニ株式取引所條例ヲ定ム○十八年十一月第三十八號布告ヲ以テ株式取引所收稅規則ヲ定ム○同年第三十九號布告ヲ以テ株式取引所ニ於テ金銀貨幣取引ヲ禁ス

○取引所條例 二十年五月十四日 勅令第十一號

朕取引所條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

勅令第十一號

取引所條例

第一章 總則

第一條 取引所ハ商業上ノ取引ヲ便利ニシ市價ヲ平準ニシ商業上公正直實ノ風ヲ養成シ商業上ノ慣習ヲ統一維持シ須要ノ報道ヲ傳播シ及取引所會員ノ間ニ生スル爭論ヲ仲裁スルヲ以テ目的トシ商業上便宜必要ノ地方ニ於テ其地方ノ商人農商務大臣ノ特許ヲ得テ設立スルモノトス

第二條 取引所ニ於テ賣買取引スヘキ物件ハ重要ノ商品公債證書證券株式等ニシテ創立員又ハ取引所ノ出願ニ依リ農商務大臣ノ認可シタルモノニ限ル

第三條 取引所ヲ設立スルニハ東京大阪ニ於テハ三十人以上其他ノ地方ニ於テハ十五人以上會員タルヲ得ヘキ者創立員トナリ地方官廳ヲ經テ農商務大臣ニ願出ヘシ

第四條 取引所ハ其賣買取引スヘキ物件ニ就キ之ヲ各部ニ分チ又ハ數物件ヲ合セテ一部トシ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五條 取引所ノ創立ニ係ル費用及之ヲ維持スルニ必要ナル費用ハ會員之ヲ負擔スヘシ

取引所ハ前項ノ費用ヲ補充スル爲メ賣買取引ニ就キ相當ノ手數料ヲ領收スルコトヲ得其手數料ノ割合ハ役員之ヲ議定シテ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ手數料ハ之ヲ分配スルヲ得サルモノトス

第六條 農商務大臣ハ取引所ヲ監督シ地方長官ヲシテ之ヲ監視セシメ其賣買取引法律命令ニ違反シ或ハ公衆ノ安寧ニ妨害アリト認ムルトキハ其全部又ハ幾部ヲ停止若クハ禁止シ其賣買取引ニ關渉シタル役員ヲ罷免シ仲買人ノ營業ヲ停止若クハ禁止シ及會員ヲ一時若クハ永久ニ除名スルコトヲ得

第七條 農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ取引所ノ規約ヲ改正セシメ又ハ決議及處分ヲ停止禁止若クハ取消スコトヲ得

第八條　農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ取引所ニ對シ委員ヲ命シ其一般ノ事務ヲ監察シ取引所ニ關スル法律命令ノ施行ヲ監視シ且其役員ノ集會ヲ整理セシムルコトヲ得

第九條　取引所ハ毎日一定ノ時間ニ於テ商業上ノ集會ヲ開キ其時間外ハ賣買取引ヲ爲スコトヲ許サス

第十條　本條例施行ニ關スル細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第十一條　取引所ノ賣買取引ニ關スル稅則ハ別ニ之ヲ定ム

第二章　會員

第十二條　會員タルコトヲ得ル者ハ其取引所所在ノ地ニ居住スル商人ニシテ會員タルノ義務ヲ盡スコトヲ得ル者ニ限ル會同ニ非サレハ取引所ニ集會シ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ス

第十三條　會員タル者ハ身元保證金三百圓以上三千圓以下ヲ差出スコトヲ要ス

第十四條　左ニ揭クル者ハ會員タルコトヲ得ス

一　婦女及未丁年者

但婦女ノ代理人未丁年者ノ後見人ハ會員タルコトヲ得

二　公權剝奪若クハ停止中ノ者

三　身代限ノ處分ヲ受ケ未タ辨償ノ義務ヲ終ヘサル者

四　第六條第十五條ニ依リ除名セラレタル者

第十五條　會員ニシテ不當ノ擧動ヲ爲シ爲メニ取引所內ニ於テ紛擾爭論ヲ釀スカ法律命令及規約ニ違反シタル不正ノ契約ヲ爲スカ又ハ故意ニ其商業上ノ責任ヲ果サヽルトキハ役員ノ決議ヲ以テ百圓以內ノ過怠金ヲ科シ一時若クハ永久ニ之ヲ除名スルコトヲ得

第三章　役員

第十六條　取引所ニ役員ヲ置クコト左ノ如シ

一　理事長

一　理事

一　常置委員

第十七條　役員ハ一箇年ヲ以テ任期トシ會員中ヨリ投票ヲ以テ選擧シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ但理事長及理事ハ會員ノ決議ニ由リ會員外ヨリ選擧スルコトヲ得

役員任期中ト雖モ其職務ヲ盡サヽルカ又ハ不正ノ所爲アルトキハ會員ノ決議ヲ以テ農商務大臣ノ認可ヲ受ケ退職セシムルコトヲ得

第十八條　理事長及理事ハ取引所ニ於テ賣買取引ヲ爲スコトヲ許サス

第十九條　役員ハ法律命令ノ範圍內ニ於テ農商務大臣ノ認可ヲ經其業務ニ關シ規約ヲ定ムルコトヲ得

第四章　仲買人

第二十條　取引所ニ仲買人ヲ置ク仲買人ハ他人ノ委托ニ由リ賣買取引ヲ爲スヲ以テ業トシ自己ノ爲メニ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ス

第二十一條　仲買人ノ營業ハ一部ニ限リ數部ヲ兼ヌルコトヲ得ス

第二十二條　仲買人タラント欲スル者ハ農商務大臣ノ免許ヲ受クヘシ之ヲ受ケタルトキハ免許料金五十圓ヲ納ムヘシ

第二十三條　仲買人タルヘキ者ハ會員ニシテ營業保證金一千圓以上二萬圓以下ヲ差出スコトヲ要ス

第二十四條　仲買人ニシテ第十五條ニ揭クル所爲アルトキハ役員ノ決議ヲ以テ二百圓以內ノ過怠金ヲ科シ其營業ヲ停止若クハ禁止スルコトヲ得但營業ヲ禁止スルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十五條　仲買人ハ自ラ取引所ノ賣買取引ニ從事スヘシ代理人又ハ手代ヲ使用スルコトヲ得ス

第二十六條　仲買人口錢ノ額ハ役員會議ニ於テ議決シ農商務大臣ノ認可ヲ得テ之ヲ定ム

第五章　賣買取引

第二十七條　取引所ニ於テ爲ス所ノ賣買取引ハ直取引及定期取引ノ二樣トス其方法ハ農商務省令及取引所ノ規約ヲ以テ之ヲ定ム

第二十八條　取引所ニ於テ賣買取引スヘキ物件ノ種類ニヨリ農商務大臣ハ取引所外ニ於テ取引所ノ賣買取引ト同一又ハ類似ノ方法ヲ以テ賣買取引ヲ爲スヲ禁止スルコトヲ得

第二十九條　取引所ニ於テ賣買取引シタル物件ノ相場ヲ以テ公定相場トス

第六章　仲裁

第三十條　取引所ニ於テ爲シタル賣買取引ニ關シ爭論ヲ生スルトキハ役員ニ申告シテ仲裁ヲ受クヘシ但代言人ヲ出スコトヲ得ス

第三十一條　前條ノ場合ニ於テハ常置委員ノ多數決ヲ以テ其爭論ヲ仲裁スヘシ

第三十二條　法律上ノ見解ニ關スルモノヲ除クノ外前條ノ仲裁ニ對シテ裁判所ニ上訴スルコトヲ得ス

第七章　罰則

第三十三條　第五條第三項第九條第十八條第二十條及第二十五條ヲ犯シ又ハ第二十七條ニ依リ農商務省令ヲ以テ定メタル賣買取引法ニ違ヒ賣買取引ヲ爲シタル者ハ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條　第二十八條ニ依リ農商務大臣ノ禁止シタル賣買取引ヲ爲シ又ハ第二十九條ノ公定相場ヲ僞リタル者ハ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本條例ハ明治二十年九月一日ヨリ施行ス但米商會所條例及株式取引所條例ハ米商會所及株式取引所ノ營業滿期ヲ待ツテ廢止スルモノトス

○取引所條例施行細則　二十年六月一日農商務省令第三號

本年五月勅令第十一號取引所條例施行細則左ノ通相定ム

取引所條例施行細則

第一章　總則

第一條　取引所ヲ設立セントスル者ハ設立願書ニ左ノ事項ヲ詳記シ創立員各自署名調印シ地方官廳ニ差出スヘシ

一　取引所ノ名稱及位置
二　設立ヲ要スル事由
三　取引所ノ部分ケ及其各部ニ於テ賣買取引スヘキ物件ノ種類
四　會員タルヲ得ヘキ商人ノ概數及其差入ルヘキ身元保證金額
五　各部仲買人ノ差入ルヘキ營業保證金額
六　賣買取引スヘキ物件集散ノ實況及將來賣買取引高ノ目算
七　取引所設立ニ關スル費用ノ豫算額及徵收ノ方法

第二條　地方長官前條ノ設立願書ヲ受ケタルトキハ其要否ヲ考ヘ創立員ノ身元ヲ糺シ意見ヲ具シ農商務省ニ進達スヘシ

第三條　農商務大臣取引所ノ設立ヲ特許シタルトキハ特許狀ヲ下付スヘシ

第四條　取引所設立ノ特許ヲ得タルトキハ創立員ニ於テ其創立員中ヨリ委員ヲ撰定シ其氏名ヲ農商務省ニ屆出ツヘシ
委員ハ假ニ役員ノ事務ヲ執行シ取引所設立ノ特許ヲ得タル旨ヲ官報又ハ其地方重モナル新聞紙ヲ以テ廣告シ取引所ヲ開クニ付必要ノ準備ヲ爲スヘシ

第五條　會員ノ員數第一條第四項概數ノ十分ノ一以上ニ達スルトキハ總會ヲ開キ役員ヲ選擧スヘシ
役員ハ取引所ノ業務ヲ經理スル爲メ規約ヲ作リ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六條　規約ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ但自餘ノ事項ト雖モ必要ト認ムルモノハ掲載スルコトヲ得

一　取引所ノ名稱及位置
二　取引所各部ノ名稱
三　會員入退及除名ニ關スル規程
四　會員ノ權利義務
五　會員組合ニ關スル規程
六　會員ノ手代入場ニ關スル規程
七　役員ノ員數及其選擧ノ方法
八　役員ノ職務章程
九　仲買人開廢業及營業停止禁止ニ關スル規程
十　仲買人組合ニ關スル規程
十一　仲買人ノ補助員入場ニ關スル規程
十二　仲買口錢ニ關スル規程
十三　身元保證金及營業保證金ニ關スル規程
十四　賣買取引スヘキ物件ノ種類
十五　新株式賣買擧行ニ關スル規程
十六　直取引及定期取引ニ關スル規程
十七　賣買取引受托ニ關スル規程
十八　證據金ニ關スル規程
十九　賣買取引ノ結了ニ關スル規程
二十　市場整理ニ關スル規程
二十一　休暇日及市場開閉時刻ノ定限
二十二　公定相場ニ關スル規程

第十六類　第二章　會社

二十三　會議ニ關スル規程
二十四　帳簿及記錄ニ關スル規程
二十五　取引所ノ經費收支ニ關スル規程
二十六　仲裁ニ關スル規程
二十七　違約處分ニ關スル規程

第七條　役員規約ノ認可ヲ得タルトキハ農商務省ニ届出ノ上賣買取引ヲ開始スヘキモノトス

第八條　取引所ノ位置ヲ移轉セントスルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第九條　取引所ニ關スル一切ノ文書ハ所名ヲ署シ役員ノ印章ヲ捺スヘシ但願伺届其他重要ノ文書ハ理事長之ニ署名調印スヘシ

第二章　會員

第十條　會員タラント欲スルモノハ加入申込書ニ履歴書ヲ添付シ役員ニ差出スヘシ役員ハ其履歴ヲ糺シ身元保證金ヲ差入レシメタル上加入ヲ承諾シ會員名簿ニ記名調印セシメ會員ノ證ヲ交付スヘシ

第十一條　婦女ノ代理人若クハ未丁年者ノ後見人會員タラント欲スルトキハ加入申込書ニ履歴書及委任狀若クハ戸長ノ證認書ヲ添付シ役員ニ差出シ其承諾ヲ請フヘシ但條例第十四條ニ觸ルヽ代理人若クハ後見人ハ會員タルコトヲ得ス

第十二條　商社ノ名義ヲ以テ會員タラント欲スルトキハ代表人ヲ定メ加入申込書ニ商社ノ規約及代表人ノ履歴書ヲ添付シ役員ニ差出シ其承諾ヲ請フヘシ但條例第十四條ニ觸ルヽモノハ代表人タルコトヲ得ス

第十三條　會員退去セントスルトキハ其旨ヲ役員ニ申出ツヘシ役員ハ十日間其旨ヲ市場ニ掲示シ賣買取引其他計算上關係ナキヲ認メタル上承諾ヲ與ヘ身元保證金ヲ返付スヘシ

第十四條　會員ハ役員ノ承諾ヲ得手代ヲシテ入場セシムルコトヲ得

第十五條　會員ハ適宜人員ヲ定メテ組合ヲ爲シ組合中ヨリ委員一名ヲ撰定シ役員ニ届出クヘシ委員ハ其組合會員ノ代議人トナリ取引所總會ニ列スルモノトス

第三章　仲買人

第十六條　仲買人タランコトヲ欲スルモノハ營業願書ヲ役員ニ差出スヘシ役員ハ役員會ヲ開キ過半數ノ同意ヲ得タル上地方官廳ヲ經由シテ其願書ヲ農商務省ニ進達スヘシ

第十七條　農商務大臣ニ於テ仲買人タルコトヲ免許スルトキハ役員ヲ經テ銀章ヲ下付スヘシ役員ハ免許料及營業保證金ヲ差出サシメタル上之ヲ本人ニ交付スヘシ

第十八條　仲買人ハ取引所ニ於テ賣買立會中銀章ヲ佩用スヘシ

第十九條　仲買人ハ自己ノ名義ヲ以テ賣買約定ヲ爲シ其賣買取引上一切ノ責任ヲ負フヘシ

第二十條　仲買人ハ其部内同業者中適宜人員ヲ定メテ組合ヲ爲シ組長一名ヲ撰定シ役員ノ認可ヲ受ケ組合中一切ノ取締ヲ爲サシムヘシ但組長ノ氏名ハ役員ヨリ農商務省ニ届出ヘシ

第二十一條　仲買人ハ其部ノ名稱ヲ冠シ某部仲買人ト稱スヘシ

第二十二條　仲買人ハ役員ノ承諾ヲ得一名若クハ二名ノ補助員ヲシテ取引上ニ於テ其業務ヲ補助セシムルコトヲ得但補助員ハ賣買契約ヲ爲シ又ハ之ヲ執行スルコトヲ得ス

第二十三條　仲買人廢業セント欲スルトキハ其届書ヲ役員ニ差出スヘシ役員ハ十日間其旨ヲ市場ニ掲示シ賣買取引其他計算上關係ナキヲ認メタル上營業保證金ヲ返付シ地方官廳ヲ經由シテ其届書ヲ農商務省ニ進達スヘシ

第二十四條　仲買人其資格ヲ失フタルトキハ本人又ハ相續人若クハ親族ヨリ役員ヲ經由シテ銀章ヲ農商務省ニ返納スヘシ

第二十五條　仲買人銀章ヲ紛失シタルトキハ其事由ヲ詳具シ役員ノ保證ヲ得テ更ニ銀章ノ下付ヲ請フヘシ但此場合ニ於テハ手數料トシテ金拾圓ヲ上納スヘシ

第十六類　第二章　會社

第四章　身元保證金及營業保證金

第二十六條　身元保證金及營業保證金ハ取引所ニ於テ其額ヲ定メ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ農商務大臣ハ時宜ニ由リ其增額ヲ命スルコトアルヘシ

營業保證金ハ各部ニ由リ其額ヲ定ムヘキモノトス

第二十七條　身元保證金及營業保證金ハ左ニ掲クル證書ヲ以テ代用スルコトヲ得但身元保證金ノ預リ證書ハ營業保證金中ニ合算スルコトヲ得

現金ヲ以テ差入レントスルトキハ役員ノ指命スル銀行ニ預ケ入レ其預リ證書ヲ以テ役員ニ差入ルヘシ

一預金局ノ預リ證書

一公債證書

一政府ノ保證アル會社ノ株券

（公債證書ハ農商務大臣株券ハ役員ノ指定スル價格ニ據ルヘシ）

第二十八條　身元保證金及營業保證金ヲ差出シタルトキハ役員ハ預リ證書ヲ付與スヘシ其證書ハ質入書入其他抵當ト爲スコトヲ許サス

第二十九條　身元保證金ニ缺額ヲ生シタルトキハ之ヲ補塡スルニアラサレハ會員タルノ權利ヲ失フモノトス又營業保證金ニ缺額ヲ生シタルトキハ之ヲ補塡スルニアラサレハ仲買人ノ業ヲ營ムコトヲ許サス

第三十條　營業保證金ハ之ヲ差入タル仲買人ニ於テ賣買取引上ノ違約ヲ爲シタルトキ損害辨償ノ用ニ供スルモノトス

身元保證金ハ之ヲ差入タル會員ニ於テ其會員タルノ義務ヲ盡サヽルトキ辨償ノ用ニ供スルモノトス

第三十一條　賣買取引上ヨリ生シタル損害ノ辨償ハ證據金及營業保證金ヲ以テ充テ猶ホ不足アルトキハ被害者ヨリ辨償ノ責ニ當ル本人ニ對シ追求スルヲ得

第五章　役員

第三十二條　理事長ハ理事ヲ率ヒテ取引所全部ノ事務ヲ總轄シ總會及役員會ノ議事ヲ整理シ理事ノ分掌ヲ定メ所屬員ヲ任免シ及規約違反者ヲ處分スルノ權ヲ有シ取引所一切ノ事務ニ付其責ニ任スルモノトス

第三十三條　理事ハ指揮ヲ理事長ニ受ケ各部ノ事務ヲ分掌シ及部下ノ屬員ヲ指揮監督スルノ權ヲ有ス

第三十四條　常置委員ハ取引所全般ノ事務ニ付意見ヲ具シ理事長ヲ輔佐シ金錢ノ出納及他ノ諸役員ノ行爲ヲ監視スルノ權ヲ有ス

第三十五條　理事ハ理事長事故アルトキ其事務ヲ代理スルノ任アルモノトス

第三十六條　會員外ヨリ理事長及理事ヲ選擧シ農商務大臣ノ認可ヲ請フトキハ其願書ニ履歷書ヲ添付スヘシ

會員外ヨリ選擧シタル理事長及理事ハ會員同額ノ身元保證金ヲ役員ニ差出スヘシ

第三十七條　役員ノ印章ハ其印鑑ヲ農商務省ニ屆出ノ上使用スヘシ

第六章　賣買取引法

第三十八條　取引所ニ於テ爲ス所ノ賣買取引ハ現物見本品銘柄ニ據リ賣買約定ヲ爲スヘキモノトス

第三十九條　直取引ハ現物見本品又ハ銘柄ヲ以テ賣買約定ヲ爲スモノトス約定ヲ爲シタルトキハ賣買雙方ヨリ相手方ノ氏名數量直段等ヲ其部理事ニ屆出テ取引所ノ帳簿ニ記入ヲ請ヒ五日以內ニ受渡ヲ爲スヘシ

第四十條　定期取引ハ見本品又ハ銘柄ニ據リ期日ヲ定メテ賣買約定ヲ爲スモノトス

第四十一條　定期取引ノ約定ヲナシタルトキハ賣主ヨリ其記名ノ賣渡證書ヲ買主ニ交付スヘシ但賣買約定ノ高ニ應シ賣渡證書ヲ數葉ニ分割スルコトヲ得

買受ケタルモノヲ他ヘ轉賣セントスルトキハ證書記名者ニ其旨ヲ通知シ證書記名者ニ於テ更ニ證據金ノ差入ヲ請求スルトキハ一定ノ證據金額內ニ於テ證書記名者ノ滿足スル證據金ヲ差入レシムヘシ

第四十二條　定期取引ノ約定ヲナシタルトキハ賣買雙方ヨリ相手方ノ氏名約定期日數量及直段等ヲ詳記シタル書面ヲ以テ其部理事ニ屆出テ取引所ノ帳簿ニ記入ヲ請フヘシ

第四十三條　定期取引ノ約定ヲ堅固ナラシメンカ爲メ賣買主ノ一方ニ於テ證據金ノ差入ヲ必要トスルトキハ相手方ニ其差入ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ其請求者モ亦同額ノ證據金ヲ差入ルヘキモノトス

第四十四條　定期取引ノ期限ハ役員之ヲ定メ農商務省ニ屆出ヘシ

第四十五條　賣買品ノ受渡ハ其部理事立會ノ上執行完結スヘシ

第四十六條　賣買品ノ受渡ハ制法又ハ特許ニ依リ成立シタル倉庫ノ預リ手形ヲ以テ其用ニ供スルコトヲ得

第七章　公定相場

第四十七條　公定相場ハ取引所ニ於テ日々賣買取引スル物件ノ種類ニ依リ左ノ種別ニ從ヒ直取引ト定期取引トヲ區畫シ役員之ヲ調定シ表ヲ作リテ市場ニ掲示スヘシ

寄付相場（賣買立會ノ最初ニ賣買取引シタル一口ノ直段ヲ云フ）

大引相場（賣買立會ノ最終ニ賣買取引シタル一口ノ直段ヲ云フ）

最昂相場（賣買立會中最モ高キ直段ヲ云フ）

最低相場（賣買立會中最モ低キ直段ヲ云フ）

平均相場（賣買立會中相場ノ異ナルモノヲ加ヘ更ニ其數ニテ除シタル直段ヲ云フ）

第八章　取引所經費

第四十八條　取引所ノ創立ニ係ル費用ヲ支辨スル爲メ一時負債ヲ起スコトヲ得此場合ニ於テハ償却ノ方法及年限ヲ定メ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

取引所ノ經費ヲ支辨スル爲ニ賣買取引上ニ就キ手數料ヲ徴收スルノ外各會員ニ賦金ヲ課スルコトヲ得

取引所經費ノ豫算額及其賦課徴收ノ方法ハ總會ニ於テ之ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四十九條　取引所ノ經費ハ毎年兩度收支ノ決算ヲナシ會員一同ニ報告スヘシ

第九章　會議

第五十條　會議ヲ分テ總會役員會ノ二トナス

第五十一條　總會ハ委員一同集會シ毎年二回之ヲ開クモノトス

第五十二條　總會ニ於テ議スヘキ事項ハ左ノ如シ

一　賣買取引上ノ利害得失ニ關スル事項

二　取引所經費ノ豫算額及賦課徴收ノ方法

三　取引所維持ニ關スル事項

四　役員ノ選擧

第五十三條　役員會ハ理事長理事及常置委員集會シテ之ヲ開ク其議スヘキ事項ハ左ノ如シ

一　取引所規約ノ改正

二　仲買人ノ口錢額

三　取引所事務ノ整理及賣買取引ノ便否

四　金錢取扱ノ方法

五　臨時必要ノ事項

第五十四條　總會ハ委員三分ノ一以上ノ請求又ハ理事長ノ意見若クハ常置委員ノ衆議ニ依リ臨時開會スルコトヲ得

第五十五條　總會ハ議員ノ半ニ滿タサレハ議事ヲ開クコトヲ得ス但急遽ノ事件ハ此限ニアラス

第五十六條　會議ハ議員過半數ニ由テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第五十七條　會議ハ理事長之レカ議長トナルヘシ

但條例第十七條後項ノ場合ニ於テハ議員中ヨリ議長ヲ選擧スルコトヲ得

第五十八條　臨時總會ヲ開カントスルトキハ開會ニ先チ議件ヲ詳記シ農商務省ニ屆出ヘシ農商務大臣ハ時宜ニ由リ開議

ヲ差止メ又ハ中止スルコトアルヘシ

第十章　報告

第五十九條　役員ハ左ニ掲クル件々ヲ農商務省ニ報告スヘシ

一　毎日公定相場表

二　毎月賣買景況報告

三　毎半季功程及計算報告

四　毎半季會員入退報告

第六十條　取引所ニ於テ爲ス所ノ賣買取引上ニ異狀アルトキハ其時々役員ヨリ農商務省ニ報告スヘシ

第十一章　帳簿

第六十一條　役員會員及仲買人ハ必要ノ諸帳簿ヲ備ヘ名目用法ヲ農商務省ニ屆出ヘシ其帳簿ハ記載ノ末日ヨリ滿五ヶ年間保存スヘシ

第六十二條　役員會員及仲買人ハ毎日取扱タル事項及金錢ノ出納ヲ帳簿ニ詳記スヘシ農商務大臣ハ時宜ニ由リ帳簿ノ補正ヲ命シ又ハ記載ノ方法ヲ指示スルコトアルヘシ

第十二章　仲裁

第六十三條　仲裁ヲ請フ者アルトキハ理事長ニ於テ常置委員中ヨリ三名以上ノ掛員ヲ撰任シ理事長之カ議長トナリ仲裁ヲ爲スヘシ

仲裁ハ一定ノ期日及時間ニ於テ其事實ヲ審理シ之ヲ爲スモノトス

第六十四條　仲裁ヲ請フ者ハ口頭又ハ書面ヲ以テスルモ妨ケナシ但掛員ニ於テ必要ト認ムル場合ニ於テハ書面ヲ出サシムルコトヲ得

第六十五條　仲裁ヲ請フモノ其取調ヲ受クルトキハ自身出頭スヘシ止ヲ得サル事故アルトキニ限リ會員ハ手代仲買人ハ

補助員ヲ以テ代理クラシムルコトヲ得

第六十六條　仲裁ノ言渡ヲ爲ストキハ掛員一同其言渡書ニ記名調印スヘシ但細事ニ限リ口頭ヲ以テ言渡スモ妨ケナシ

第六十七條　掛員必要ト認ムルトキハ會員及仲買人中ヨリ證據人ヲ召喚スルコトヲ得此場合ニ於テ召喚セラレタルモノハ理由ナク之ヲ辭スルコトヲ得ス

第六十八條　掛員ハ其仲裁ヲ爲シタル事件ヲ詳記シ之ヲ保存スヘシ

第六十九條　掛員ハ仲裁ニ關スル費用ヲ曲者ヨリ差出サシムルコトヲ得

第七十條　掛員ハ會員外ノ者ヲ以テ仲裁事件ノ顧問トナシ又ハ仲裁ノ席ニ參セシムルコトヲ得

第十三章　違犯處分

第七十一條　本則ニ違犯シタル者ハ條例ニ據リ處分セラルヽモノヽ外二圓以上二十五圓以下ノ罰金又ハ二日以上二十五日以下ノ禁錮ニ處ス

○日本銀行條例

（十五年六月二十七日布告第三十二號）

日本銀行條例左ノ通制定ス

日本銀行條例

第一條　日本銀行ハ有限責任トシ本行ノ負債辨償ノ爲メ株主ノ負擔スヘキ義務ハ株金ニ止マルモノトス

第二條　日本銀行ハ本店ヲ東京ニ置クヘシ各府縣ノ首邑其他要用ナル地方ニ支店出張所ヲ設置シ又ハ他ノ銀行ト「コルレスポンデンス」ヲ締約スルヿヲ得但支店出張所ヲ設置シ又ハ他ノ銀行ト「コルレスポンデンス」ヲ締約スルトキハ其事由ヲ大藏卿ニ具狀シテ其許可ヲ

受クヘシ又大藏卿ニ於テ支店出張所ヲ要用ナリトスル時ハ銀行ニ命シテ之ヲ設置セシムルヿアルヘシ

第三條　日本銀行ノ營業年限ハ開業ノ日ヨリ滿三十年トス但株主總會ノ決議ニ依リ營業ノ延期ヲ請願スルヿヲ得

第四條　日本銀行ノ資本金ハ壹千萬圓ト定メ之ヲ五萬株ニ分チ壹株貳百圓トス但株主總會ノ決議ニ依リ資本金ノ增加ヲ請願スルヿヲ得

第五條　日本銀行ノ株券ハ總テ記名券トナシ日本人ノ外賣買讓與スルヲ許サス

第六條　日本銀行ノ株主トナラントスルモノハ大藏卿ノ許可ヲ受クヘシ

第七條　資本金總額五分ノ一即チ貳百萬圓ノ入金アル時ハ營業ヲ開始スルヲ得ヘシ但資本金募集ノ手續ハ定款ヲ以テ定ムル者トス

第八條　營業上ニ於テ損失ヲ生シ資本現入金額ノ內幾分ヲ減少シタル時ハ其事由ヲ審明シ資本入金殘額ヨリ其欠額ニ充ル迄ノ金額ヲ追募スヘシ

第九條　事業ノ申張ニ由リ資本入金ノ增加ヲ要スル時ハ之ヲ資本入金殘額ヨリ追募スヘシ

第十條　純益金總額ヨリ株主割賦金ヲ引去リ其殘額ヨリ少クトモ十分ノ一ヲ左ノ目的ヲ以テ積立金ト爲スヘシ

第一　資本金ノ損失ヲ補フ

第二　割賦金ノ不足ヲ補フ

第十一條　日本銀行ノ營業ハ左ノ如シ

第一　政府發行ノ手形爲換手形其他商業手形等ノ割引ヲ爲シ又ハ買入ヲ爲ス事

第二　地金銀ノ賣買ヲ爲ス事

第三　金銀貨或ハ地金銀ヲ抵當トシテ貸金ヲ爲ス事

第四　豫テ取引約定アル諸會社銀行又ハ商人ノ爲メニ手形金ノ取立ヲ爲ス事

第五　諸預リ勘定ヲ爲シ又ハ金銀貨貴金屬並諸證券類ノ保護預リヲ爲ス事

第六　公債證書政府發行ノ手形其他政府ノ保證ニ係ル各種ノ證券ヲ抵當トシテ當座勘定貸又ハ定期貸ヲ爲ス事但其金額及利子ノ割合ハ總裁副總裁理事監事ニ於テ時々決議シ大藏卿ノ許可ヲ受クヘシ

第十二條　日本銀行ハ第十一條ニ記載スル事業ノ外左ニ揭クル件々ハ勿論其他諸般ノ營業ニ關涉スルヿヲ得ス

第一　不動產及ヒ銀行又ハ諸會社ノ株券ヲ抵當トシテ貸金ヲ爲ス事

第二　日本銀行ノ株券ニ對シテ貸金ヲ爲シ又ハ此株券ノ買戻ヲ爲ス事

第三　諸工業會社ノ株主タルハ勿論直接間接ヲ問ハス工業ニ關係スル事

第四　本支店出張所ヲ開設スル爲メ必要ナル者ノ外一切他ノ不動產ノ所有主タル事

第十三條　政府ノ都合ニ由リ日本銀行ヲシテ國庫金ノ取扱ヒニ從事セシムヘシ

第十四條　日本銀行ハ兌換銀行券ヲ發行スルノ權ヲ有ス但此銀行券ヲ發行セシムル時ハ別

段ノ規則ヲ制定シ更ニ頒布スル者トス

第十五條　日本銀行ハ諸手形及切手ヲ發行スルヲ得ヘシ

第十六條　日本銀行ハ公債證書ヲ買入又ハ之ヲ賣拂フヿヲ得ヘシ但此場合ニ於テハ大藏卿ノ許可ヲ受クヘキモノトス

第十七條　日本銀行ハ總裁一人副總裁一人理事四人ヲ以テ綜理スル者トス此外ニ監事三人乃至五人ヲ置クヘシ

第十八條　總裁副總裁ハ任期五ケ年トシ總裁ハ勅任副總裁ハ奏任トス但任期中ハ他ノ官職ヲ兼任スルヲ得ス

第十九條　理事ハ株主總會ニ於テ選擧シ大藏大臣之ヲ命シ監事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選擧ス理事ノ任期ハ四年トシ監事ノ任期ハ三年トス（二十三年八月八日法律第六十一號ヲ以テ本條ヲ改正ス）理事監事ハ任期中他ノ銀行又ハ會社等ノ役員タルヲ許サス

第二十條　總裁ハ毎半期ニ通常株主總會ヲ招集ス

總裁ハ臨時ノ事項ヲ議スル爲メ必要ト認ムルトキハ臨時株主總會ヲ招集ス（上同）

總裁ハ監事ノ全員又ハ株主總會ノ會員タル者五十名以上ヨリ會議ノ目的ヲ示シテ請求スルトキハ臨時株主總會ヲ招集セサルコトヲ得ス

株主總會ノ會員ハ開會ノ六十日前ヨリ引續キ十株以上ヲ所有スル者ニ限ル

株主總會ニ於テハ會員ニ代理ヲ委託スルノ外他人ヲ以テ代理人トナスコトヲ得ス

株主總會ノ會員ハ株數十箇ニ付投票一箇ノ權利ヲ有ス十一株以上ハ五十株毎ニ一箇ノ投票權ヲ增加ス但他人ノ代理委託ヲ受クル者ハ其代理ニ屬スル權利ハ十箇以上ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十一條　大藏卿ハ特ニ管理官ヲ日本銀行ニ派出シテ諸般ノ事務ヲ監視セシムヘシ

第二十二條　日本銀行ハ本支店出張所及約定店等ノ營業上百般ノ景況ヲ調査シ少クモ毎月一回之ヲ大藏卿ヘ報告ス可シ

第二十三條　日本銀行ハ本條例ノ旨趣ニ基キ銀行定款ヲ作リ政府ノ許可ヲ受ク可シ但定款ヲ改正シ又ハ定款外ノ事件ヲ處スル時ハ株主總會ニ於テ決議シ政府ノ許可ヲ受ク可シ

第二十四條　政府ハ日本銀行諸般ノ業務ヲ監督シ其營業上條例定款ニ背戻スル事ハ勿論政府ニ於テ不利ト認ル事件ハ之ヲ制止スヘシ

第二十五條　此條例ヲ改正增削スル時ハ其施行ノ日ヨリ三ケ月以前ニ之ヲ布告スヘシ

右奉　勅旨布告候事

○國立銀行條例（九年八月一日布告第百六號）

明治五年十一月第三百四十九號布告國立銀行條例ノ儀詮議ノ次第有之別冊ノ通改正致シ舊條例ハ自今相廢シ候條新ニ國立銀行ヲ創立セントスル者ハ勿論從來舊條例ヲ遵奉シテ創立シタル者ト雖モ右改定條例ニ準據シ大藏省ヘ願出ノ上其免許ヲ受候樣可致此旨布告候事

（別冊）